

中央区  
子育て支援に関するニーズ調査  
調査報告書  
【概要版】

令和6(2024)年3月

中央区



# 目 次

第1章 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査対象	1
3 調査方法	1
4 調査時期	1
5 回収数（回収率）	1
6 調査結果の見方	1
第2章 調査結果	2
I 就学前児童保護者調査	2
1 お子さんご家族の状況	2
2 子どもの育ちをめぐる環境	3
3 保護者の就労状況	5
4 平日の定期的な施設・事業の利用状況	7
5 平日夜間・土曜・休日などの「定期的」な施設・事業の利用希望	12
6 地域の子育て支援事業の利用状況	13
7 病気やケガの際の対応	17
8 不定期の子育て支援事業の利用	19
9 育児休業の取得状況	23
10 妊娠中・産後の状況	26
11 地域における子育て	28
12 子育てに関する意識	29
II 小学校児童保護者調査	35
1 お子さんご家族の状況	35
2 子どもの育ちをめぐる環境	36
3 保護者の就労状況	38
4 地域の子育て支援事業の利用状況	40
5 病気やケガの際の対応	42
6 不定期の子育て支援事業の利用	45
7 放課後の過ごし方	48
8 地域における子育て	53
9 子育てに関する意識	54



# 第1章 調査概要

## 1 調査目的

本調査は、令和7年度から11年度までの5か年度を計画期間とする「第三期中央区子ども・子育て支援事業計画」の策定を令和6年度に予定しており、区民の子育てニーズや確保を図るべき教育・保育施設・子育て支援サービスの量の見込みなどの算定の基礎となる資料を収集するため実施する。

## 2 調査対象

調査名		調査対象
調査①	子育て支援に関するニーズ調査 (就学前児童保護者調査)	就学前児童を持つ保護者、5,262人 (調査時0～5歳人口の約50%)
調査②	子育て支援に関するニーズ調査 (小学校児童保護者調査)	小学校児童を持つ保護者、4,887人 (調査時6～11歳人口の約50%)

## 3 調査方法

郵送配布－郵送回収・インターネット回答(督促礼状1回送付)

## 4 調査時期

令和5(2023)年10月30日(月)～11月24日(金)

## 5 回収数(回収率)

調査名		発送数 (票)	回収・回答数 (率)	内訳	
				郵送 回収数(率)	インターネット 回答数(率)
調査①	子育て支援に関するニーズ調査 (就学前児童保護者調査)	5,262	2,384 (45.3%)	979 (18.6%)	1,405 (26.7%)
調査②	子育て支援に関するニーズ調査 (小学校児童保護者調査)	4,887	2,130 (43.6%)	920 (18.8%)	1,210 (24.8%)

## 6 調査結果の見方

- ・ 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN(Number of case)、それ以外の場合にはnと表記している。
- ・ %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合(例えば99.9%、100.1%)がある。
- ・ 回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%の合計は100%にならないことがある。
- ・ 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略されている。

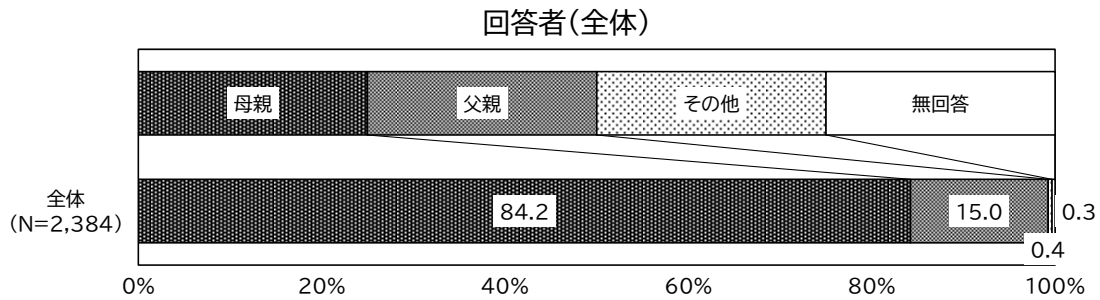
## 第2章 調査結果

### I 就学前児童保護者調査

#### 1 お子さんのご家族の状況

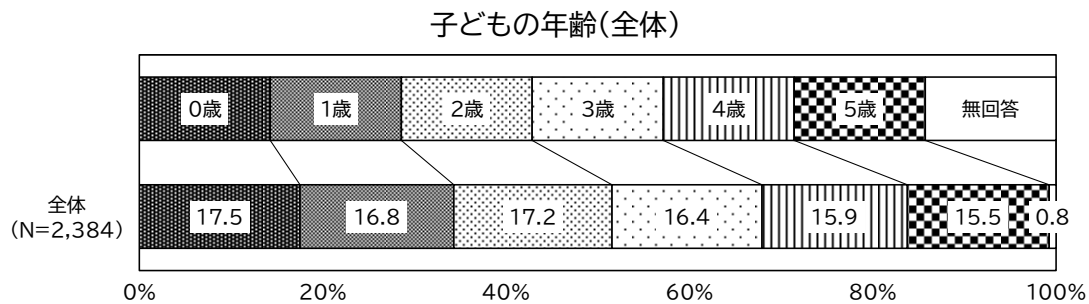
##### (1) 回答者

回答者は、「母親」が84.2%、「父親」が15.0%となっている。



##### (2) あて名の子どもの年齢

あて名の子どもの年齢は、平均 2.4 歳となっている。

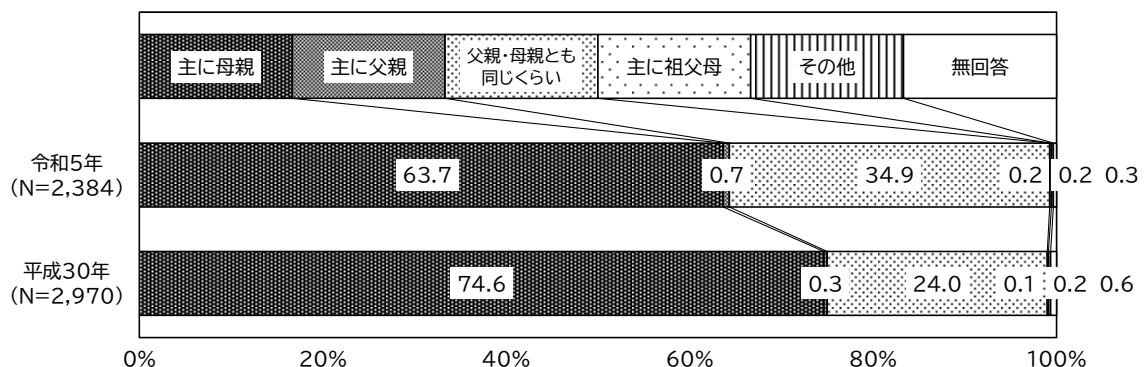


##### (3) 子育てを主に行っている人

子育てを主に行っている人は、「主に母親(63.7%)」が最も高く、「父親・母親とも同じくらい(34.9%)」が続いている。

平成 30 年調査と比較すると、令和5年調査では「主に母親(74.6%→63.7%)」の割合が低くなり、「父親・母親とも同じくらい(24.0%→34.9%)」の割合が高くなっている。

子育てを主に行っている人(全体)【経年比較】



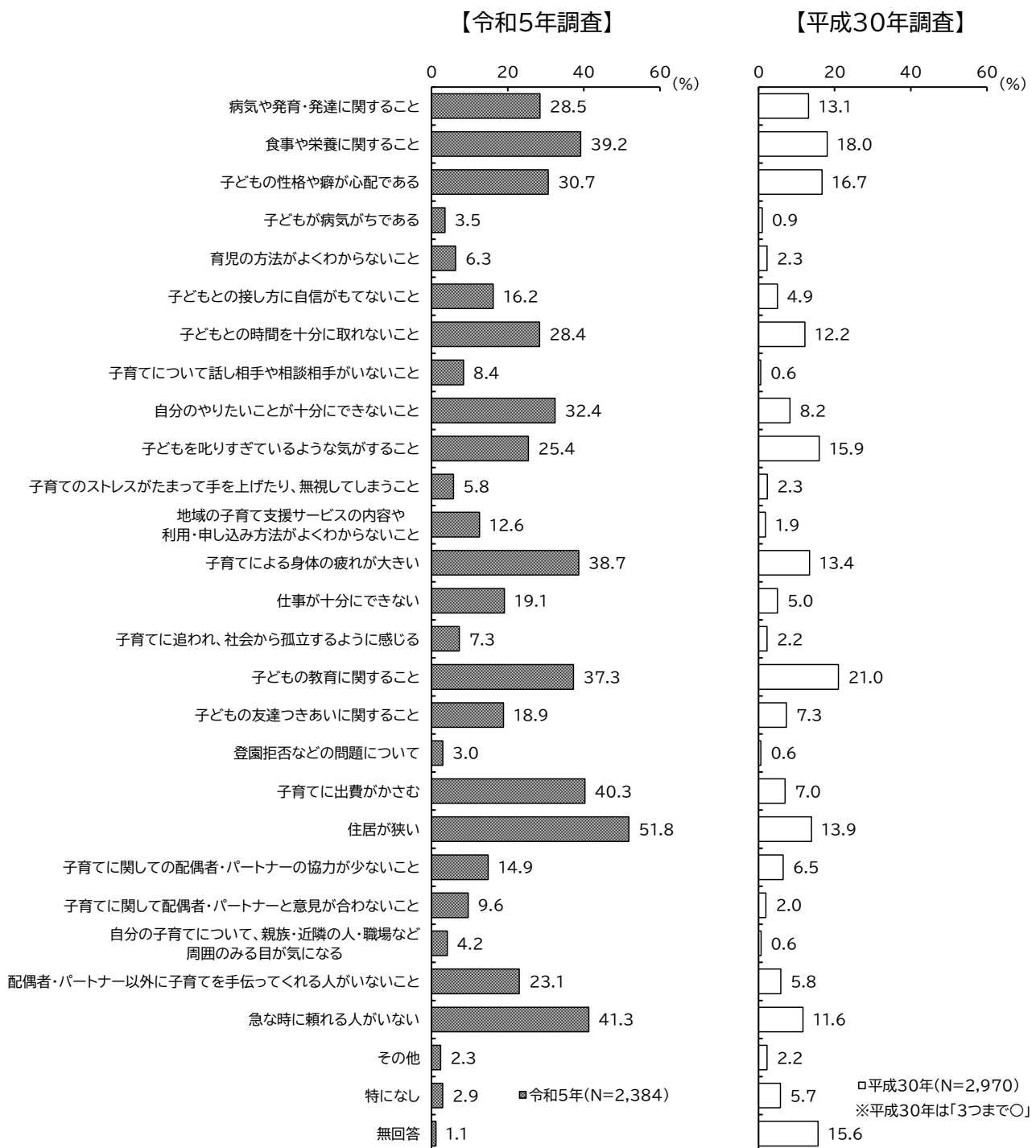
## 2 子どもの育ちをめぐる環境

### (1) 子育てに関する悩みや気になること

子育てに関する悩みや気になることは、「住居が狭い(51.8%)」が最も高く、「急な時に頼れる人がいない(41.3%)」、「子育てに出費がかさむ(40.3%)」が続いている。

平成30年調査は回答が3つまでという制限を設けているが、「子どもの教育に関すること」が最も高く、令和5年調査で最も高かった「住居が狭い」は5位となっている。

子育てに関する悩みや気になること(全体):複数回答【経年比較(平成30年は3つまで〇)】



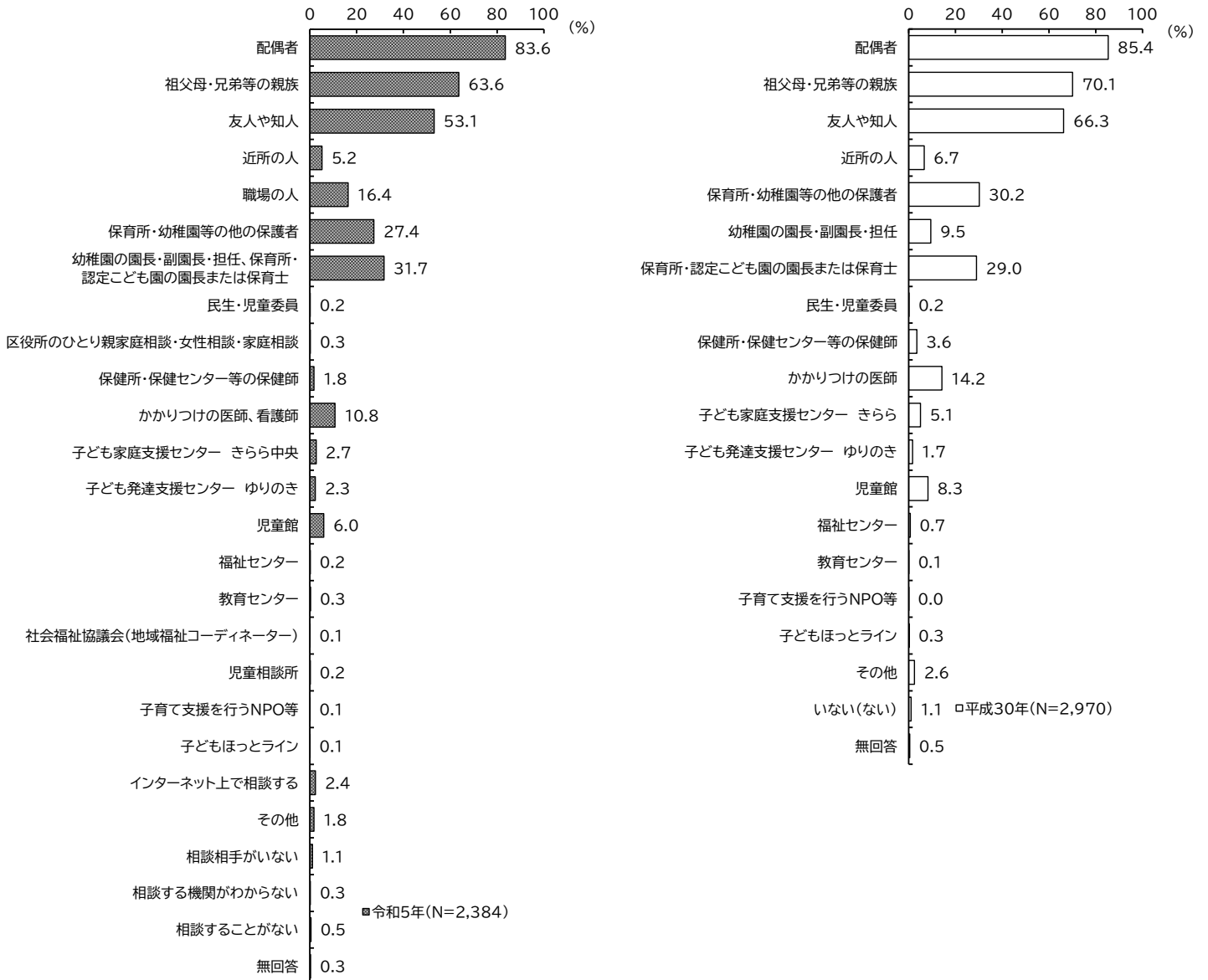
## (2)子育てに関して気軽に相談できる人や場所

子育てに関して気軽に相談できる人や場所は、「配偶者(83.6%)」が最も高く、「祖父母・兄弟等の親族(63.6%)」、「友人や知人(53.1%)」が続いている。「相談相手がいない」は1.1%となっている。平成30年調査においても、上位の項目は同様となっている。

子育てに関して気軽に相談できる人や場所(全体):複数回答【経年比較】

【令和5年調査】

【平成30年調査】



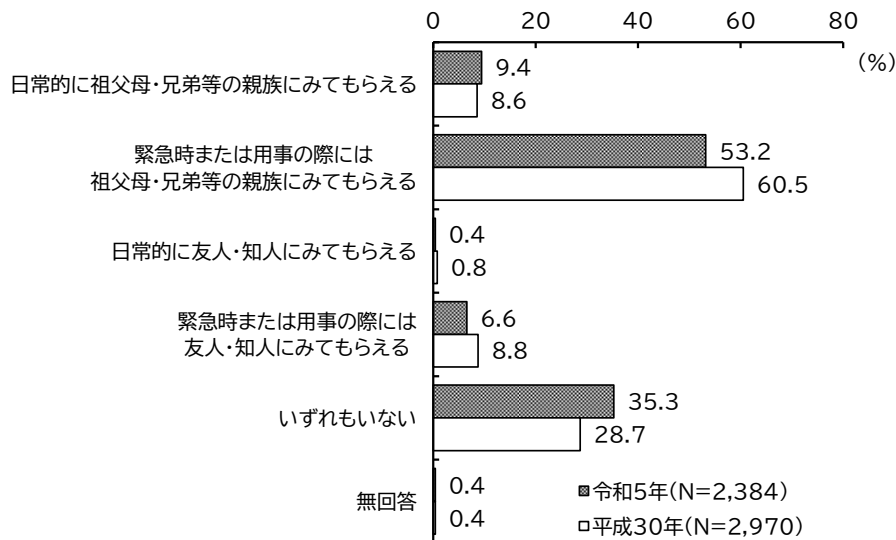


### (3)子どもを保護者に代わってみてくれる親族・知人の有無

子どもを保護者に代わってみてくれる親族・知人の有無は、「緊急時または用事の際には祖父母・兄弟等の親族にみてもらえる(53.2%)」が5割台であり、「日常的に祖父母・兄弟等の親族にみてもらえる(9.4%)」、「緊急時または用事の際には友人・知人にみてもらえる(6.6%)」は1割以下となっている。また、「いずれもない」は35.3%となっている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では「いずれもない(28.7%→35.3%)」の割合が高くなっている。

子どもを保護者に代わってみてくれる親族・知人の有無(全体):複数回答【経年比較】



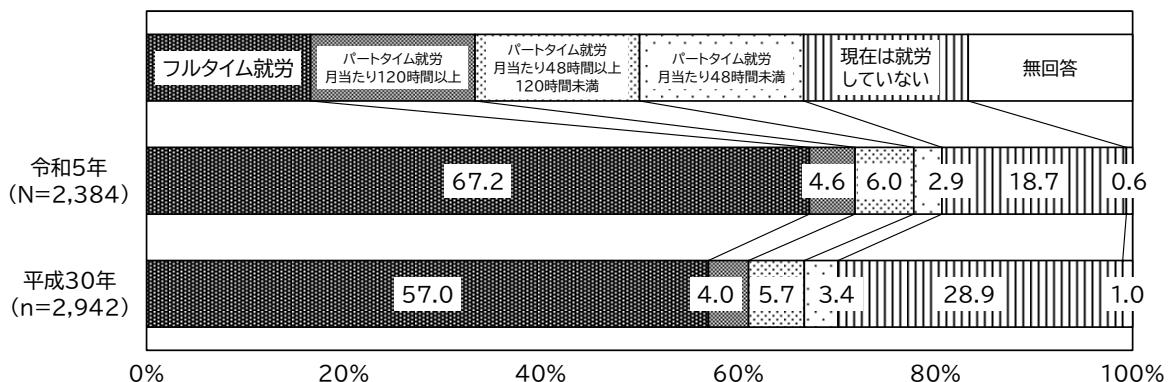
## 3 保護者の就労状況

### (1)母親の現在の就労状況

母親の現在の就労状況は、「フルタイム就労(67.2%)」が6割台で最も高く、「現在は就労していない(18.7%)」が続いている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では「フルタイム就労(57.0%→67.2%)」の割合が高くなり、「現在は就労していない(28.9%→18.7%)」の割合が低くなっている。

母親の現在の就労状況(全体)【経年比較】

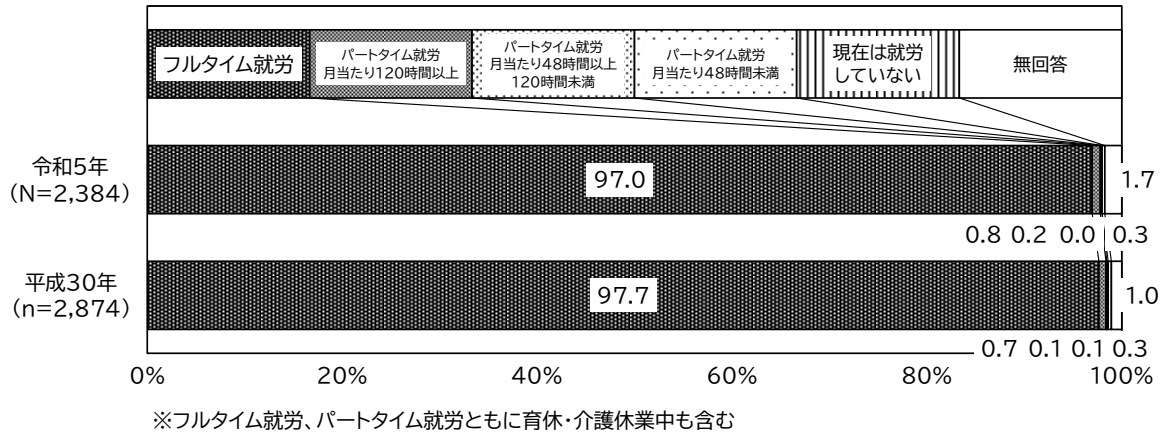


※フルタイム就労、パートタイム就労ともに育休・介護休業中も含む

## (2) 父親の現在の就労状況

父親の現在の就労状況は、「フルタイム就労(97.0%)」で最も高くなっている。  
平成30年調査と同様の傾向である。

父親の現在の就労状況(全体)【経年比較】



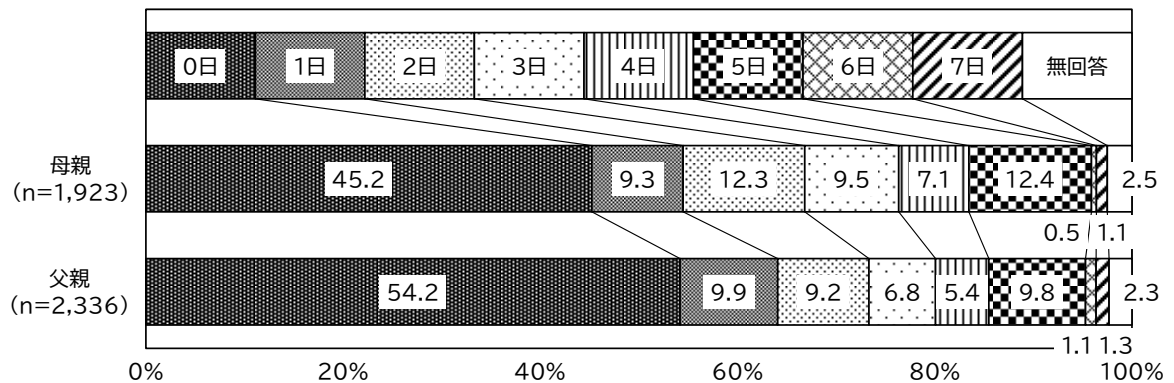
## (3) 母親・父親の1週間当たりの在宅勤務日数

就労している母親の1週間当たりの在宅勤務日数は、「0日(45.2%)」が4割台であり、「7日(12.4%)」と「2日(12.3%)」が1割を超えている。平均は1.7日である。

就労している父親の1週間当たりの在宅勤務日数は、「0日(54.2%)」が過半数であり、「1日(9.9%)」、「7日(9.8%)」の順となっている。平均は1.4日である。

母親・父親の1週間当たりの在宅勤務日数(全体)

<就労している人>



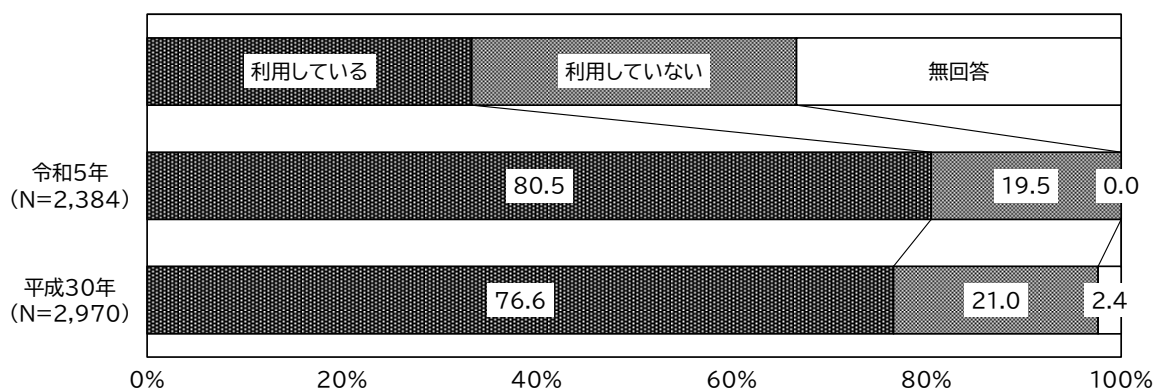
## 4 平日の定期的な施設・事業の利用状況

### (1) 幼稚園や保育所などの施設・事業の定期的利用の有無

幼稚園や保育所などの施設・事業の定期的利用の有無は、「利用している」が 80.5%となっている。

平成 30 年調査と比較すると、令和5年調査では「利用している(76.6%→80.5%)」の割合が高くなっている。

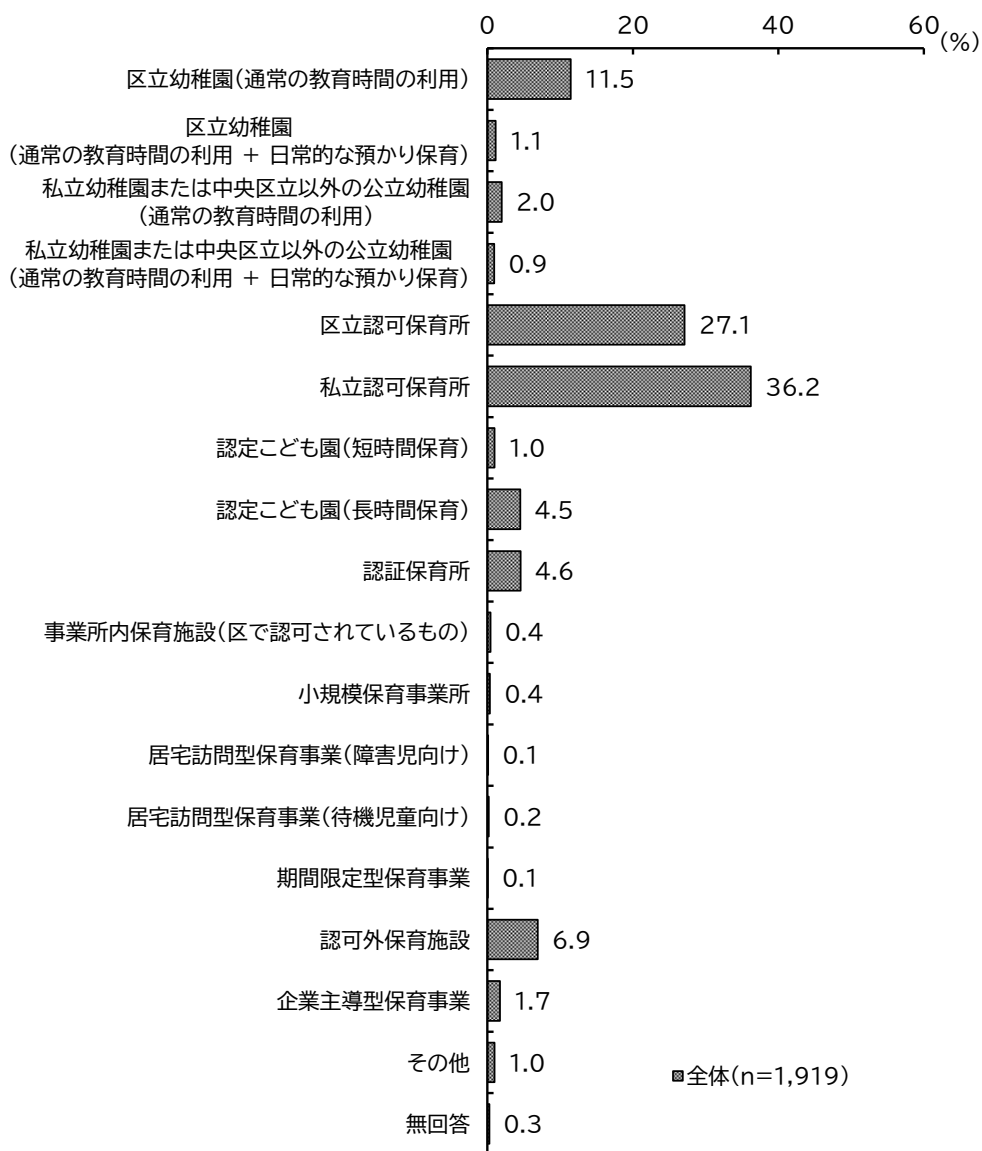
幼稚園や保育所などの施設・事業の定期的利用の有無(全体)【経年比較】



## (2) 定期的に利用している施設・事業

定期的に利用している施設・事業は、「私立認可保育所(36.2%)」が最も高く、「区立認可保育所(27.1%)」、「区立幼稚園(通常の教育時間の利用)(11.5%)」が続いている。

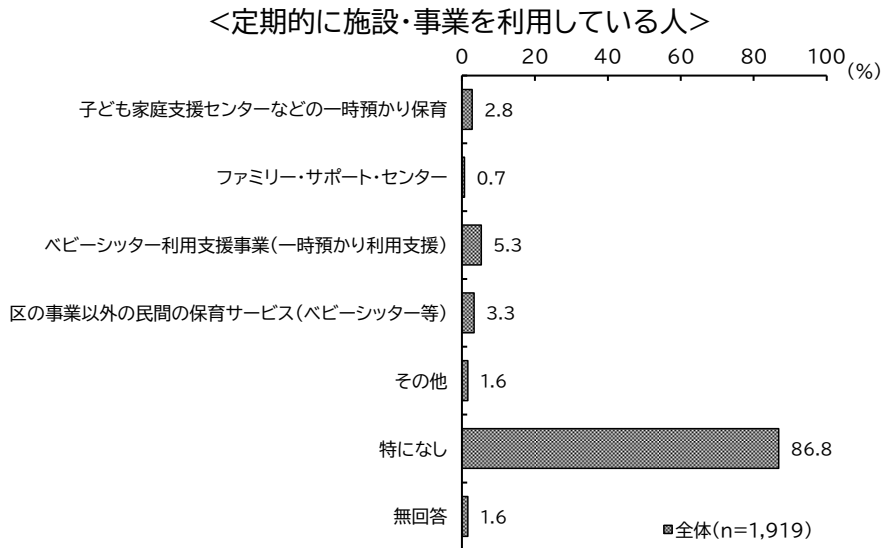
定期的に利用している施設・事業(全体)



### (3) 定期的に利用している施設・事業に加えて利用している事業

定期的に施設・事業を利用している人に、定期的利用の施設・事業に加えて利用している事業の有無をたずねたところ、「特になし(86.8%)」が8割台であり、利用している事業では「ベビーシッター利用支援事業(一時預かり利用支援)(5.3%)」が最も高く、「区の事業以外の民間の保育サービス(ベビーシッター等)(3.3%)」、「子ども家庭支援センターなどの一時預かり保育(2.8%)」が続いている。

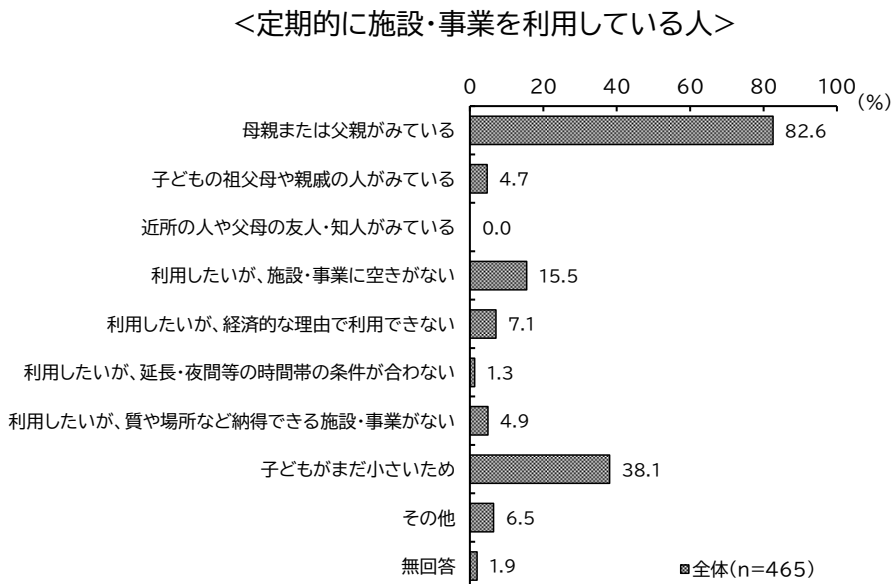
定期的利用の施設・事業に加えて利用している事業の有無(全体):複数回答



### (4) 定期的に施設・事業を利用していない理由

定期的な施設・事業を利用していない人に、定期的な施設・事業を利用していない理由をたずねたところ、「母親または父親がみている(82.6%)」が最も高く、「子どもがまだ小さいため(38.1%)」、「利用したいが、施設・事業に空きがない(15.5%)」が続いている。

定期的な施設・事業を利用していない理由(全体):複数回答



## (5) 定期的に利用したい施設・事業(0～5歳の各歳別)

定期的に利用したい施設・事業は、0歳では、「保護者が子どもを見られるため、利用を希望しない(41.5%)」が最も高く、「区立認可保育所(27.7%)」、「ベビーシッター(12.3%)」が続いている。

1歳では、「区立認可保育所(33.4%)」が最も高く、「私立認可保育所(22.8%)」、「保護者が子どもを見られるため、利用を希望しない(14.0%)」が続いている。

2歳では、「区立認可保育所(35.2%)」が最も高く、「私立認可保育所(23.7%)」、「認定こども園(長時間保育)(11.0%)」が続いている。

3歳では、「区立認可保育所(25.9%)」が最も高く、「私立認可保育所(24.0%)」、「認定こども園(長時間保育)(11.5%)」が続いている。

4歳では、「区立認可保育所(24.6%)」が最も高く、「私立認可保育所(23.3%)」、「区立幼稚園(通常の教育時間の利用+日常的な預かり保育)(12.6%)」、「認定こども園(長時間保育)(12.6%)」が続いている。

5歳では、「区立認可保育所(24.5%)」が最も高く、「私立認可保育所(23.3%)」、「区立幼稚園(通常の教育時間の利用+日常的な預かり保育)(13.2%)」が続いている。

なお、保育所・事業・施設、認定こども園(長時間)、ベビーシッター等を希望する割合は、0歳で55.4%、1歳で80.6%、2歳で83.6%、3歳で68.9%、4歳で68.4%、5歳で67.8%となっている。一方、幼稚園、認定こども園(短時間)等を希望する割合は、3歳で28.3%、4歳で30.2%、5歳で30.6%となっている。

### 定期的に利用したい施設・事業(0～5歳の各歳別)(全体)

<該当の年齢以下で回答があった人>

(%)

	区立幼稚園(通常の教育時間の利用)	区立幼稚園(通常の教育時間の利用+日常的な預かり保育)	私立認可保育所(通常)	私立認可保育所(中央区立以外の公立幼稚園(通常))	私立認可保育所(中央区立以外の公立幼稚園(通常)+日常的な預かり保育)	区立認可保育所	私立認可保育所	認定こども園(短時間保育)	認定こども園(長時間保育)	認定こども園(長時間保育)	事業所内保育施設(区で認可されているもの)	小規模保育事業所	居宅訪問型保育事業(障害児向け)	居宅訪問型保育事業(待機児童向け)	認可外保育施設	企業主導型保育事業	ベビーシッター	保護者が子どもを見られるため、利用を希望しない	就労はしているが、在宅勤務や子連れ出勤をしていないため、教育・保育事業の利用を希望しない	その他
0歳の4月1日 (n= 65)	0.0	0.0	0.0	0.0	27.7	9.2	1.5	1.5	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	12.3	41.5	1.5	0.0	
1歳の4月1日 (n= 413)	1.0	1.2	0.5	0.0	33.4	22.8	1.2	10.9	2.9	0.2	0.2	0.0	0.2	1.0	1.5	7.5	14.0	1.0	0.5	
2歳の4月1日 (n= 776)	1.8	1.8	1.2	1.0	35.2	23.7	0.9	11.0	3.7	0.4	0.5	0.0	0.1	3.7	1.3	4.0	8.1	0.9	0.6	
3歳の4月1日 (n=1,200)	8.9	11.3	2.8	3.9	25.9	24.0	1.4	11.5	1.9	0.3	0.2	0.1	0.0	3.7	0.3	1.2	1.3	0.3	1.3	
4歳の4月1日 (n=1,531)	9.2	12.6	2.9	4.1	24.6	23.3	1.4	12.6	1.9	0.1	0.1	0.1	0.0	4.0	0.4	1.4	0.3	0.0	1.2	
5歳の4月1日 (n=1,826)	9.4	13.2	2.9	3.6	24.5	23.3	1.5	11.7	1.9	0.2	0.1	0.1	0.1	4.2	0.4	1.4	0.2	0.2	1.3	

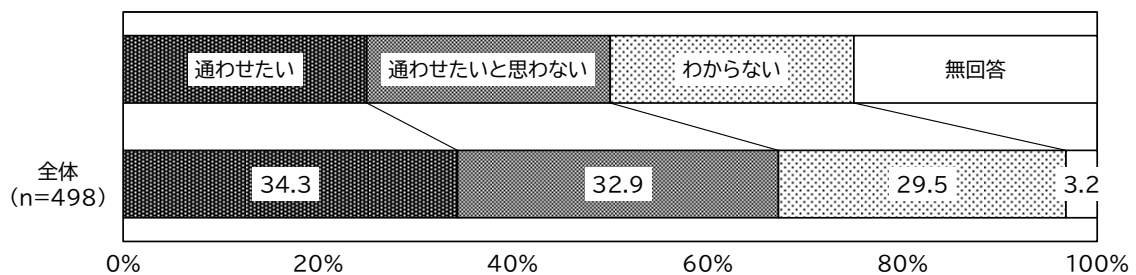
※来年度小学校に就学予定(2017年4月2日～2018年4月1日生まれ)のお子さんを除く。

## (6) 保育園利用希望者の幼稚園預かり保育への意向

### ◆ 預かり保育を利用できる場合の幼稚園の利用意向

3～5歳の間でなんらかの保育事業を利用したい人に、預かり保育を利用できる場合の幼稚園の利用意向をたずねたところ、「通わせたい(34.3%)」、「通わせたいと思わない(32.9%)」、「わからない(29.5%)」がいずれも3割前後となっている。

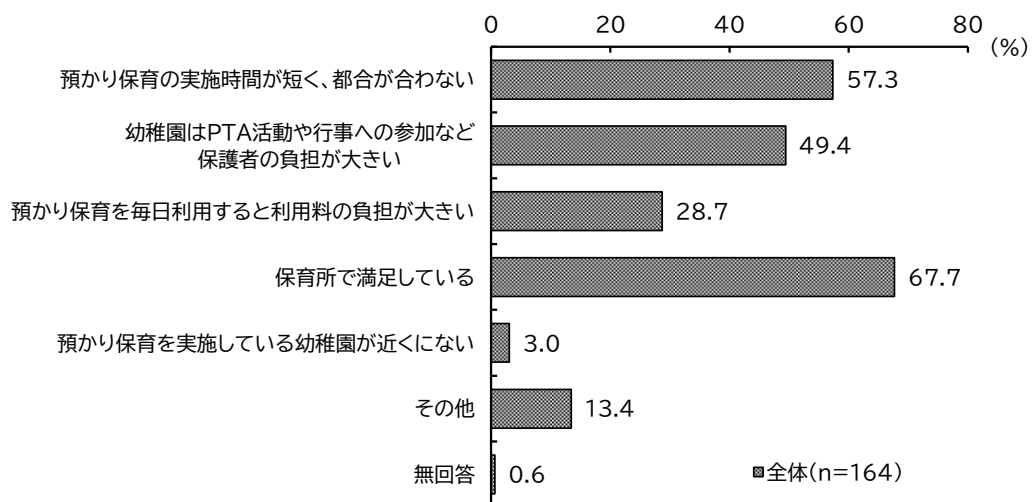
預かり保育を利用できる場合の幼稚園の利用意向(全体)  
 <3～5歳の間でなんらかの保育事業を利用したい人>



### ◆ 通わせたいと思わない理由

3～5歳の間でなんらかの保育事業を利用したい人で、預かり保育を利用できても幼稚園に通わせたいと思わない人に、通わせたいと思わない理由をたずねたところ、「保育所で満足している(67.7%)」が最も高く、「預かり保育の実施時間が短く、都合が合わない(57.3%)」、「幼稚園はPTA活動や行事への参加など保護者の負担が大きい(49.4%)」が続いている。

通わせたいと思わない理由(全体):複数回答  
 <3～5歳の間でなんらかの保育事業を利用したい人で、  
 預かり保育を利用できても幼稚園に通わせたいと思わない人>



## 5 平日夜間・土曜・休日などの「定期的」な施設・事業の利用希望

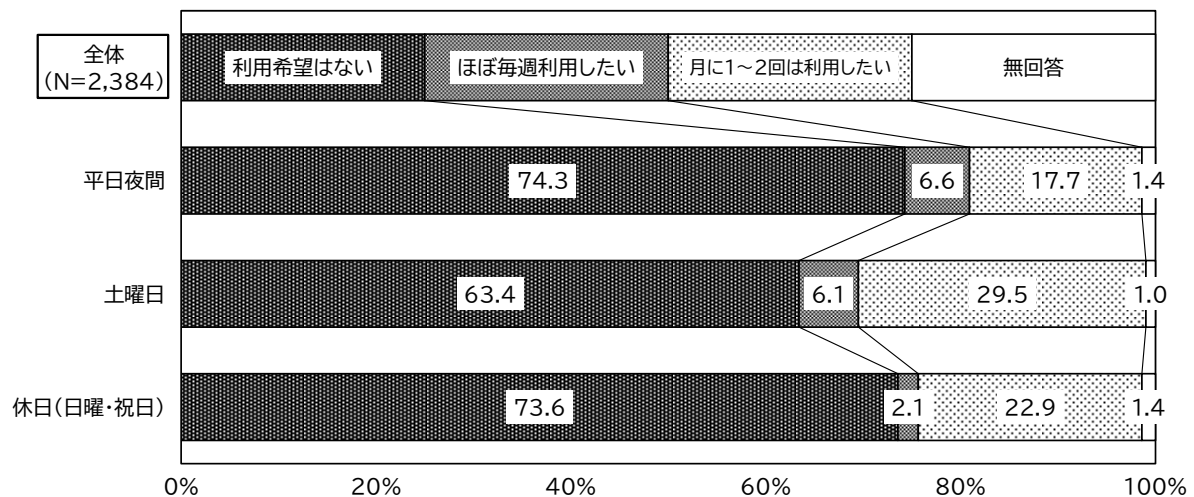
### (1) 平日夜間・土曜・休日の「定期的」な施設・事業の利用希望

平日夜間の「定期的」な施設・事業の利用希望は、「ほぼ毎週利用したい(6.6%)」と「月に1~2回は利用したい(17.7%)」を合計すると24.3%となっている。

土曜日の「定期的」な施設・事業の利用希望は、「ほぼ毎週利用したい(6.1%)」と「月に1~2回は利用したい(29.5%)」を合計すると35.6%となっている。

休日(日曜・祝日)の「定期的」な施設・事業の利用希望は、「ほぼ毎週利用したい(2.1%)」と「月に1~2回は利用したい(22.9%)」を合計すると25.0%となっている。

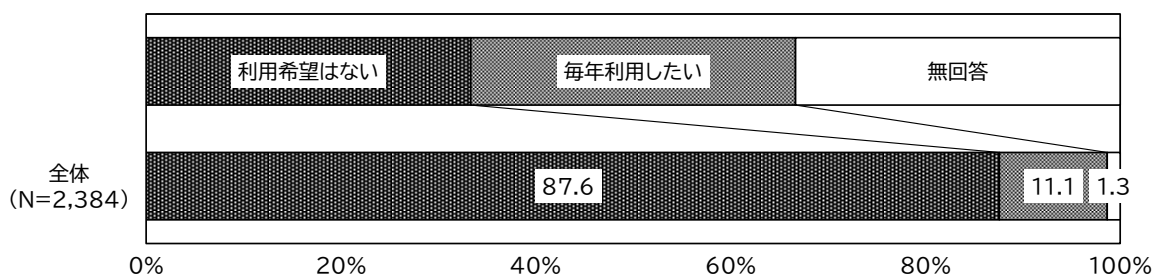
平日夜間の「定期的」な施設・事業の利用希望(全体)



### (2) 年末年始の「定期的」な施設・事業の利用希望

年末年始の「定期的」な施設・事業の利用希望は、「毎年利用したい」が11.1%となっている。

年末年始の利用希望(全体)





## 6 地域の子育て支援事業の利用状況

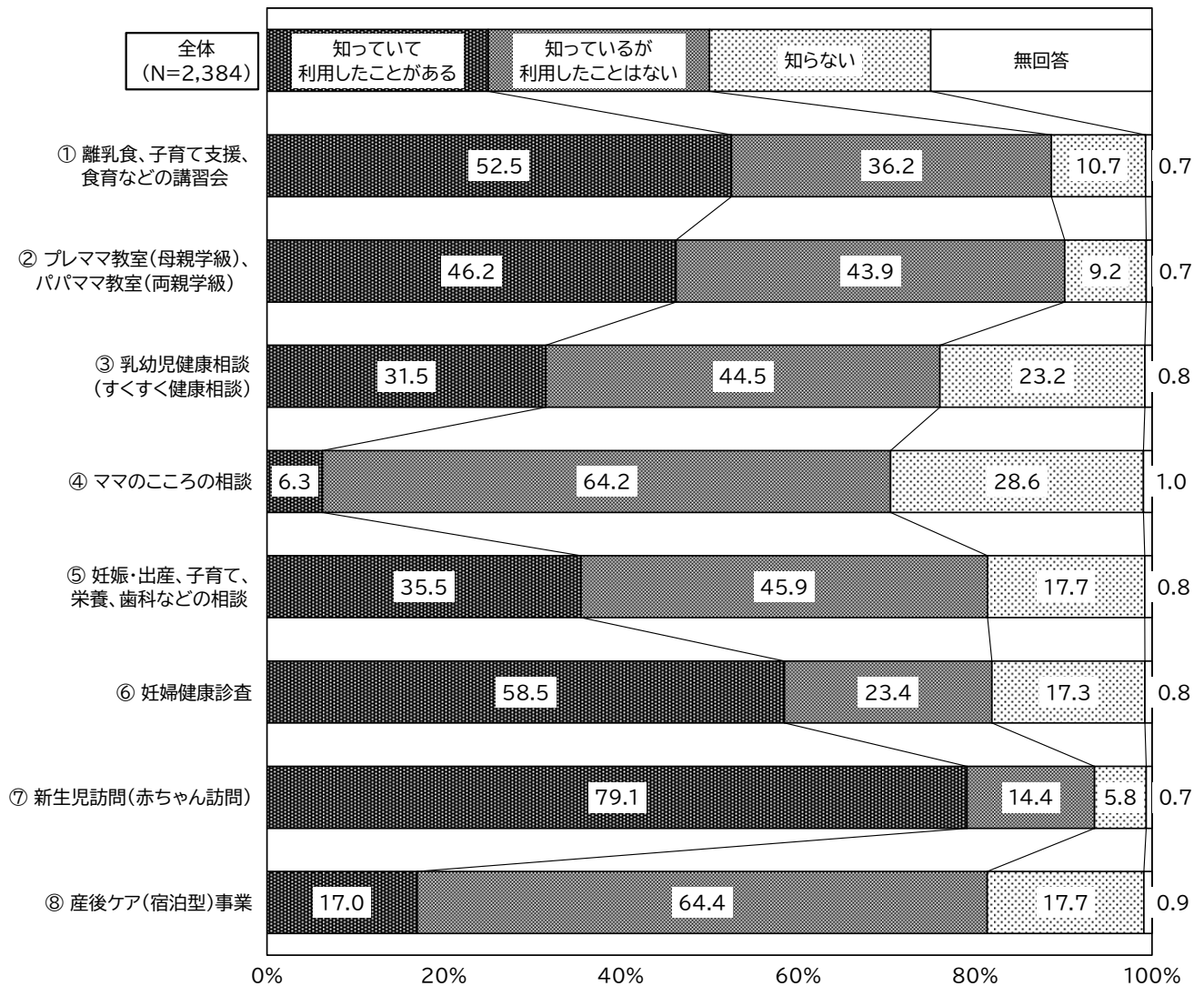
### (1) 地域子育て支援事業の認知度・利用状況、利用意向

#### ◆ 認知度・利用状況

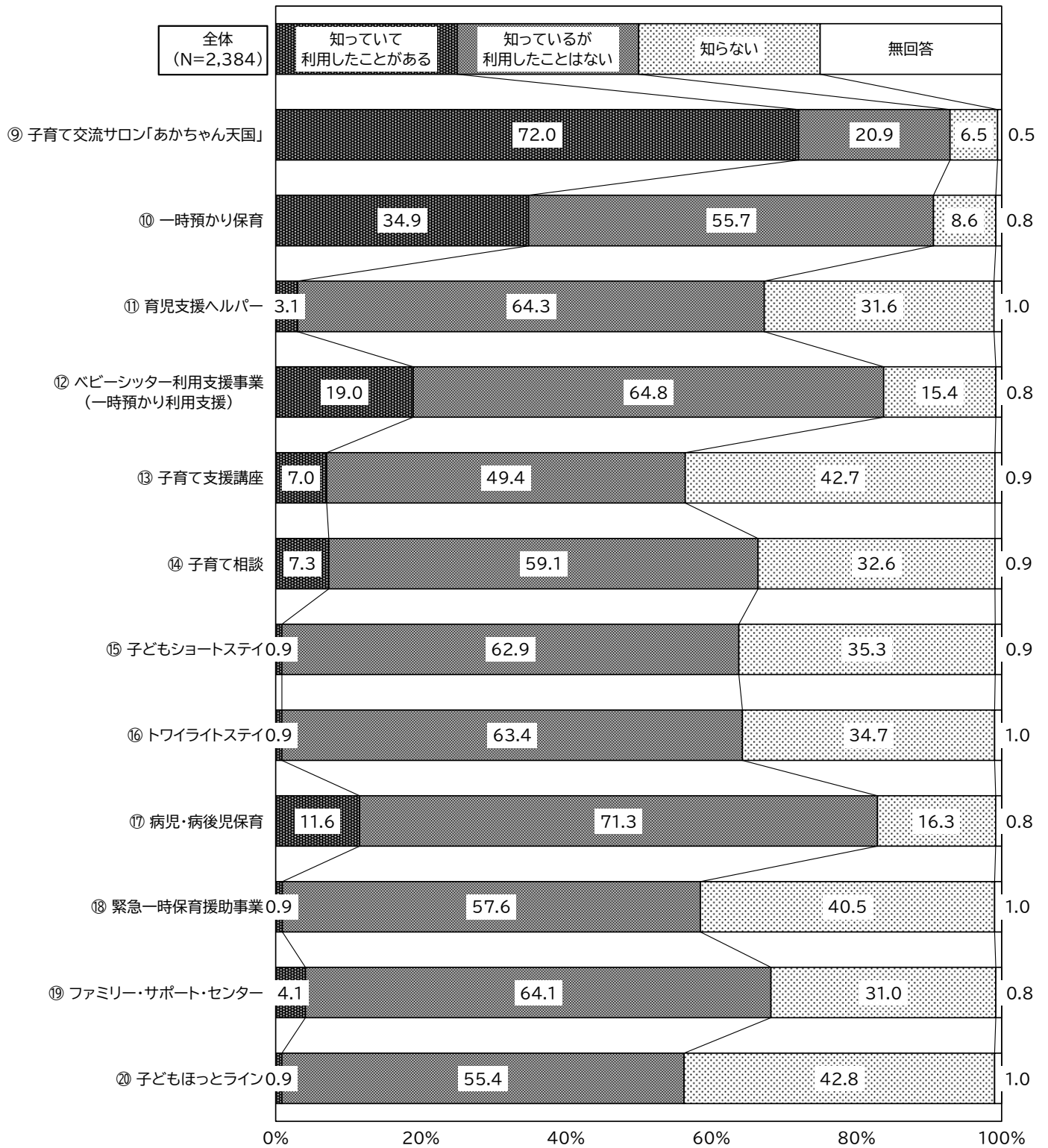
地域子育て支援事業の認知度・利用状況は、「知っているが利用したことがある」の割合は、『⑦ 新生児訪問(赤ちゃん訪問)(79.1%)』が最も高く、『⑨ 子育て交流サロン「あかちゃん天国」(72.0%)』、『⑥ 妊婦健康診査(58.5%)』、『① 離乳食、子育て支援、食育などの講習会(52.5%)』までが5割を超えている。

また、「知らない」の割合は、『⑩ 中央区地域家庭教育推進協議会が開催する家庭教育学習会(78.9%)』が最も高く、『⑩ 教育センターの教育相談(78.2%)』、『③ 赤ちゃん・ふらっと(61.6%)』、『⑫ 子ども発達支援センター ゆりのき(61.6%)』が続いている。

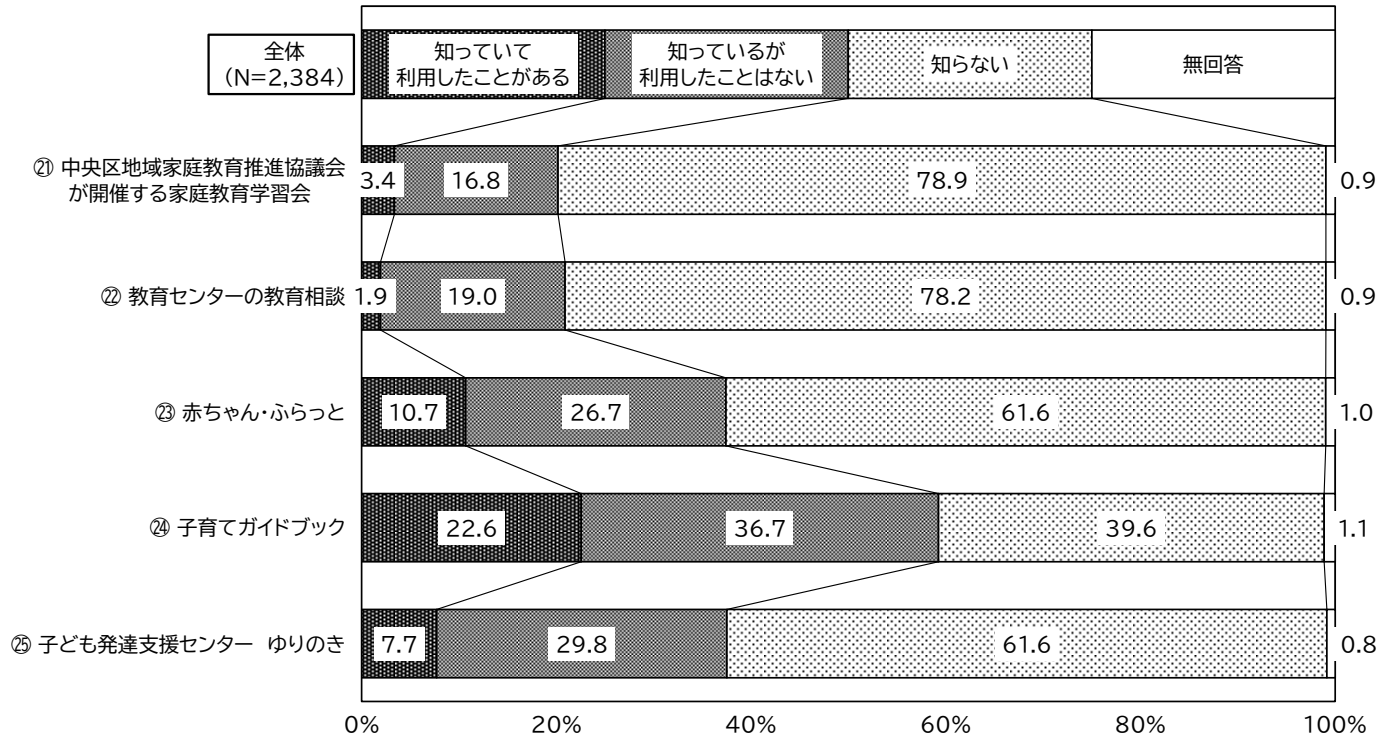
地域子育て支援事業の認知度・利用状況(保健所・保健センター①～⑧)(全体)



地域子育て支援事業の認知度・利用状況(子ども家庭支援センター きらら中央⑨~⑳)(全体)



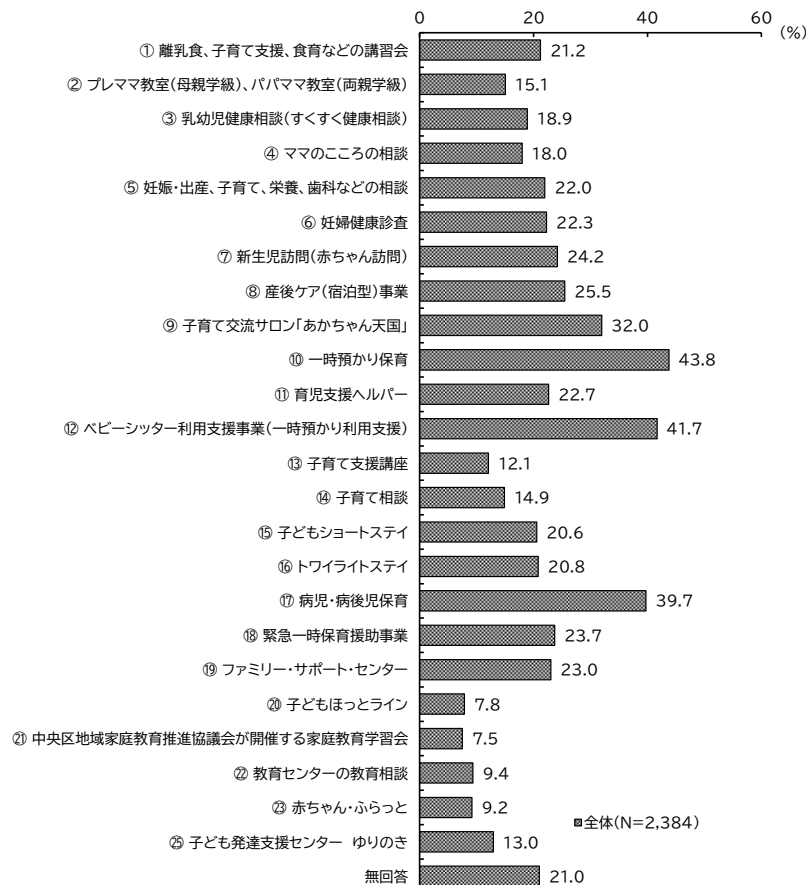
地域子育て支援事業の認知度・利用状況(㉑～㉕)(全体)



◆今後必要なときの利用意向

今後必要なときの利用意向は、「⑩ 一時預かり保育(43.8%)」が最も高く、「⑫ ベビーシッター利用支援事業(一時預かり利用支援)(41.7%)」、「⑰ 病児・病後児保育(39.7%)」が続いている。

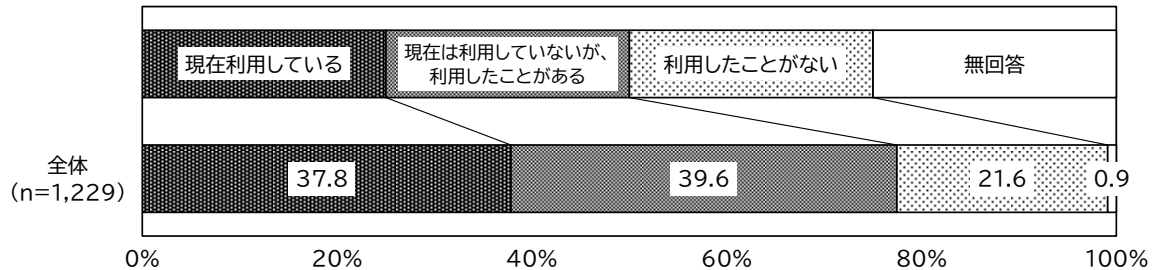
地域子育て支援事業の今後必要なときの利用意向(全体):複数回答



## (2)子育て交流サロン「あかちゃん天国」の利用状況

お子さんが、2020年4月2日以降に生まれた人に、子育て交流サロン「あかちゃん天国」の利用状況をたずねたところ、「現在利用している」が37.8%、「現在は利用していないが、利用したことがある」が39.6%、「利用したことがない」が21.6%となっている。

子育て交流サロン「あかちゃん天国」の利用状況(全体)

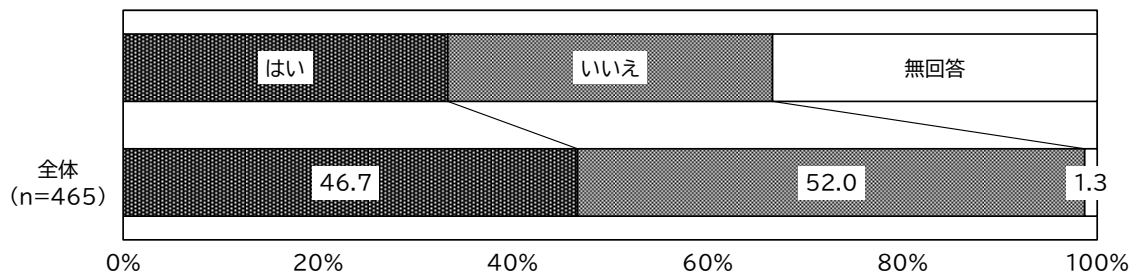


## (3)子育て交流サロン「あかちゃん天国」を利用している人の今後の利用回数の増加意向

子育て交流サロン「あかちゃん天国」を現在利用している人に、今後の利用回数の増加意向をたずねたところ、「はい」が46.7%となっている。

子育て交流サロン「あかちゃん天国」の今後の利用回数の増加意向(全体)

<子育て交流サロン「あかちゃん天国」を現在利用している人>

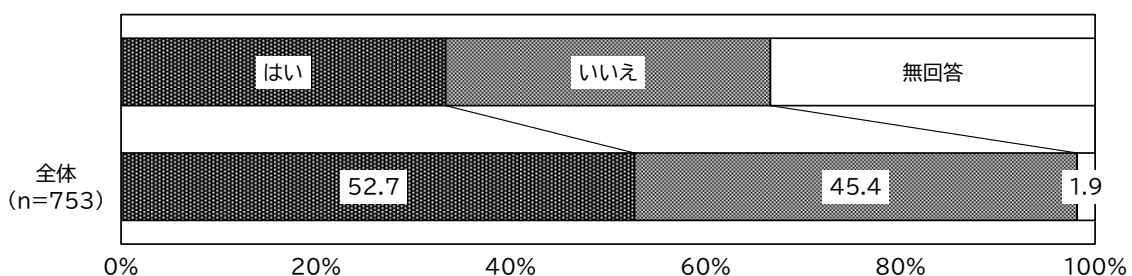


## (4)子育て交流サロン「あかちゃん天国」を利用していない人の今後の利用意向

子育て交流サロン「あかちゃん天国」を現在利用していない人に、今後の利用意向をたずねたところ、「はい」が52.7%となっている。

子育て交流サロン「あかちゃん天国」の今後の利用意向(全体)

<子育て交流サロン「あかちゃん天国」を現在利用していない人>

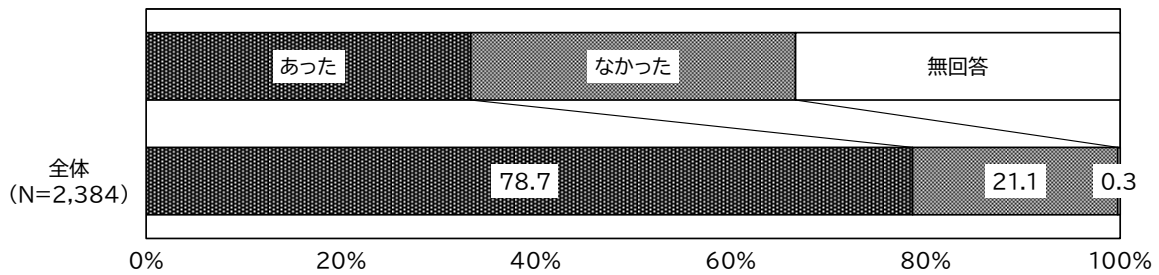


## 7 病気やケガの際の対応

### (1)この1年間の子どもの病気やケガの経験の有無

この1年間の子どもの病気やケガの経験の有無は、「あった」が78.7%となっている。

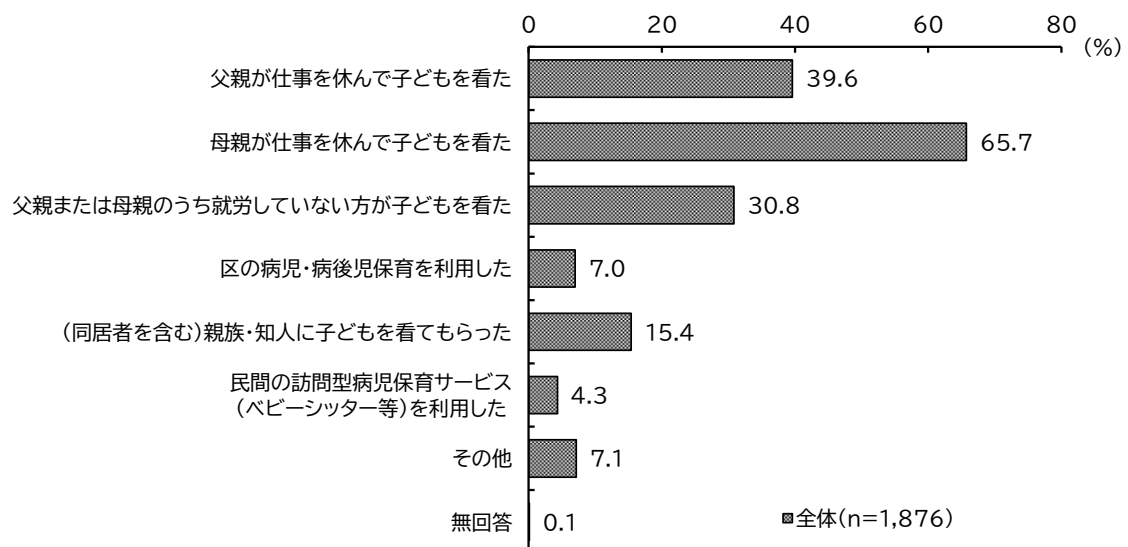
この1年間の子どもの病気やケガの経験の有無(全体)



### (2)この1年間の子どもの病気やケガの場合の対処方法

この1年間に子どもの病気やケガの経験があった人に、病気やケガの場合の対処方法をたずねたところ、「母親が仕事を休んで子どもを見た(65.7%)」が最も高く、「父親が仕事を休んで子どもを見た(39.6%)」、「父親または母親のうち就労していない方が子どもを見た(30.8%)」が続いている。

病気やケガの場合の対処方法(全体):複数回答  
<この1年間に子どもの病気やケガの経験があった人>

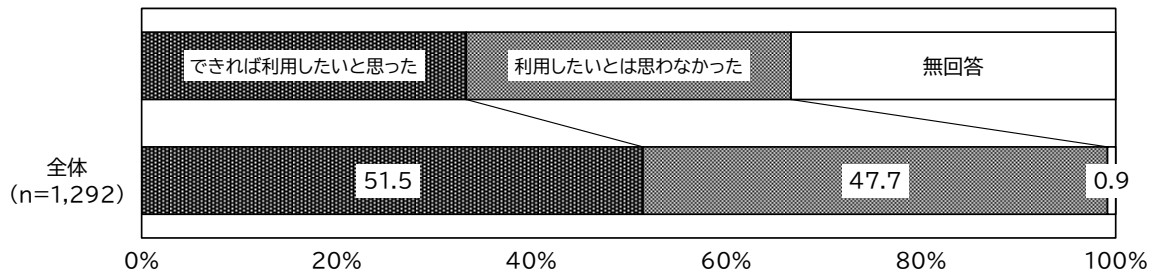


### (3) 区の病児・病後児保育の利用希望

この1年間に子どもの病気やケガの経験があった人で、父親や母親が仕事を休んで子どもを見た人に、区の病児・病後児保育の利用希望をたずねたところ、「できれば利用したいと思った」が 51.5%となっている。

区の病児・病後児保育の利用希望(全体)

<この1年間に子どもの病気やケガの経験があった人で、父親や母親が仕事を休んで子どもを見た人>

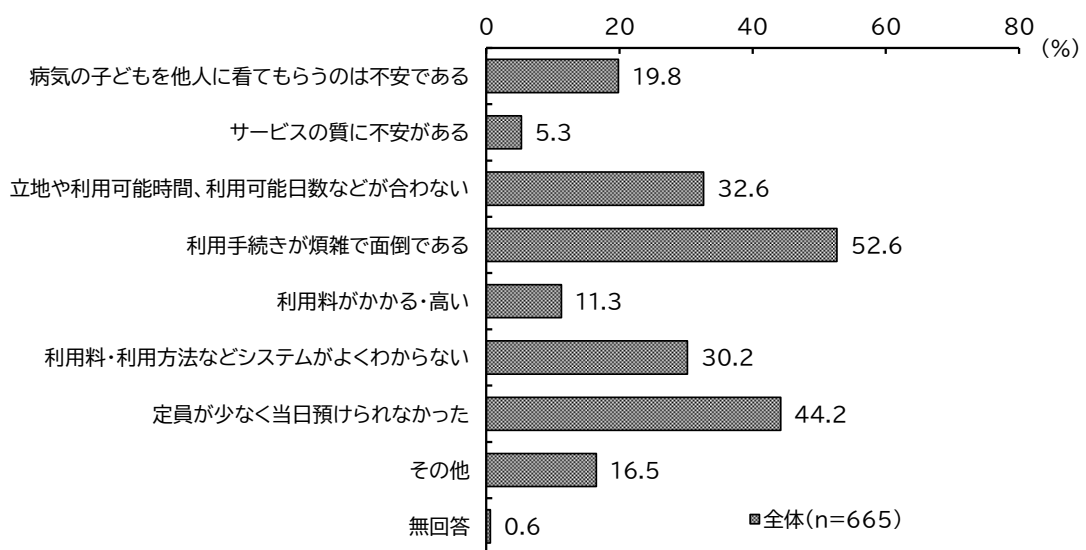


### (4) 区の病児・病後児保育を利用したいと思ったが利用しなかった理由

この1年間に子どもの病気やケガの経験があった人で、父親や母親が仕事を休んで子どもを見た人のうち区の病児・病後児保育をできれば利用したいと思った人に、利用しなかった理由をたずねたところ、「利用手続きが煩雑で面倒である(52.6%)」が最も高く、「定員が少なく当日預けられなかった(44.2%)」、「立地や利用可能時間、利用可能日数などが合わない(32.6%)」が続いている。

区の病児・病後児保育を利用したいと思ったが利用しなかった理由(全体):複数回答

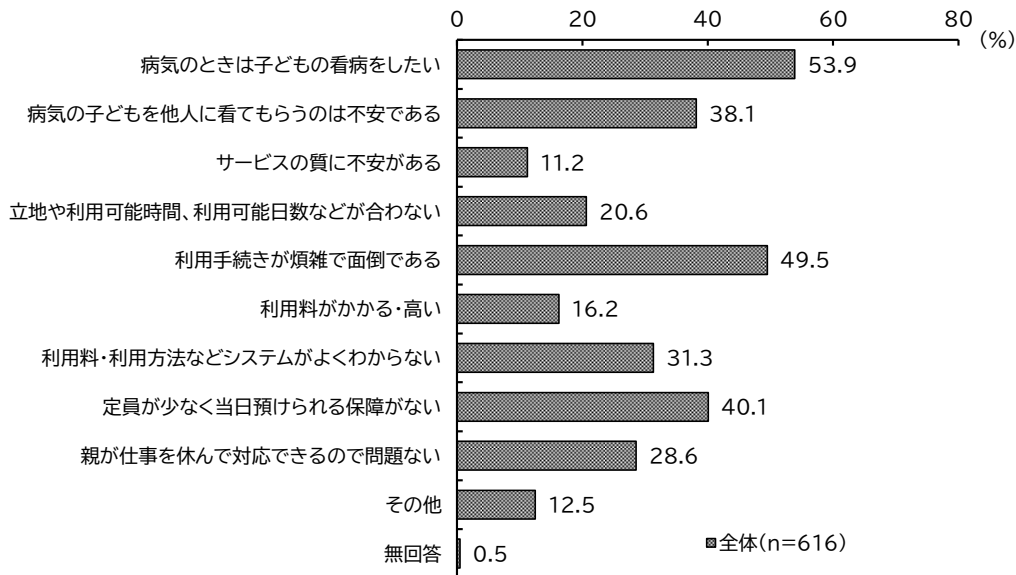
<父親や母親が仕事を休んで子どもを見た人のうち区の病児・病後児保育をできれば利用したいと思った人>



## (5) 区の病児・病後児保育を利用したいとは思わなかった理由

この1年間に病気やケガの経験があった人で、父親や母親が仕事を休んで子どもを見た人のうち区の病児・病後児保育を利用したいとは思わなかった人に、利用したいとは思わなかった理由をたずねたところ、「病気のときは子どもの看病をしたい(53.9%)」が最も高く、「利用手続きが煩雑で面倒である(49.5%)」、「定員が少なく当日預けられる保障がない(40.1%)」が続いている。

区の病児・病後児保育を利用したいと思ったが利用しなかった理由(全体):複数回答  
 <父親や母親が仕事を休んで子どもを見た人のうち区の病児・病後児保育を利用したいとは思わなかった人>

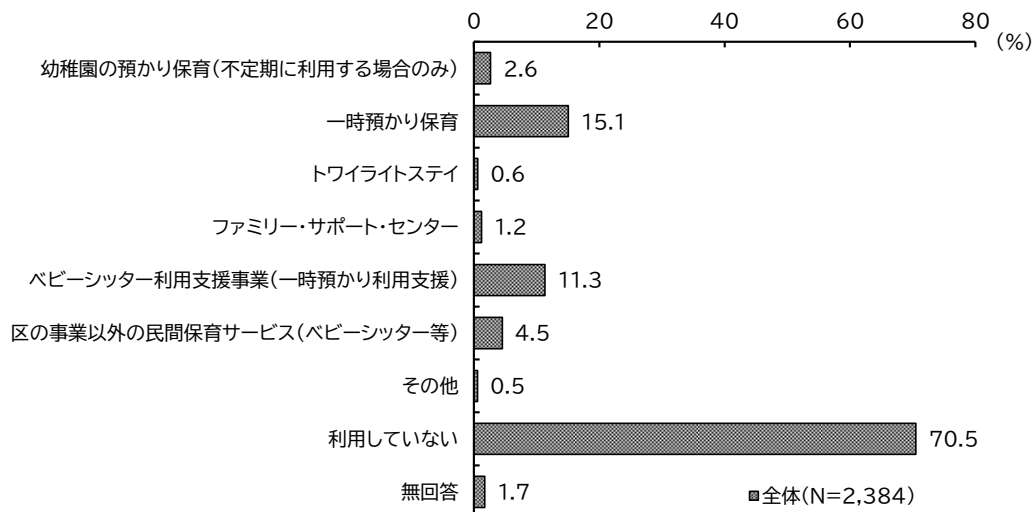


## 8 不定期の子育て支援事業の利用

### (1) この1年間に不定期に利用した事業

この1年間に家族の通院、冠婚葬祭、就労などの目的で不定期に利用した事業は、「一時預かり保育(15.1%)」が最も高く、「ベビーシッター利用支援事業(一時預かり利用支援)(11.3%)」、「区の事業以外の民間保育サービス(ベビーシッター等)(4.5%)」が続いている。「利用していない」は70.5%である。

この1年間に家族の通院、冠婚葬祭、就労などの目的で不定期に利用した事業(全体):複数回答

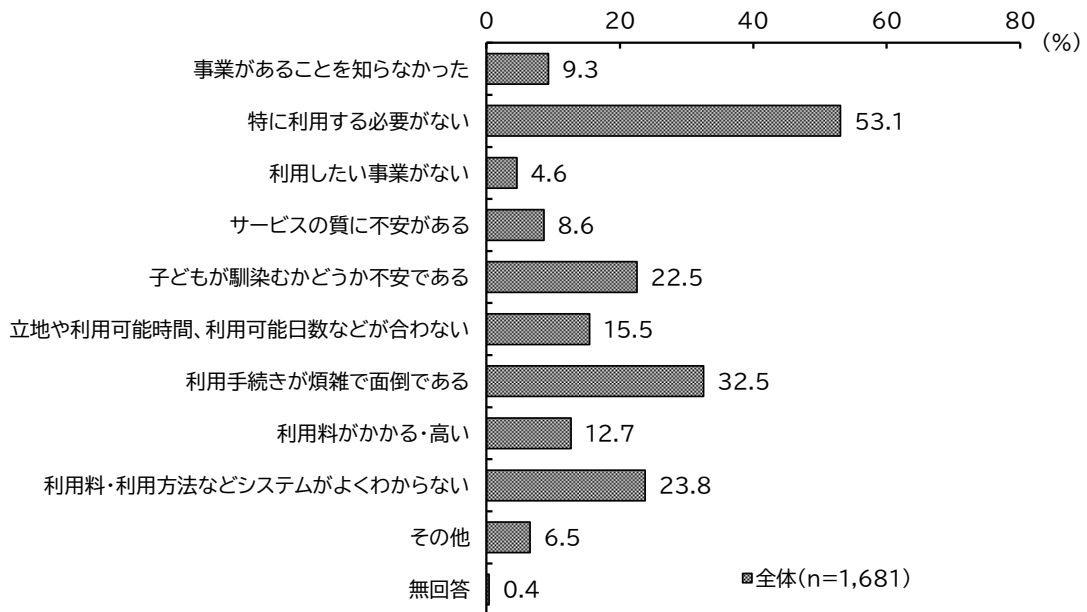


## (2)この1年間に不定期で事業を利用していない理由

この1年間に家族の通院、冠婚葬祭、就労などの目的で不定期で事業を利用していない人に、不定期で事業を利用していない理由をたずねたところ、「特に利用する必要がない(53.1%)」が最も高く、「利用手続きが煩雑で面倒である(32.5%)」、「利用料・利用方法などシステムがよくわからない(23.8%)」が続いている。

不定期で事業を利用していない理由(全体):複数回答

<この1年間に家族の通院、冠婚葬祭、就労などの目的で不定期で事業を利用していない人>

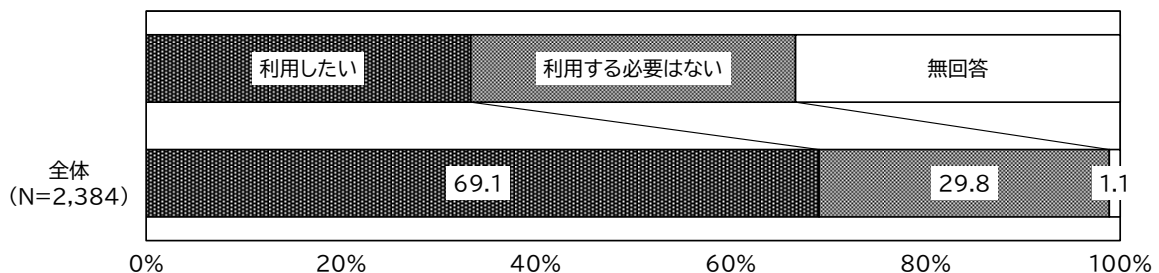


## (3)一時的な預かり事業の利用希望

### ◆一時的な預かり事業の利用希望

家族の通院、冠婚葬祭、就労などの目的による一時的な預かり事業の利用希望は、「利用したい」が69.1%となっている。

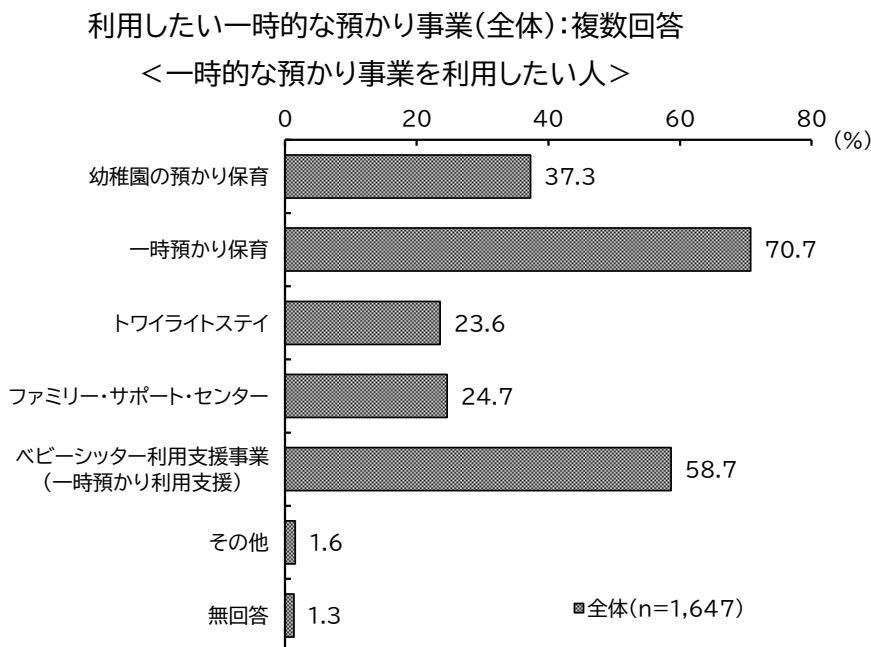
一時的な預かり事業の利用希望(全体)





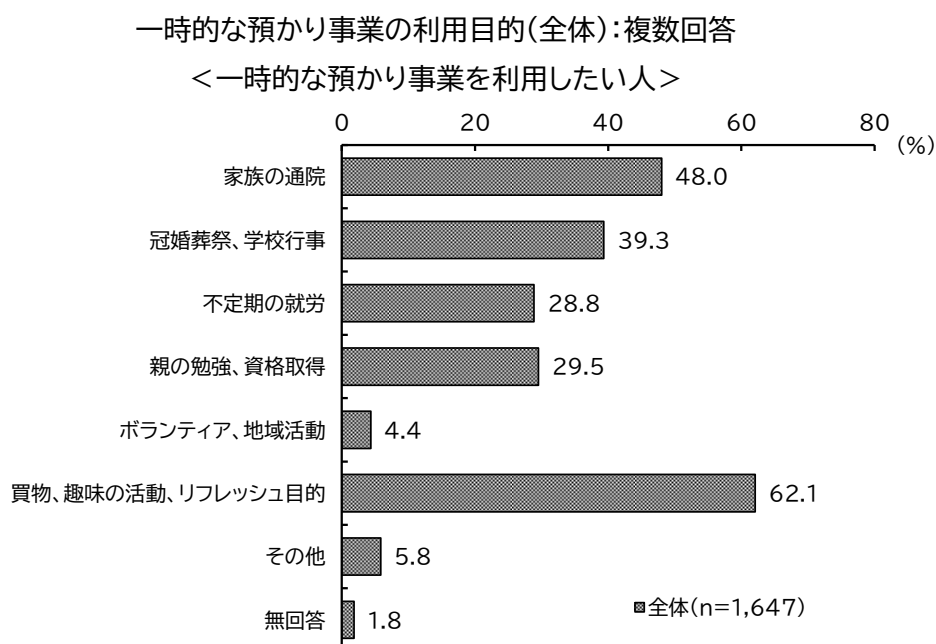
### ◆利用したい一時的な預かり事業

家族の通院、冠婚葬祭、就労などの目的による一時的な預かり事業を利用したい人に、利用したい一時的な預かり事業をたずねたところ、「一時預かり保育(70.7%)」が最も高く、「ベビーシッター利用支援事業(一時預かり利用支援)(58.7%)」、「幼稚園の預かり保育(37.3%)」が続いている。



### ◆一時的な預かり事業の利用目的

家族の通院、冠婚葬祭、就労などの目的による一時的な預かり事業を利用したい人に、一時的な預かり事業の利用目的をたずねたところ、「買物、趣味の活動、リフレッシュ目的(62.1%)」が最も高く、「家族の通院(48.0%)」、「冠婚葬祭、学校行事(39.3%)」が続いている。

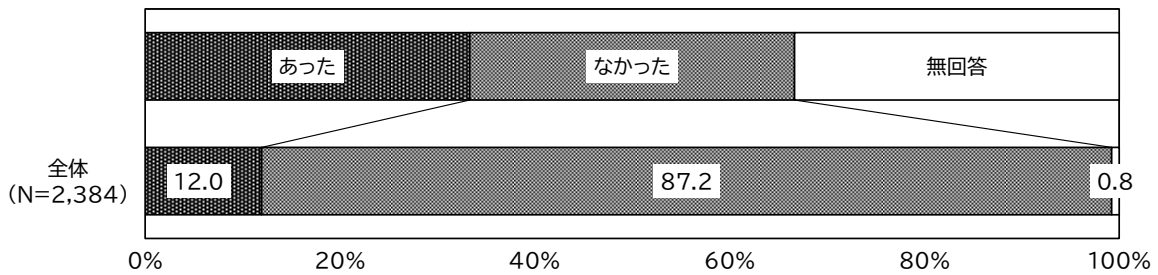


## (4) 宿泊を伴う一時預かりの状況

### ◆ 宿泊を伴う一時預かり等の必要性の有無

この1年間に冠婚葬祭、家族の病気などによる宿泊を伴う一時預かり等の必要性の有無は、「あった」が12.0%となっている。

宿泊を伴う一時預かり等の必要性の有無(全体)

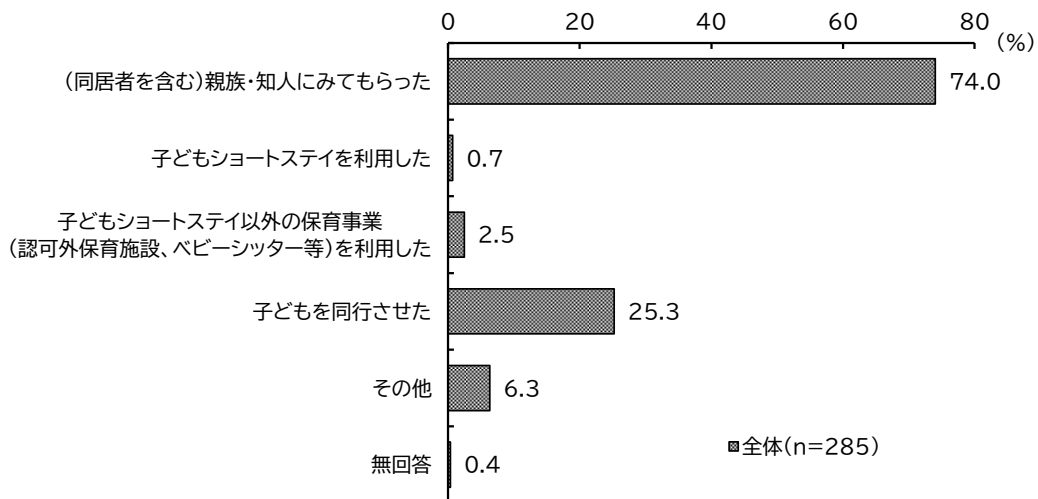


### ◆ 宿泊を伴う一時預かりが必要となった場合の対処方法

この1年間に冠婚葬祭、家族の病気などによる宿泊を伴う一時預かり等の必要性があった人に、対処方法をたずねたところ、「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった(74.0%)」が最も高く、「子どもを同行させた(25.3%)」が続いている。

対処方法(全体):複数回答

<この1年間に冠婚葬祭、家族の病気などによる宿泊を伴う一時預かり等の必要性があった人>



## 9 育児休業の取得状況

### (1) 両親の育児休業の取得状況、取得期間、取得していない理由

#### ◆ 育児休業の取得状況

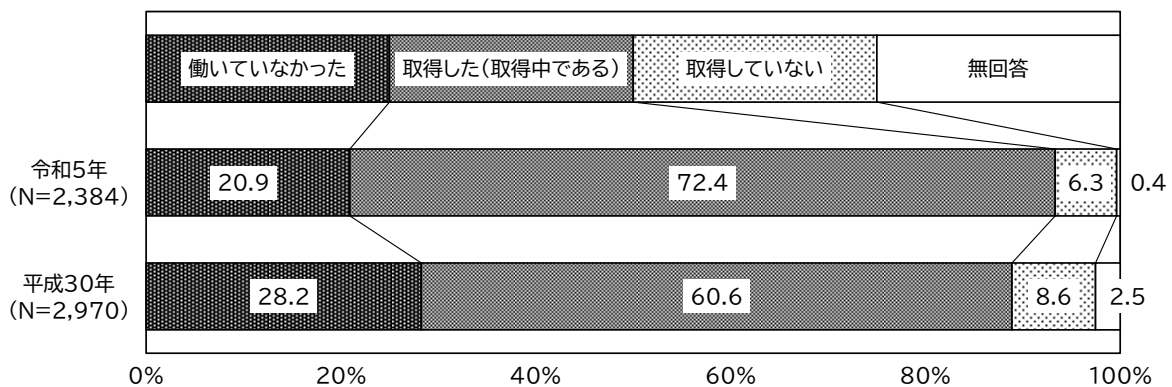
育児休業の取得状況は、母親は「取得した(取得中である)」が 72.4%、「働いていなかった」が 20.9%、「取得していない」が 6.3%となっている。

平成 30 年調査と比較すると、令和5年調査では「取得した(取得中である)(60.6%→72.4%)」の割合が高くなっている。

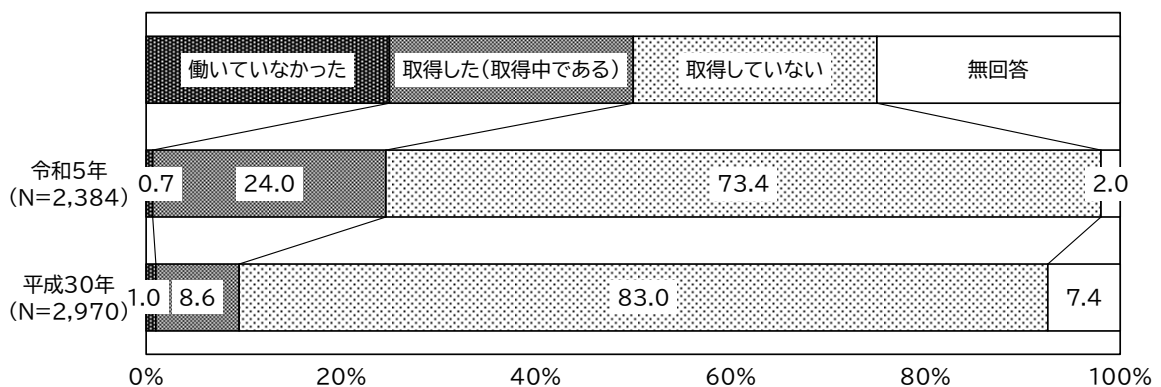
父親は「取得していない」が 73.4%、「取得した(取得中である)」が 24.0%、「働いていなかった」が 0.7%となっている。

平成 30 年調査と比較すると、令和5年調査では「取得した(取得中である)(8.6%→24.0%)」の割合が高くなっている。

育児休業の取得状況(母親)(全体)【経年比較】



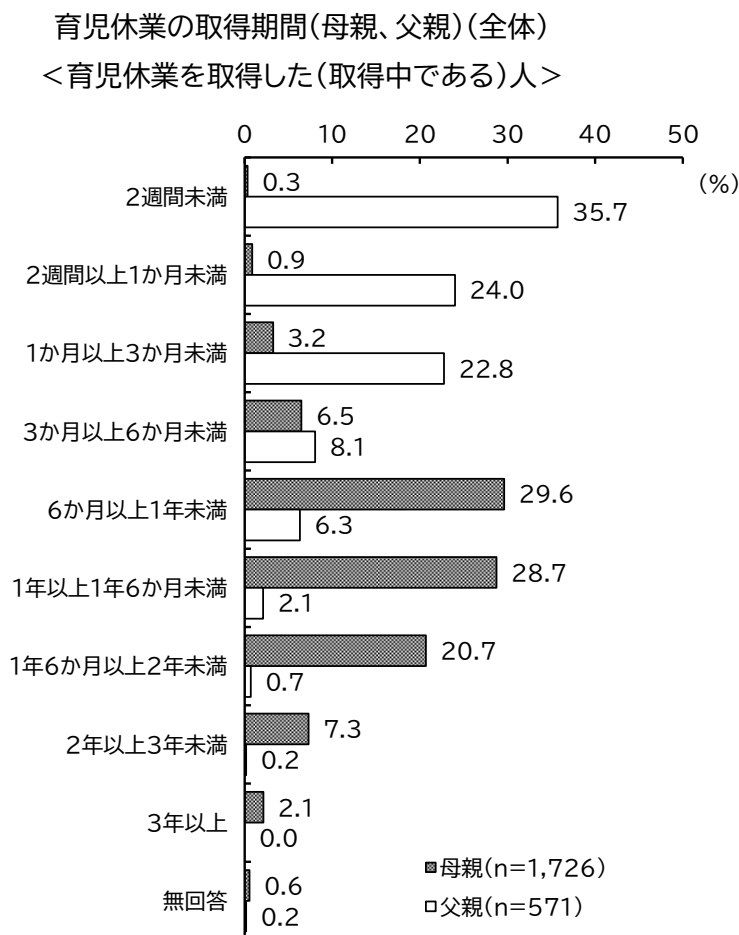
育児休業の取得状況(父親)(全体)【経年比較】



### ◆育児休業の取得期間

育児休業を取得した(取得中である)人に、育児休業の取得期間をたずねたところ、母親は「6か月以上1年未満(29.6%)」が最も高く、「1年以上1年6か月未満(28.7%)」、「1年6か月以上2年未満(20.7%)」が続いている。

父親は「2週間未満(35.7%)」が最も高く、「2週間以上1か月未満(24.0%)」、「1か月以上3か月未満(22.8%)」が続いている。



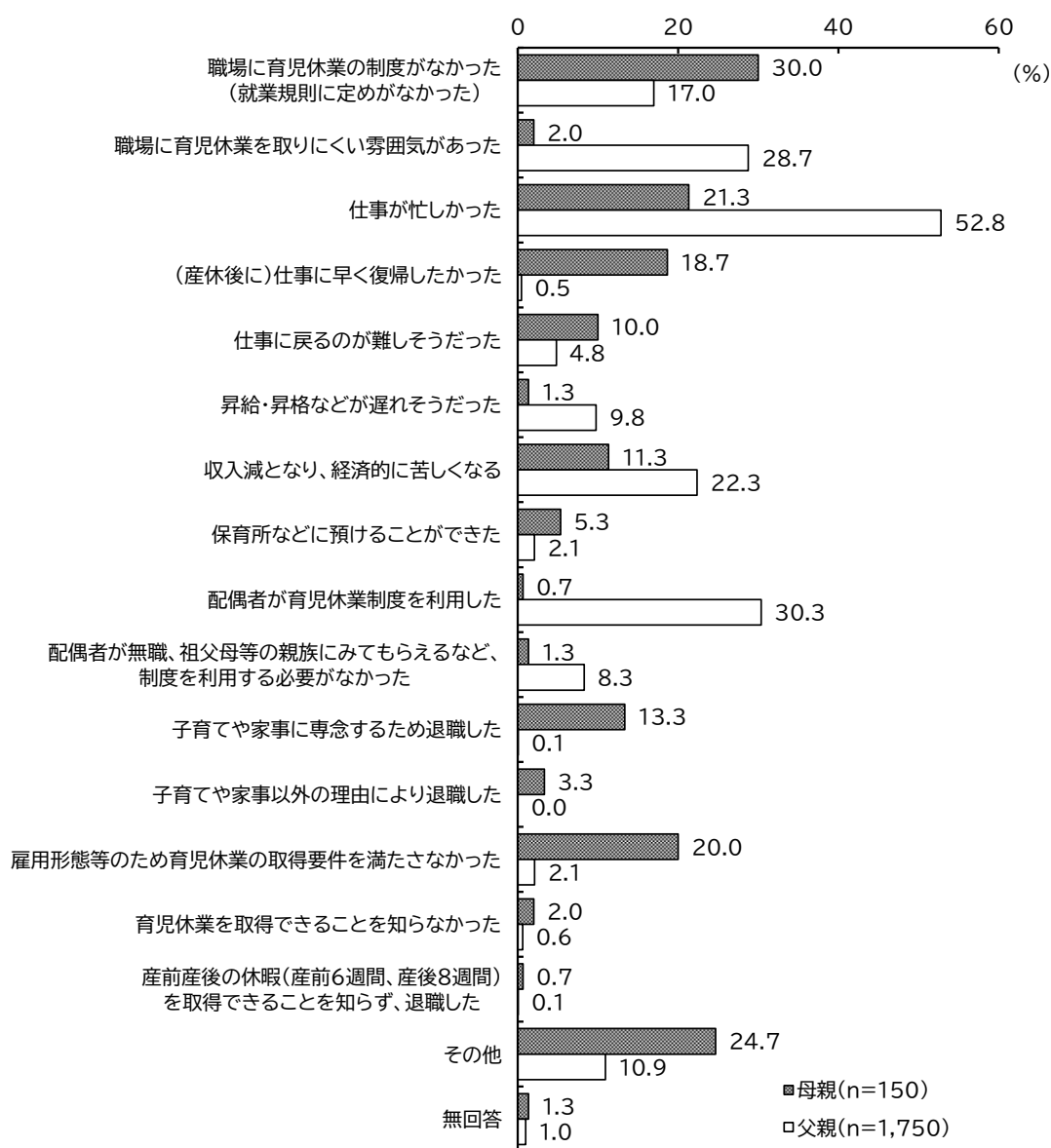
### ◆育児休業を取得していない理由

育児休業を取得していない人に、育児休業を取得していない理由をたずねたところ、母親は「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)(30.0%)」が最も高く、「仕事が忙しかった(21.3%)」、「雇用形態等のため育児休業の取得要件を満たさなかった(20.0%)」が続いている。

父親は「仕事が忙しかった(52.8%)」が最も高く、「配偶者が育児休業制度を利用した(30.3%)」、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった(28.7%)」が続いている。

育児休業を取得していない理由(母親、父親)(全体):複数回答

<育児休業を取得していない人>

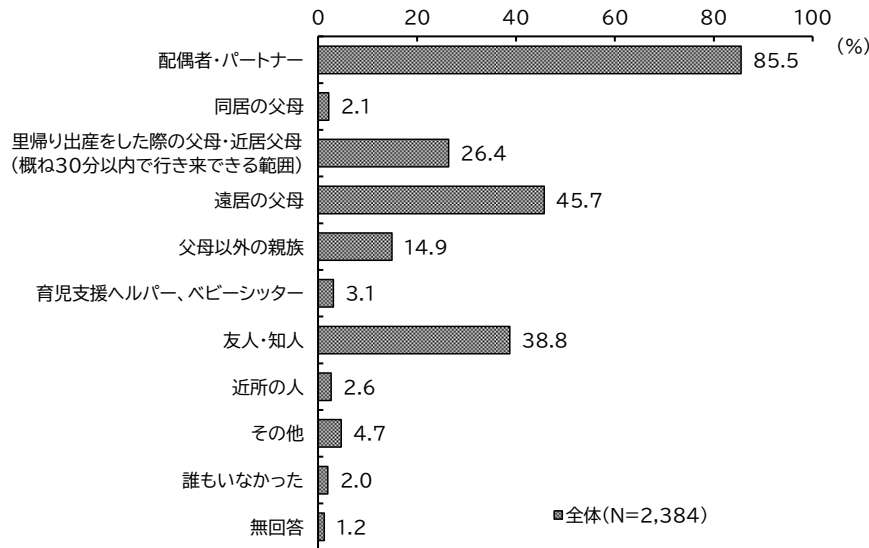


## 10 妊娠中・産後の状況

### (1) 妊娠時に身近な人で気にかけてくれた、支えてくれたと感じる人

妊娠時に身近な人で気にかけてくれた、支えてくれたと感じる人は、「配偶者・パートナー(85.5%)」が最も高く、「遠居の父母(45.7%)」、「友人・知人(38.8%)」、「里帰り出産をした際の父母・近居父母(概ね30分以内で行き来できる範囲)(26.4%)」が続いている。

妊娠時に身近な人で気にかけてくれた、支えてくれたと感じる人(全体):複数回答

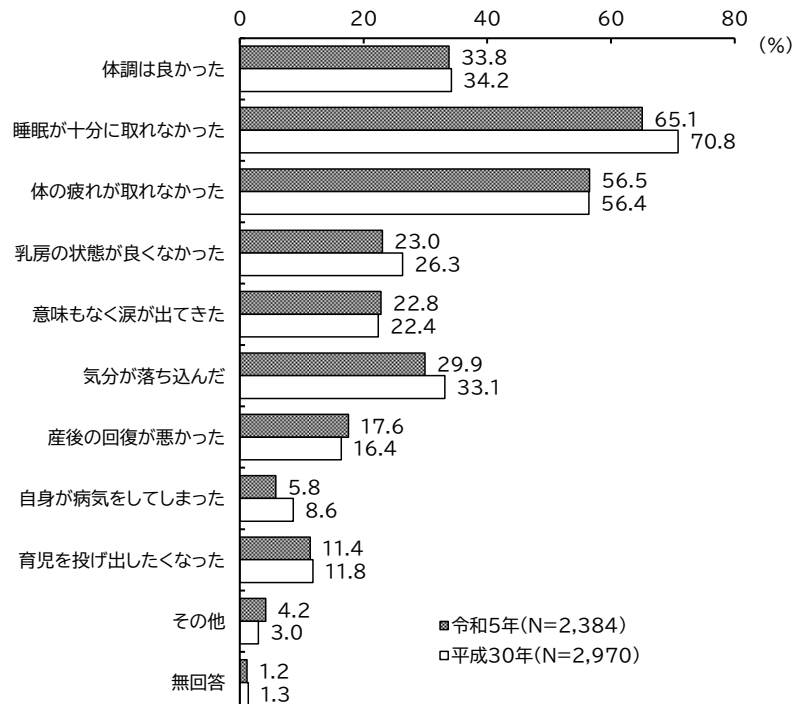


### (2) 産後の母親の身体面、精神面の体調

産後の母親の身体面、精神面の体調は、「睡眠が十分に取れなかった(65.1%)」が最も高く、「体の疲れが取れなかった(56.5%)」、「体調は良かった(33.8%)」が続いている。

平成30年調査においても上位の項目は同様であり、「睡眠が十分に取れなかった(70.8%)」が最も高く、「体の疲れが取れなかった(56.4%)」、「体調は良かった(34.2%)」が続いている。

産後の母親の身体面、精神面の体調(全体):複数回答【経年比較】

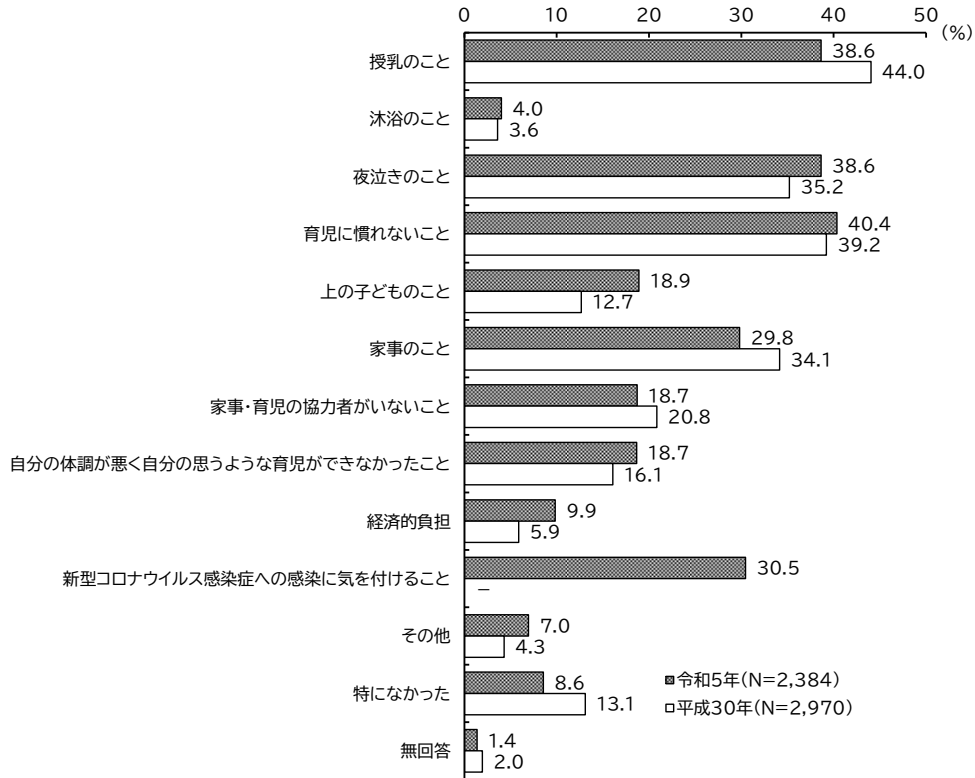


### (3)産後の育児に関して困ったことやつらかったこと

産後の育児に関して困ったことやつらかったことは、「育児に慣れないこと(40.4%)」が最も高く、「授乳のこと(38.6%)」と「夜泣きのこと(38.6%)」が同率で続いている。

平成30年調査では、「授乳のこと(44.0%)」が最も高く、「育児に慣れないこと(39.2%)」、「夜泣きのこと(35.2%)」が続いている。

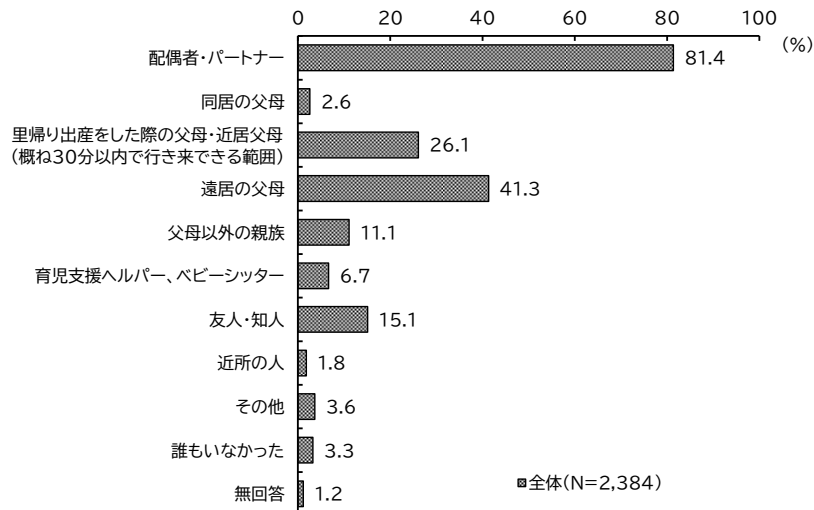
産後の育児に関して困ったことやつらかったこと(全体):複数回答【経年比較】



### (4)出産直後に子どもの子育てや家事を助けてくれたと感じる人

出産直後に子どもの子育てや家事を助けてくれたと感じる人は、「配偶者・パートナー(81.4%)」が最も高く、「遠居の父母(41.3%)」、「里帰り出産をした際の父母・近居父母(概ね30分以内で行き来できる範囲)(26.1%)」が続いている。

出産直後に子どもの子育てや家事を助けてくれたと感じる人(全体):複数回答



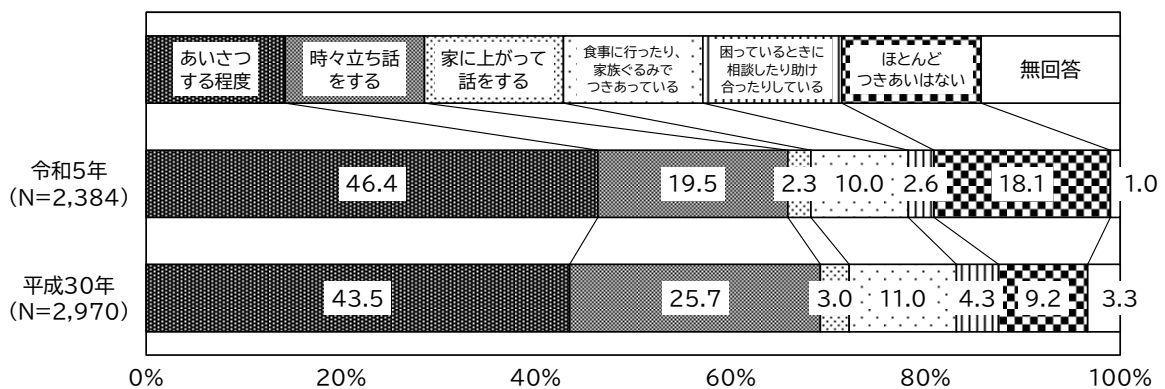
# 11 地域における子育て

## (1)近所づきあいの程度

近所づきあいの程度は、「あいさつする程度(46.4%)」が最も高く、「時々立ち話をする(19.5%)」、「ほとんどつきあいはない(18.1%)」が続いている。

平成 30 年調査と比較すると、令和5年調査では「ほとんどつきあいはない(9.2%→18.1%)」の割合が高くなっている。

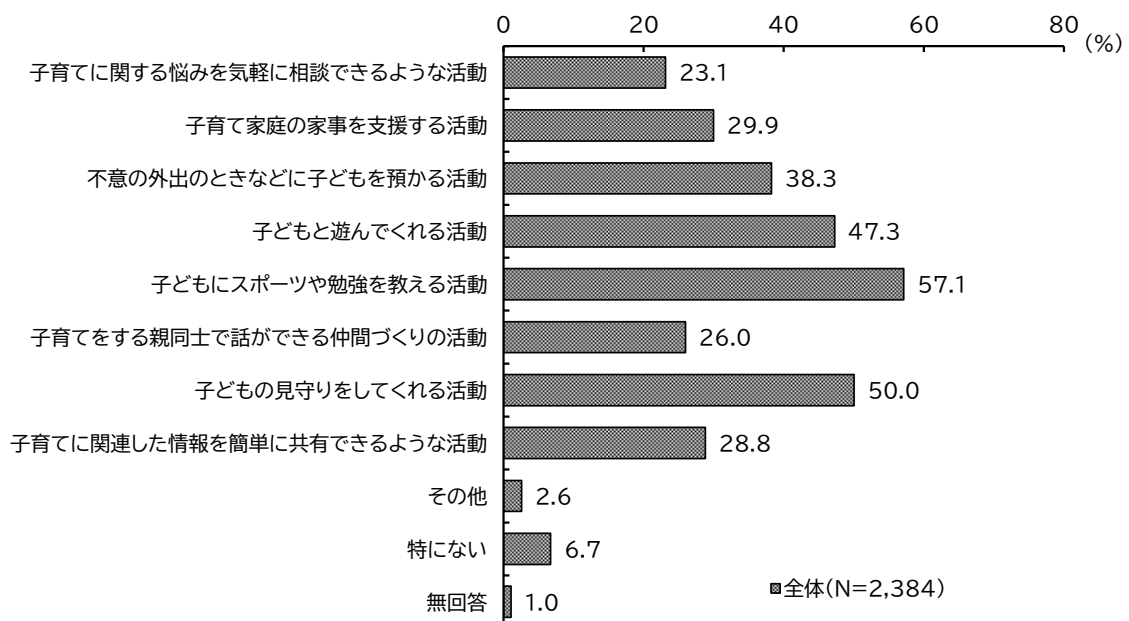
近所づきあいの程度(全体)【経年比較】



## (2)期待する地域住民による子ども・子育て支援活動

期待する地域住民による子ども・子育て支援活動は、「子どもにスポーツや勉強を教える活動(57.1%)」が最も高く、「子どもの見守りをしてくれる活動(50.0%)」、「子どもと遊んでくれる活動(47.3%)」が続いている。

期待する地域住民による子ども・子育て支援活動(全体):複数回答

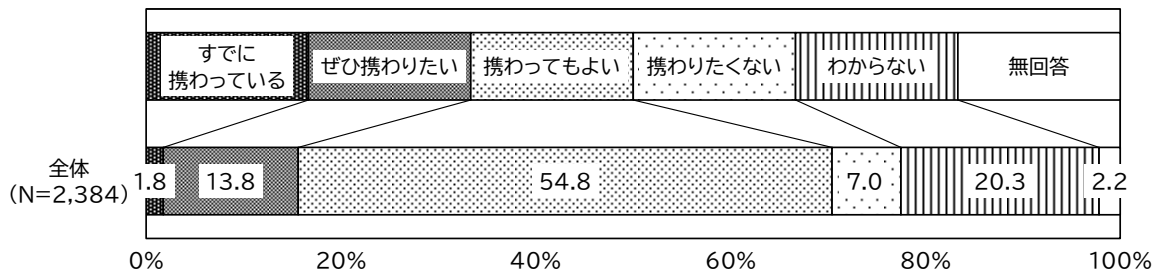




### (3)地域住民による子ども・子育て支援活動に将来的に携わってもよいか

地域住民による子ども・子育て支援活動に将来的に携わってもよいかたずねたところ、「すでに携わっている」が1.8%、「ぜひ携わりたい」が13.8%、「携わってもよい」が54.8%であり、合計すると、携わる意向がある人は70.4%となっている。

地域住民による子ども・子育て支援活動に将来的に携わってもよいか(全体)

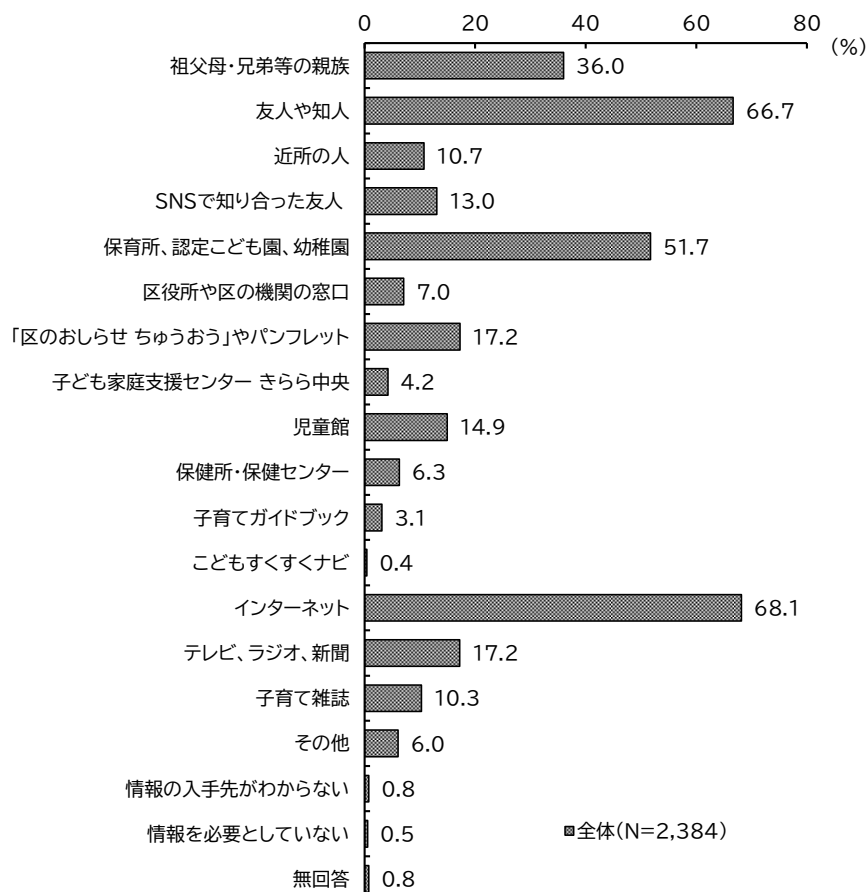


## 12 子育てに関する意識

### (1)子育てに関する情報の入手先

子育てに関する情報の入手先は、「インターネット(68.1%)」が最も高く、「友人や知人(66.7%)」、「保育所、認定こども園、幼稚園(51.7%)」が続いている。「情報の入手先がわからない」は0.8%となっている。

子育てに関する情報の入手先(全体)

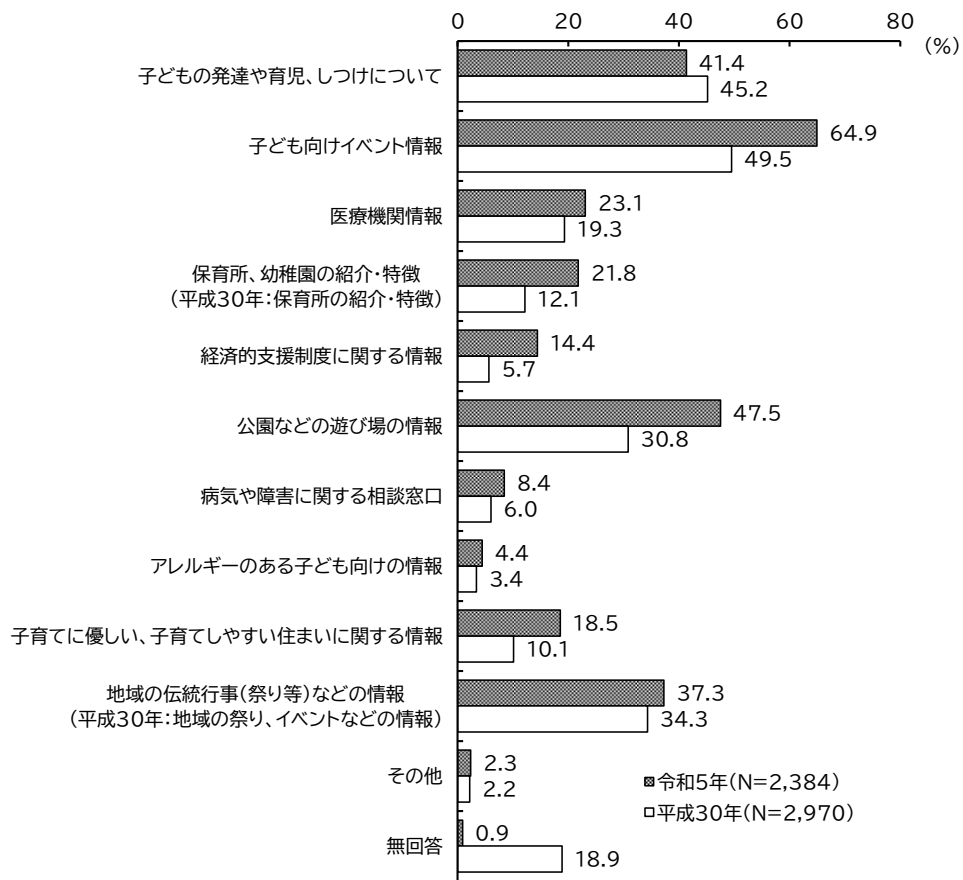


## (2)子育てに関してほしい情報

子育てに関してほしい情報は、「子ども向けイベント情報(64.9%)」が最も高く、「公園などの遊び場の情報(47.5%)」、「子どもの発達や育児、しつけについて(41.4%)」が続いている。

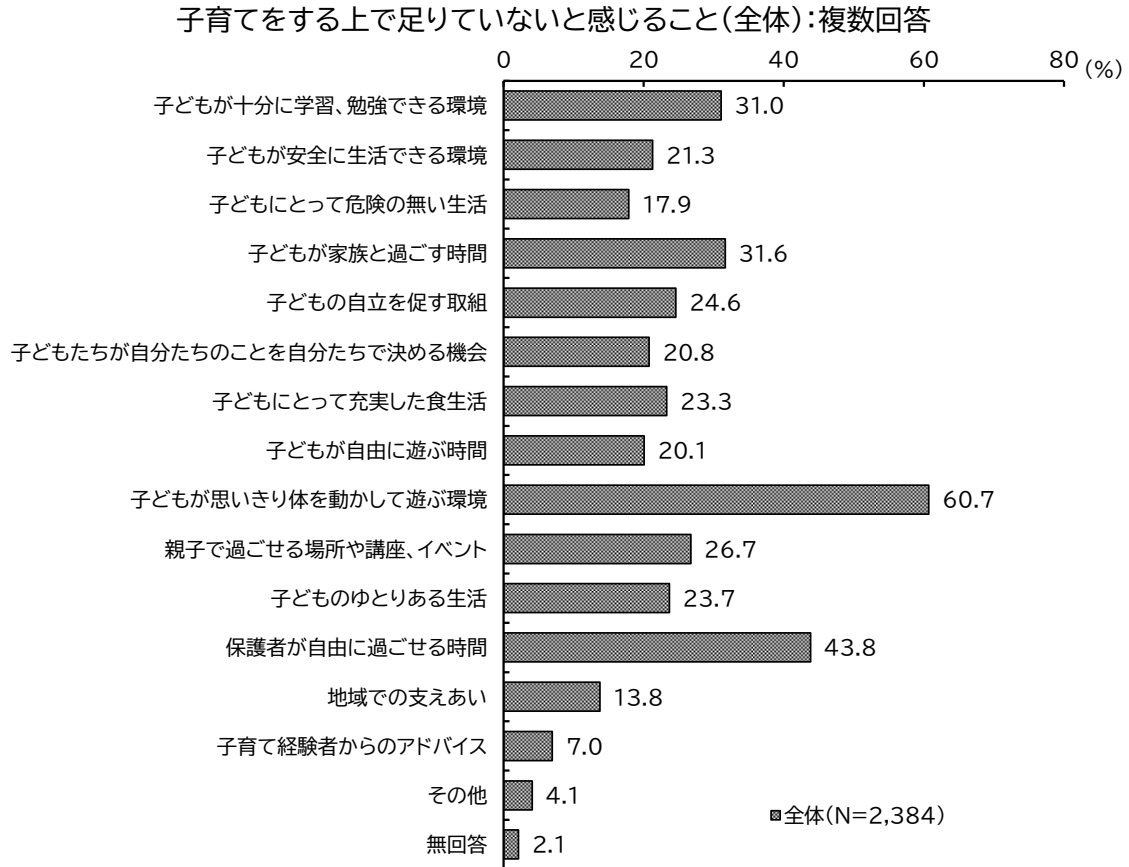
平成30年調査では、「子ども向けイベント情報(49.5%)」が最も高く、「子どもの発達や育児、しつけについて(45.2%)」、「地域の伝統行事(祭り等)などの情報(平成30年:地域の祭り、イベントなどの情報)(34.3%)」が続いている。

子育てに関してほしい情報(全体):複数回答(3つまで)【経年比較】



### (3)子育てをする上で足りていないと感じること

子育てをする上で足りていないと感じることは、「子どもが思いきり体を動かして遊ぶ環境(60.7%)」が最も高く、「保護者が自由に過ごせる時間(43.8%)」、「子どもが家族と過ごす時間(31.6%)」が続いている。

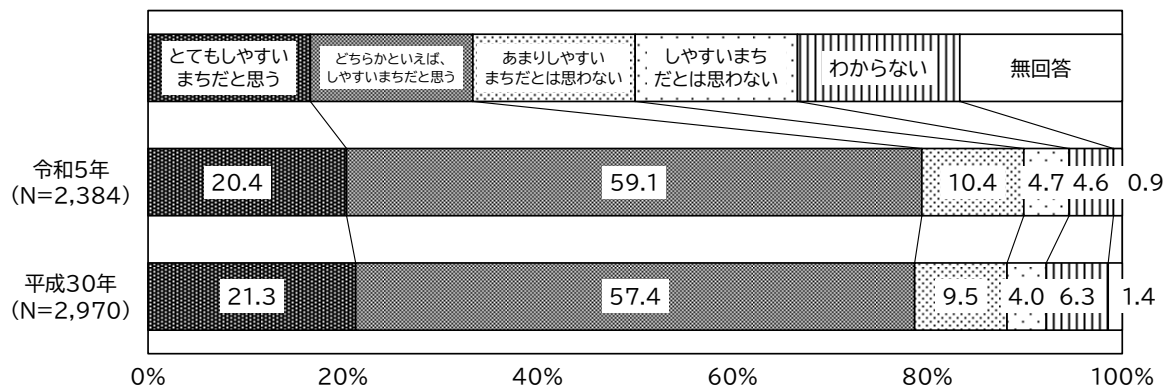


### (4)中央区は子育てしやすいまちか

中央区は子育てしやすいまちかたずねたところ、「とてもしやすいまちだと思う」が 20.4%、「どちらかといえば、しやすいまちだと思う」が 59.1%であり、合計した《しやすいまちだと思う》は 79.5%となっている。「あまりしやすいまちだとは思わない」が 10.4%、「しやすいまちだとは思わない」が 4.7%であり、合計した《しやすいまちだとは思わない》は 15.1%となっている。

平成 30 年調査と比較すると、同様の傾向である。

中央区は子育てしやすいまちか(全体)【経年比較】

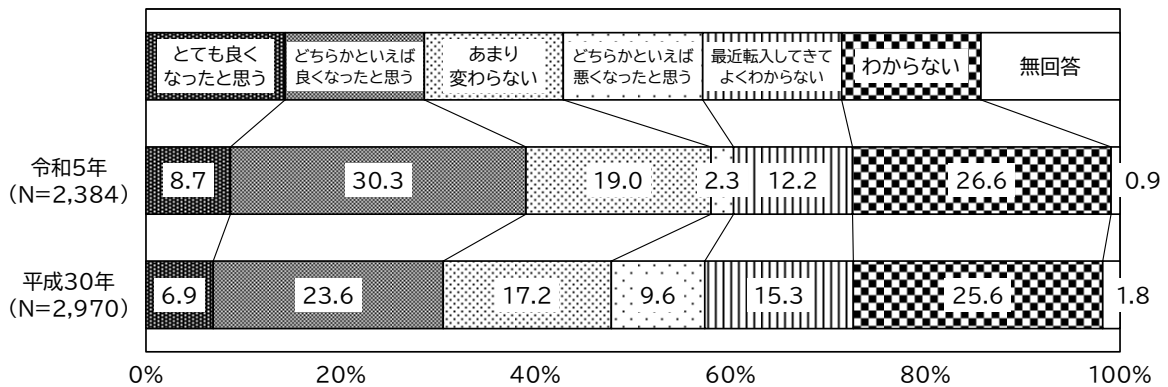


## (5)以前に比べ中央区の子育て環境は良くなったか

以前に比べ中央区の子育て環境は良くなったかたずねたところ、「とても良くなったと思う」が8.7%、「どちらかといえば良くなったと思う」が30.3%であり、合計した《よくなったと思う》は39.0%となっている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では、《よくなったと思う(30.5%→39.0%)》の割合が高くなっている。

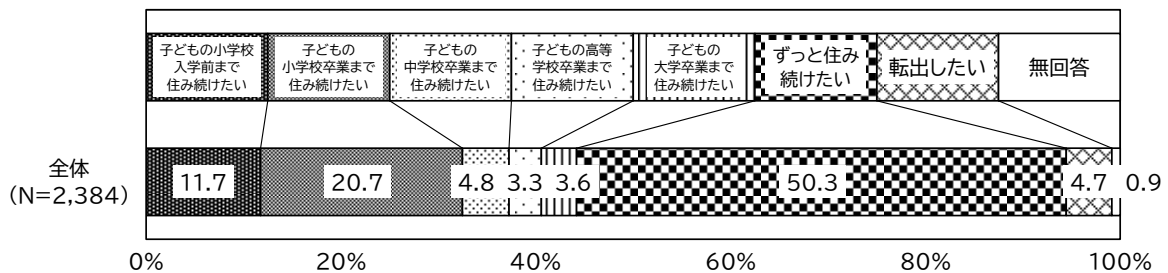
以前に比べ中央区の子育て環境は良くなったか(全体)【経年比較】



## (6)居住意向

居住意向は、「ずっと住み続けたい(50.3%)」が最も高く、「子どもの小学校卒業まで住み続けたい(20.7%)」、「子どもの小学校入学前まで住み続けたい(11.7%)」が続いている。

居住意向(全体)



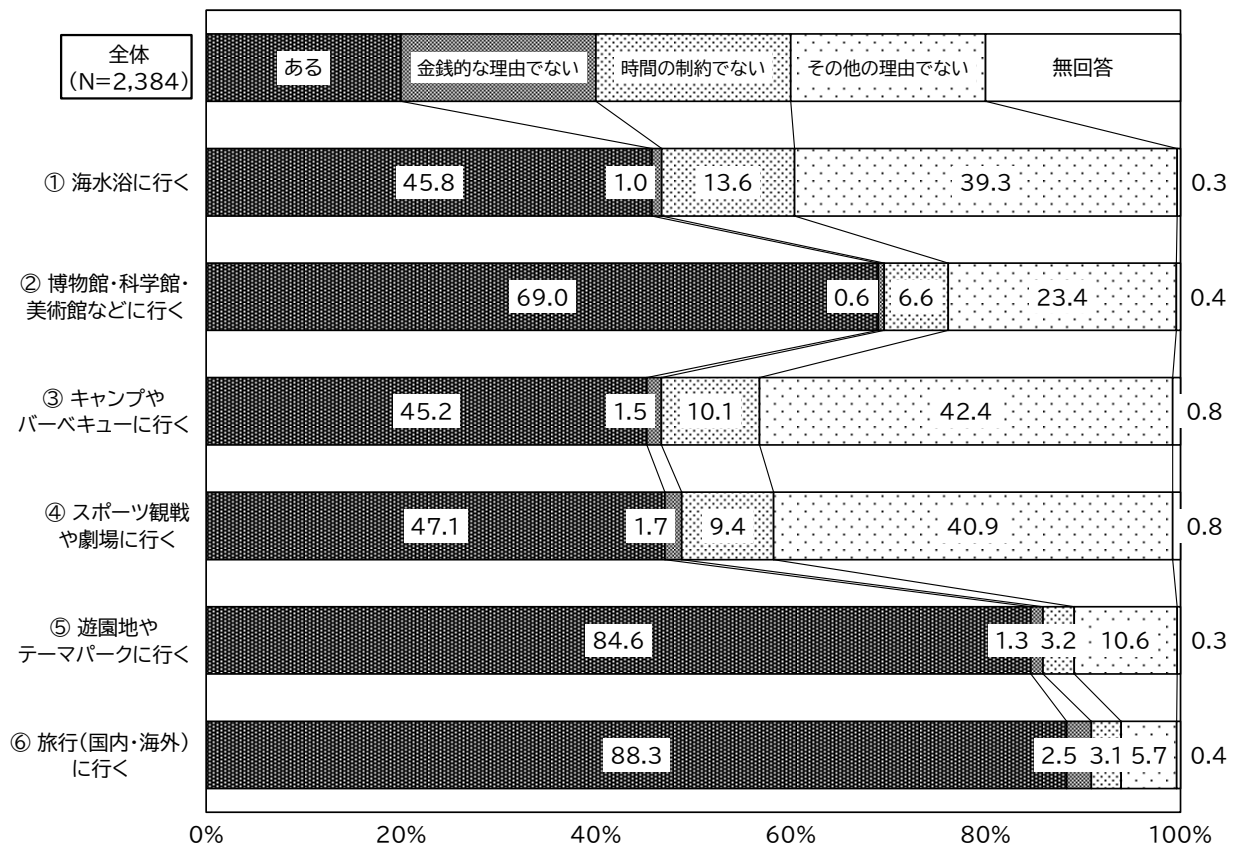
## (7)子どもの多様な経験の状況

子どもの多様な経験の状況は、「ある」の割合は、『⑥ 旅行(国内・海外)に行く(88.3%)』が最も高く、『⑤ 遊園地やテーマパークへ行く(84.6%)』、『② 博物館・科学館・美術館に行く(69.0%)』が続いている。

「金銭的な理由でない」の割合も、『⑥ 旅行(国内・海外)に行く(2.5%)』が最も高くなっている。

「時間の制約でない」の割合は『① 海水浴に行く(13.6%)』、『③ キャンプやバーベキューに行く(10.1%)』で高くなっている。

子どもの多様な経験の状況(全体)

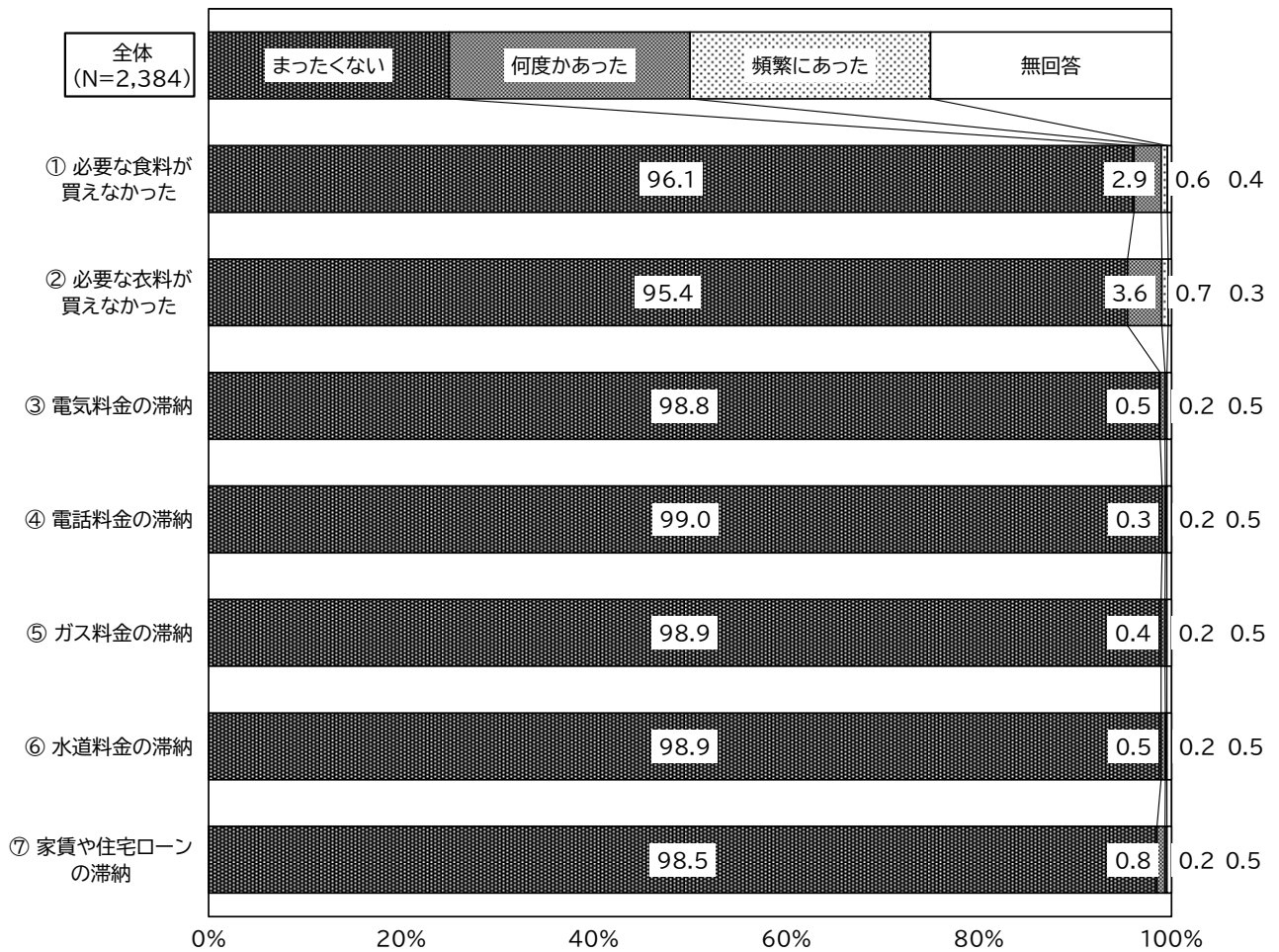


## (8) 経済的な理由による困窮経験

経済的な理由による困窮経験について、《あった》(「何度かあった」と「頻繁にあった」の合計)の割合は、『② 必要な衣料が買えなかった(4.3%)』で最も高く、『① 必要な食料が買えなかった(3.5%)』、『⑦ 家賃や住宅ローンの滞納(1.0%)』が続いている。

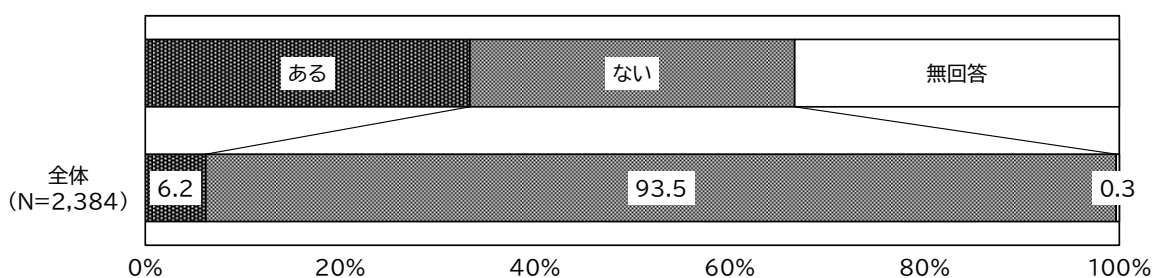
経済的な理由による困窮経験の有無は、「ある」が 6.2%となっている。なお、困窮経験の①～⑦の項目で、1つでも「何度かあった」と「頻繁にあった」と回答した人を「ある」としている。

経済的な理由による困窮経験(全体)



経済的な理由による困窮経験の有無(全体)

<経済的な理由による困窮経験の①～⑦の項目で、1つでも「何度かあった」もしくは「頻繁にあった」と回答した人を「ある」としている>

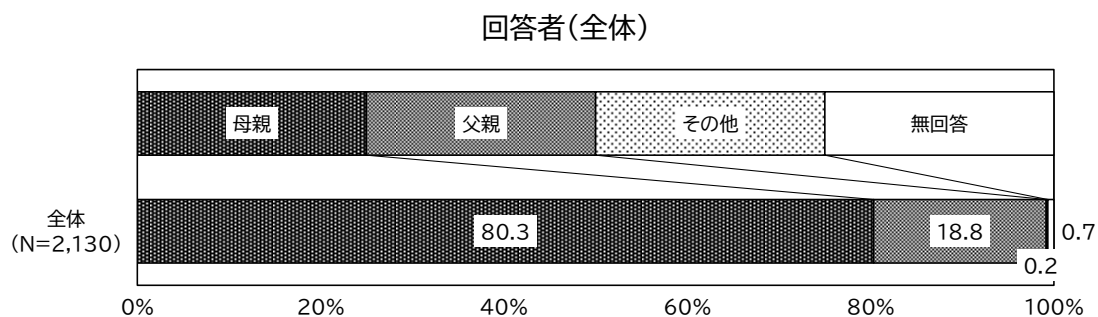


## II 小学校児童保護者調査

### 1 お子さんのご家族の状況

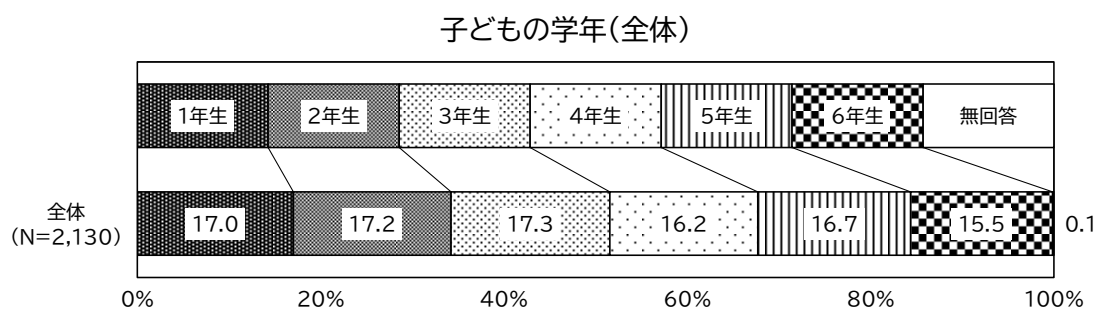
#### (1)回答者

回答者は、「母親」が 80.3%、「父親」が 18.8%となっている。



#### (2)あて名の子どもの学年

あて名の子どもの学年は、「3年生(17.3%)」が最も高く、「2年生(17.2%)」、「1年生(17.0%)」が続いている。

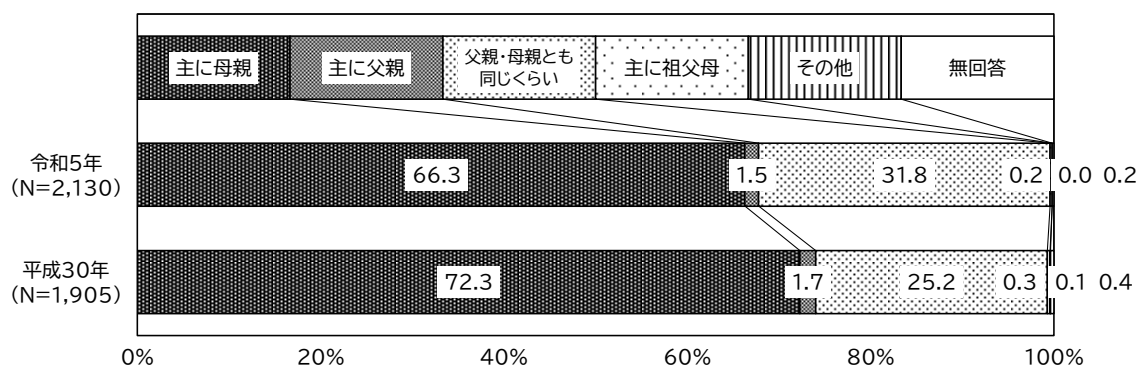


#### (3)子育てを主に行っている人

子育てを主に行っている人は、「主に母親(66.3%)」が最も高く、「父親・母親とも同じくらい(31.8%)」が続いている。

平成 30 年調査と比較すると、令和5年調査では「主に母親(72.3%→66.3%)」の割合が低くなり、「父親・母親とも同じくらい(25.2%→31.8%)」の割合が高くなっている。

子育てを主に行っている人(全体)【経年比較】



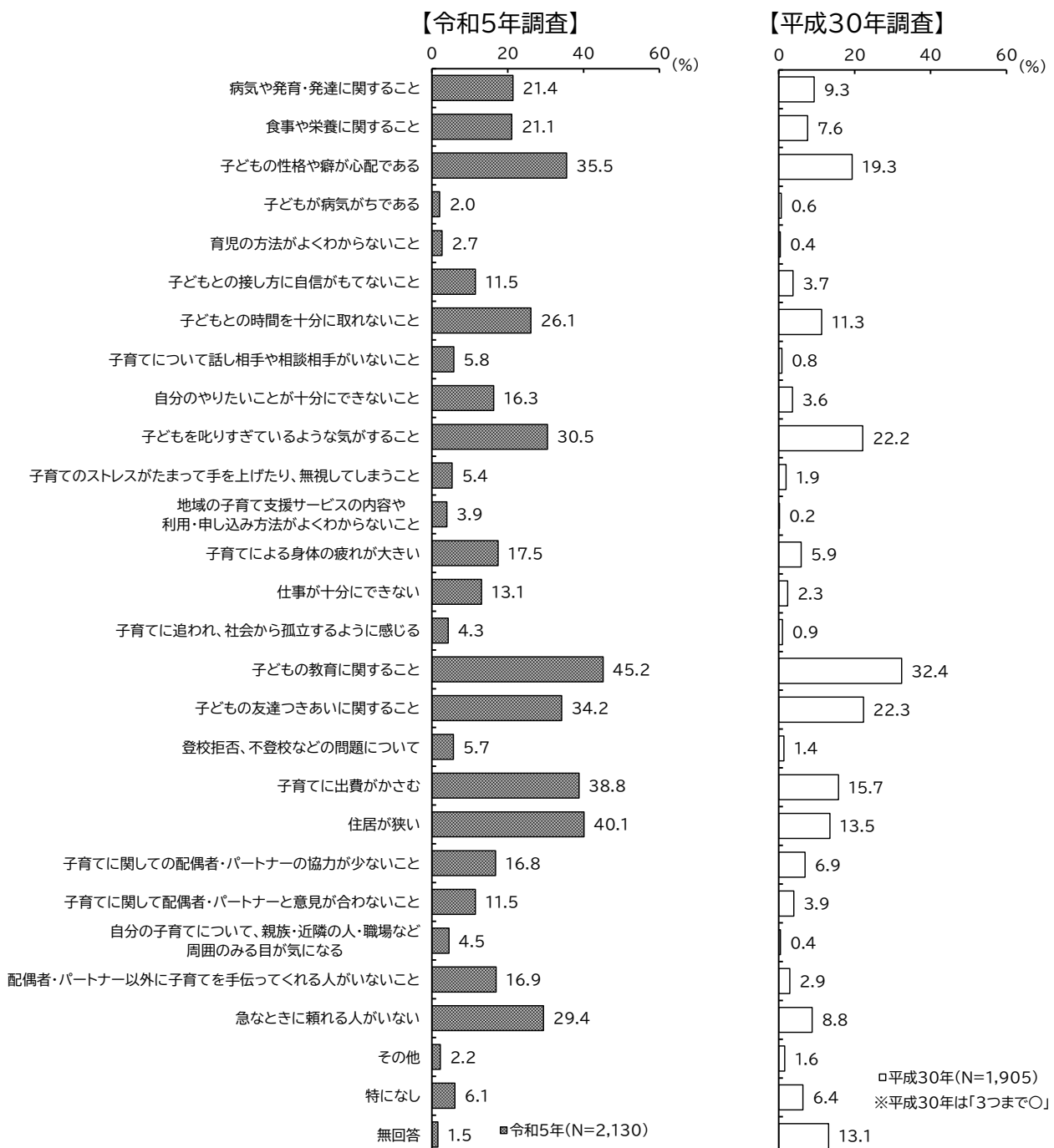
## 2 子どもの育ちをめぐる環境

### (1) 子育てに関する悩みや気になること

子育てに関する悩みや気になることは、「子どもの教育に関すること(45.2%)」が最も高く、「住居が狭い(40.1%)」、「子育てに出費がかさむ(38.8%)」、「子どもの性格や癖が心配である(35.5%)」が続いている。

平成30年調査では、令和5年調査同様「子どもの教育に関すること(32.4%)」が最も高いが、2位以降は「子どもの友達つきあいに関すること(22.3%)」、「子どもを叱りすぎているような気がする(22.2%)」となっており、令和5年調査の結果とは異なっている。なお、平成30年調査は回答が3つまでという制限を設けている。

子育てに関する悩みや気になること(全体):複数回答【経年比較(平成30年は3つまで〇)】





## (2)子育てに関して気軽に相談できる人や場所

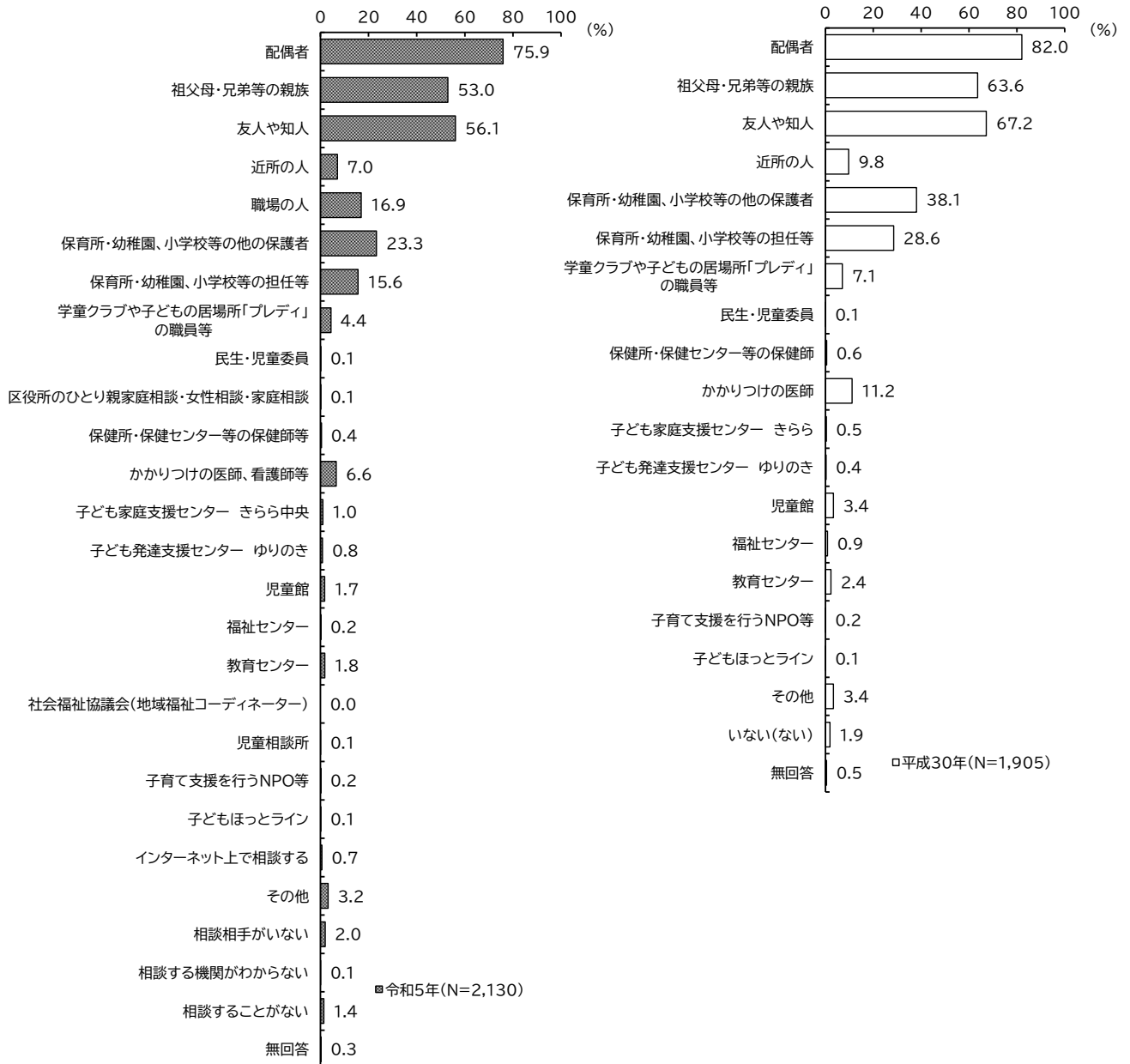
子育てに関して気軽に相談できる人や場所は、「配偶者(75.9%)」が最も高く、「友人や知人(56.1%)」、「祖父母・兄弟等の親族(53.0%)」が続いている。「相談相手がいない」は 2.0%となっている。

平成 30 年調査においても、上位の項目は同様となっている。

子育てに関して気軽に相談できる人や場所(全体):複数回答【経年比較】

【令和5年調査】

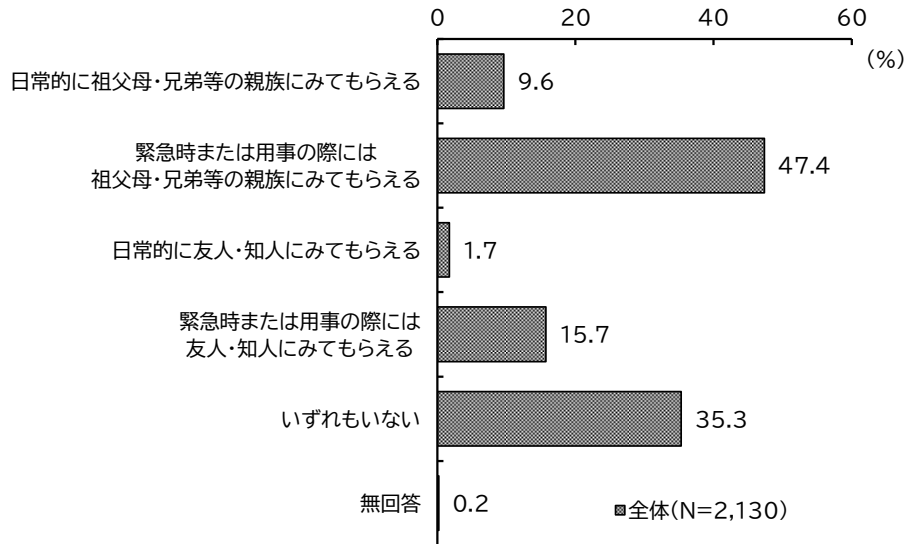
【平成30年調査】



### (3)子どもを保護者に代わってみてくれる親族・知人の有無

子どもを保護者に代わってみてくれる親族・知人の有無は、「緊急時または用事の際には祖父母・兄弟等の親族にみてもらえる(47.4%)」が4割台、「緊急時または用事の際には友人・知人にみてもらえる(15.7%)」が1割台であり、「日常的に祖父母・兄弟等の親族にみてもらえる(9.6%)」は1割以下となっている。また、「いずれもない」は35.3%となっている。

子どもを保護者に代わってみてくれる親族・知人の有無(全体):複数回答



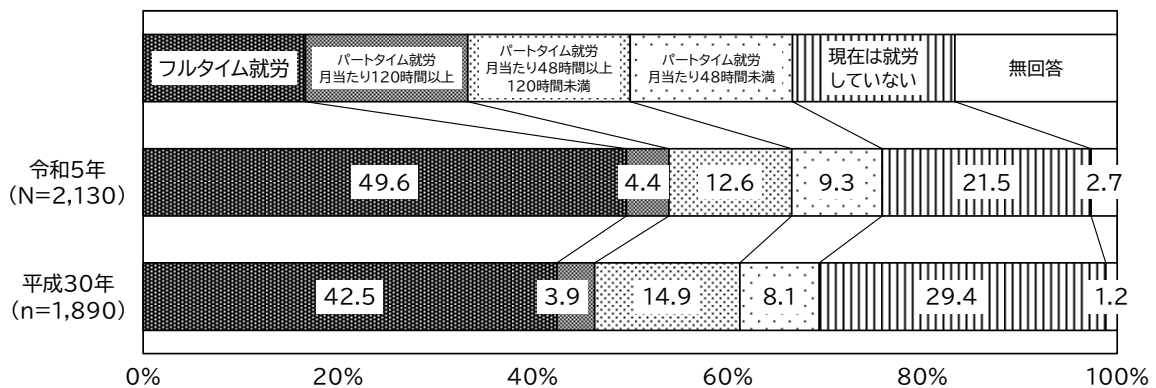
## 3 保護者の就労状況

### (1)母親の現在の就労状況

母親の現在の就労状況は、「フルタイム就労(49.6%)」が5割弱で最も高く、「現在は就労していない(21.5%)」が続いている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では「フルタイム就労(42.5%→49.6%)」の割合が高くなり、「現在は就労していない(29.4%→21.5%)」の割合が低くなっている。

母親の現在の就労状況(全体)【経年比較】

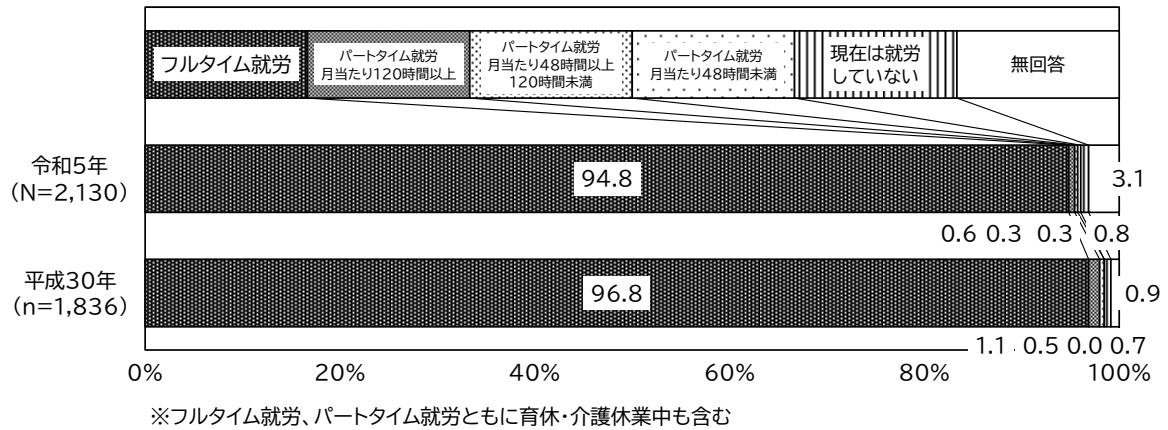


※フルタイム就労、パートタイム就労ともに育休・介護休業中も含む

## (2) 父親の現在の就労状況

父親の現在の就労状況は、「フルタイム就労(94.8%)」で最も高くなっている。  
平成30年調査と同様の傾向である。

父親の現在の就労状況(全体)【経年比較】

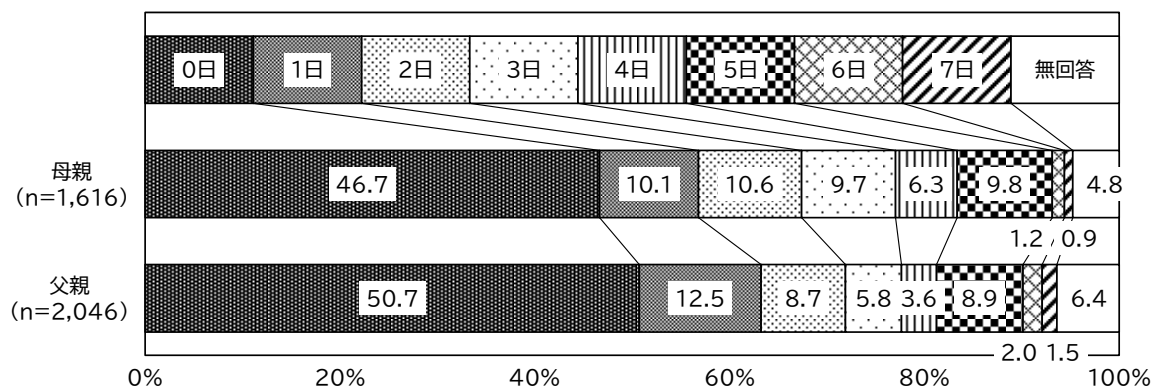


## (3) 母親・父親の1週間当たりの在宅勤務日数

就労している母親の1週間当たりの在宅勤務日数は、「0日(46.7%)」が4割台であり、「2日(10.6%)」と「1日(10.1%)」が1割を超えている。平均は1.6日である。

就労している人の父親の1週間当たりの在宅勤務日数は、「0日(50.7%)」が約5割であり、「1日(12.5%)」が1割を超えている。となっている。平均は1.4日である。

母親・父親の1週間当たりの在宅勤務日数(全体)



## 4 地域の子育て支援事業の利用状況

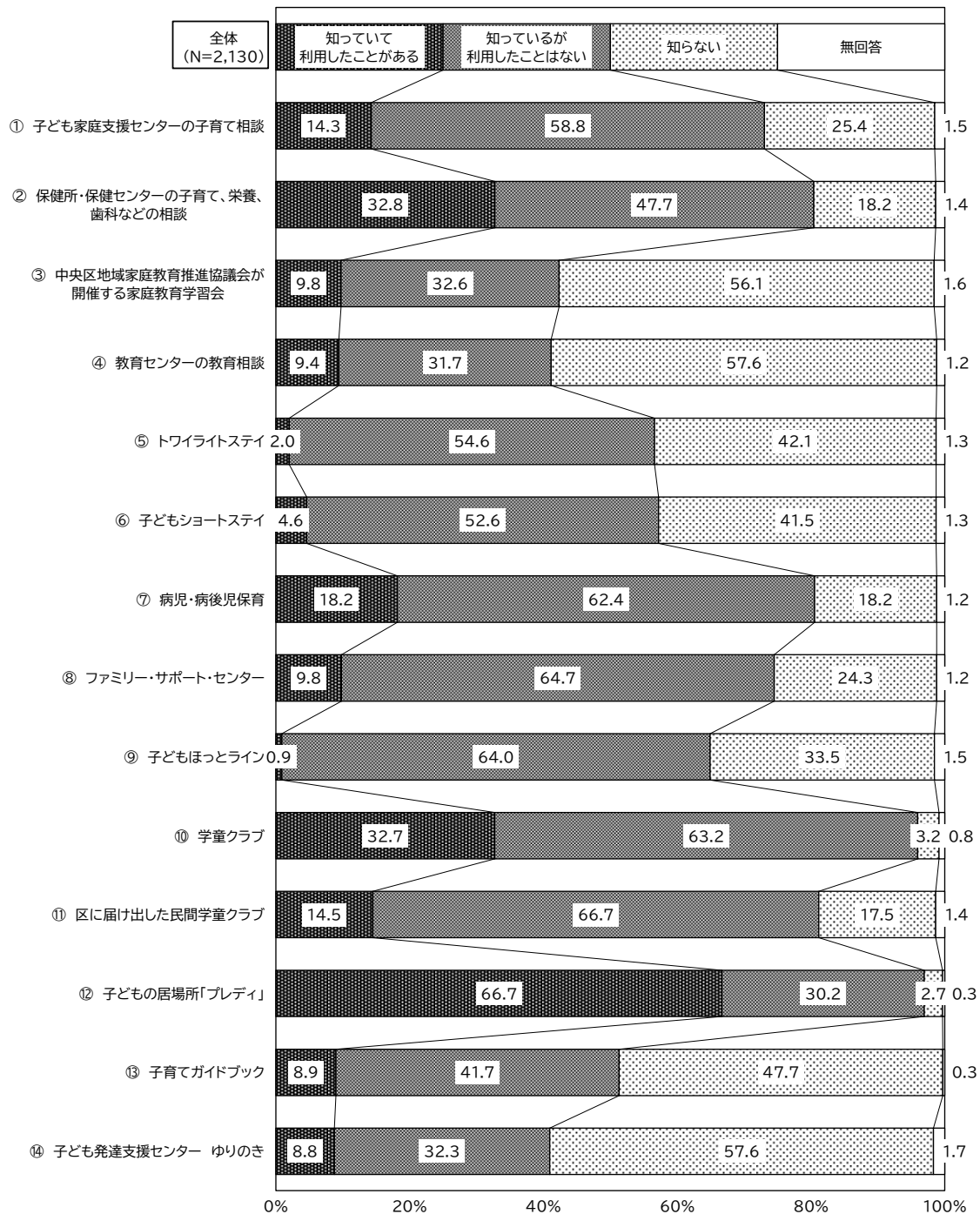
### (1) 地域子育て支援事業の認知度・利用状況、利用意向

#### ◆ 認知度・利用状況

地域子育て支援事業の認知度・利用状況は、「知っているが利用したことがある」の割合は、『⑫ 子どもの居場所「プレディ」(66.7%)』が最も高く、『② 保健所・保健センターの子育て、栄養、歯科などの相談(32.8%)』、『⑩ 学童クラブ(32.7%)』までが3割を超えている。

また、「知らない」の割合は、『④ 教育センターの教育相談(57.6%)』、『⑭ 子ども発達支援センター ゆりのき(57.6%)』、『③ 中央区地域家庭教育推進協議会が開催する家庭教育学習会(56.1%)』が5割を超えている。

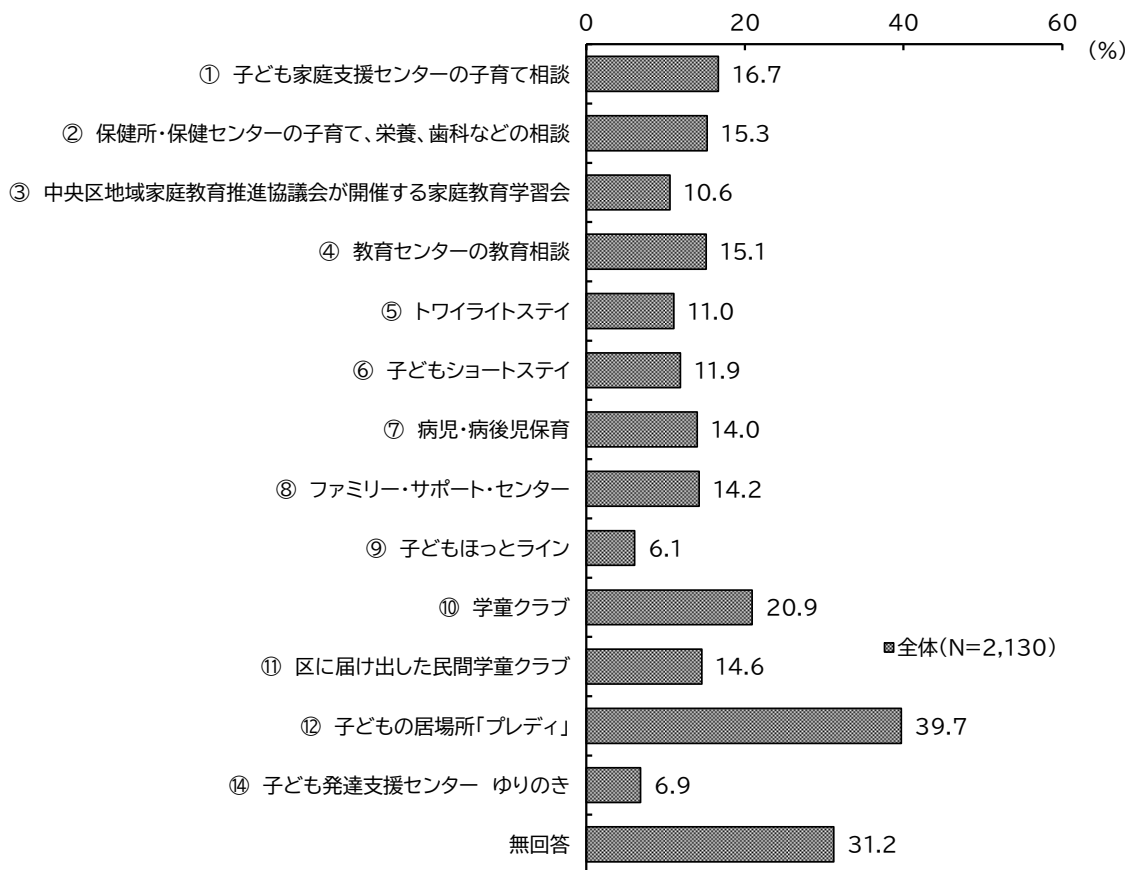
地域子育て支援事業の認知度・利用状況(①～⑭)(全体)



◆今後必要な時の利用意向

今後必要な時の利用意向は、「⑫ 子どもの居場所「プレディ」(39.7%)」が最も高く、「⑩ 学童クラブ(20.9%)」、「① 子ども家庭支援センターの子育て相談(16.7%)」が続いている。

地域子育て支援事業の今後必要な時の利用意向(全体):複数回答

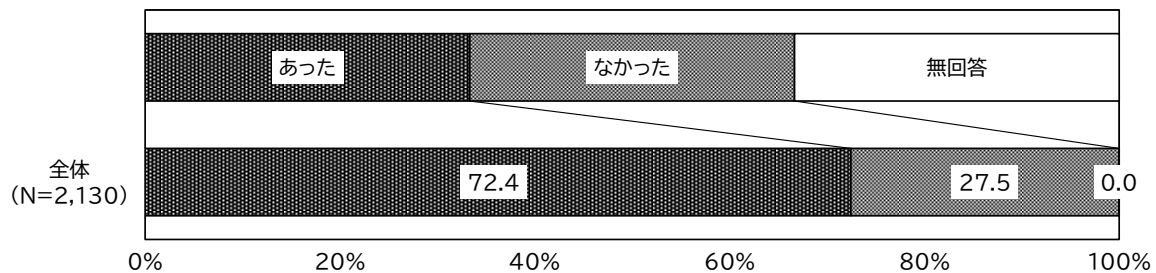


## 5 病気やケガの際の対応

### (1)この1年間の子どもの病気やケガの経験の有無

この1年間の子どもの病気やケガの経験の有無は、「あった」が72.4%となっている。

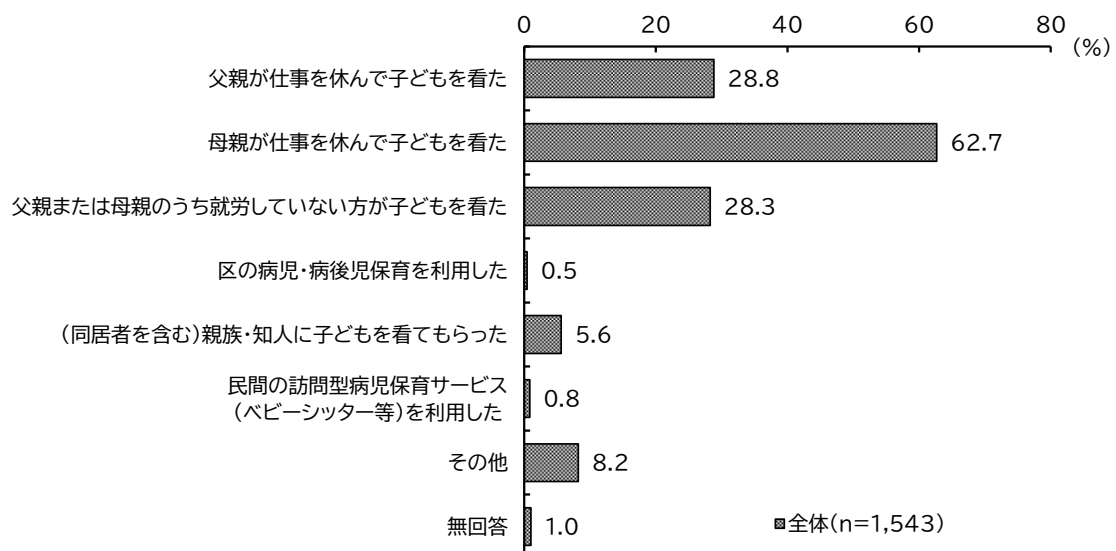
この1年間の子どもの病気やケガの経験の有無(全体)



### (2)病気やケガの場合の対処方法

この1年間に子どもの病気やケガの経験があった人に、病気やケガの場合の対処方法をたずねたところ、「母親が仕事を休んで子どもを見た(62.7%)」が最も高く、「父親が仕事を休んで子どもを見た(28.8%)」、「父親または母親のうち就労していない方が子どもを見た(28.3%)」が続いている。

病気やケガの場合の対処方法(全体):複数回答  
 <この1年間に子どもの病気やケガの経験があった人>

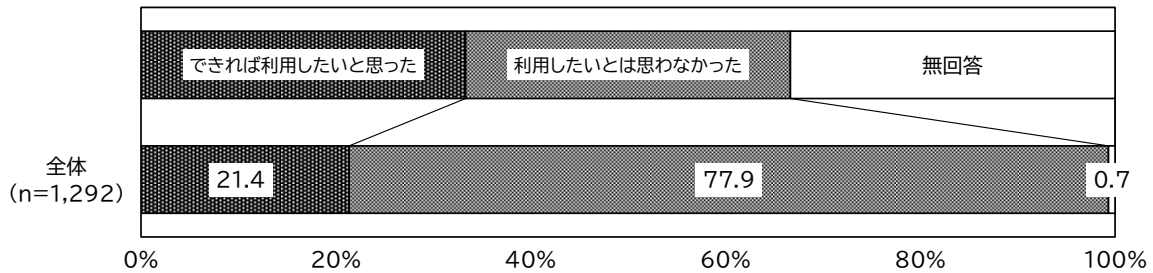


### (3) 区の病児・病後児保育の利用希望

この1年間に子どもの病気やケガの経験があった人で、父親や母親が仕事を休んで子どもを見た人に、区の病児・病後児保育の利用希望をたずねたところ、「できれば利用したいと思った」が21.4%となっている。

区の病児・病後児保育の利用希望(全体)

<この1年間に子どもの病気やケガの経験があった人で、父親や母親が仕事を休んで子どもを見た人>

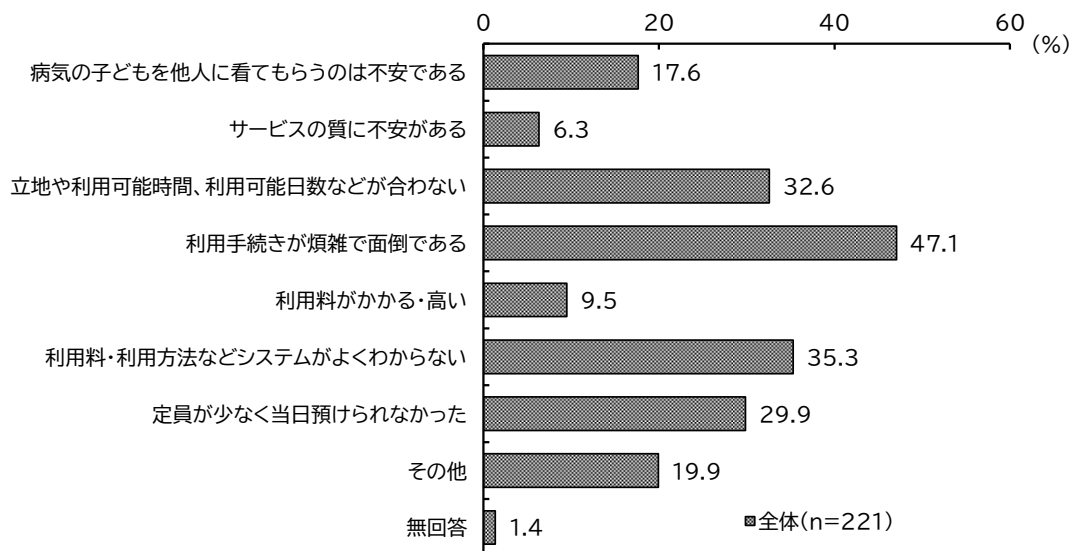


### (4) 区の病児・病後児保育を利用したいと思ったが利用しなかった理由

この1年間に子どもの病気やケガの経験があった人で、父親や母親が仕事を休んで子どもを見た人のうち区の病児・病後児保育をできれば利用したいと思った人に、利用しなかった理由をたずねたところ、「利用手続きが煩雑で面倒である(47.1%)」が最も高く、「利用料・利用方法などシステムがよくわからない(35.3%)」、「立地や利用可能時間、利用可能日数などが合わない(32.6%)」が続いている。

区の病児・病後児保育を利用したいと思ったが利用しなかった理由(全体):複数回答

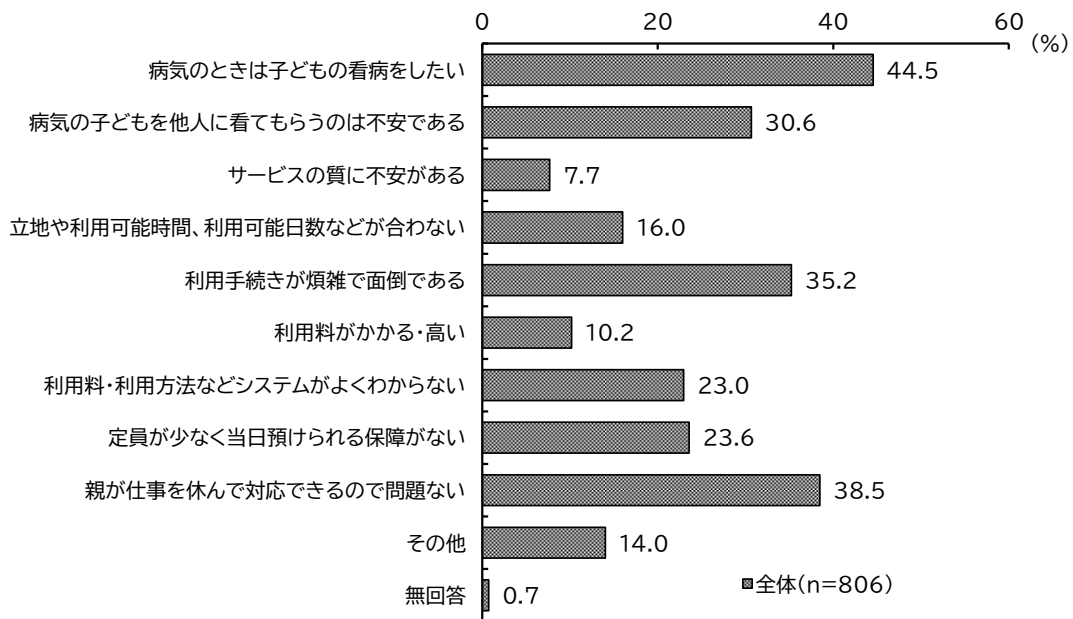
<父親や母親が仕事を休んで子どもを見た人のうち区の病児・病後児保育をできれば利用したいと思った人>



## (5) 区の病児・病後児保育を利用したいとは思わなかった理由

この1年間に病気やケガの経験があった人で、父親や母親が仕事を休んで子どもを見た人のうち区の病児・病後児保育を利用したいとは思わなかった人に、利用したいとは思わなかった理由をたずねたところ、「病気のときは子どもの看病をしたい(44.5%)」が最も高く、「親が仕事を休んで対応できるので問題ない(38.5%)」、「利用手続きが煩雑で面倒である(35.2%)」が続いている。

区の病児・病後児保育を利用したいと思ったが利用しなかった理由(全体):複数回答  
<父親や母親が仕事を休んで子どもを見た人のうち区の病児・病後児保育を利用したいとは思わなかった人>



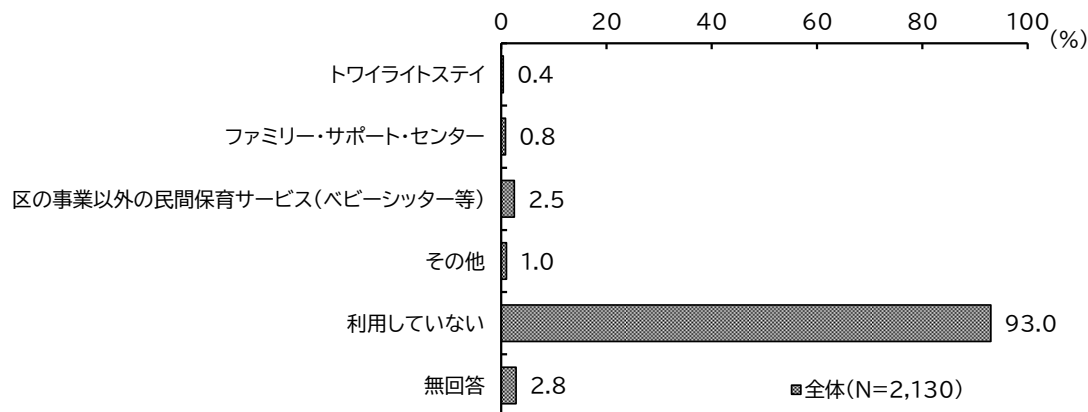


## 6 不定期の子育て支援事業の利用

### (1)この1年間に不定期に利用した事業

この1年間に家族の通院、冠婚葬祭、就労などの目的で不定期に利用した事業は、「区の事業以外の民間保育サービス(ベビーシッター等)(2.5%)」が最も高くなっている。「利用していない」は 93.0%である。

この1年間で家族の通院、冠婚葬祭、就労などの目的で不定期に利用した事業(全体):複数回答

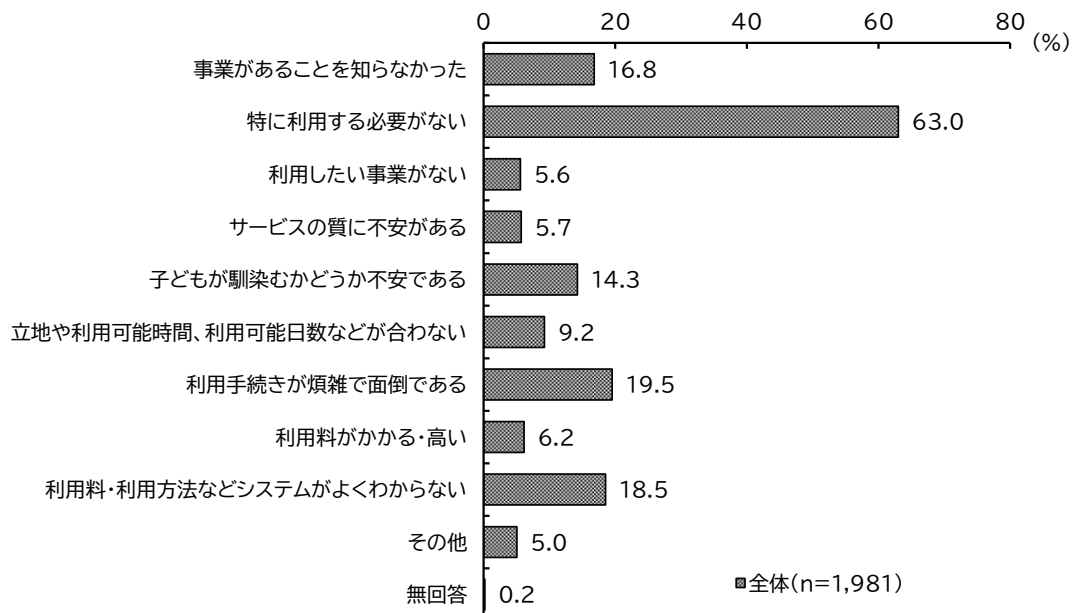


### (2)この1年間に不定期で事業を利用していない理由

この1年間に家族の通院、冠婚葬祭、就労などの目的で不定期で事業を利用していない人に、不定期で事業を利用していない理由をたずねたところ、「特に利用する必要がない(63.0%)」が最も高く、「利用手続きが煩雑で面倒である(19.5%)」、「利用料・利用方法などシステムがよくわからない(18.5%)」が続いている。

不定期で事業を利用していない理由(全体):複数回答

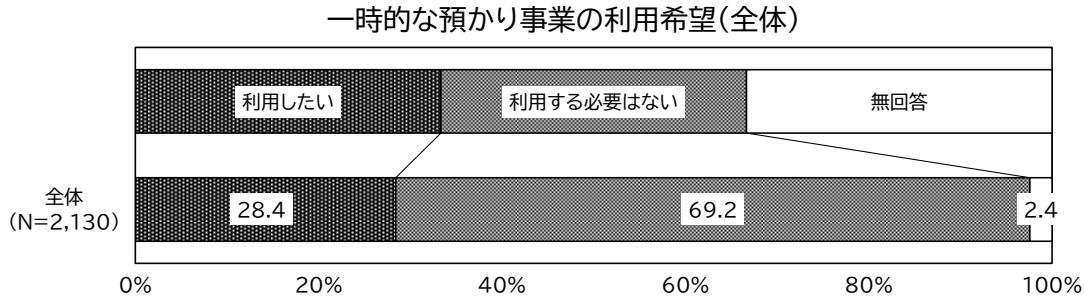
<この1年間で家族の通院、冠婚葬祭、就労などの目的で不定期で事業を利用していない人>



### (3)一時的な預かり事業の利用希望

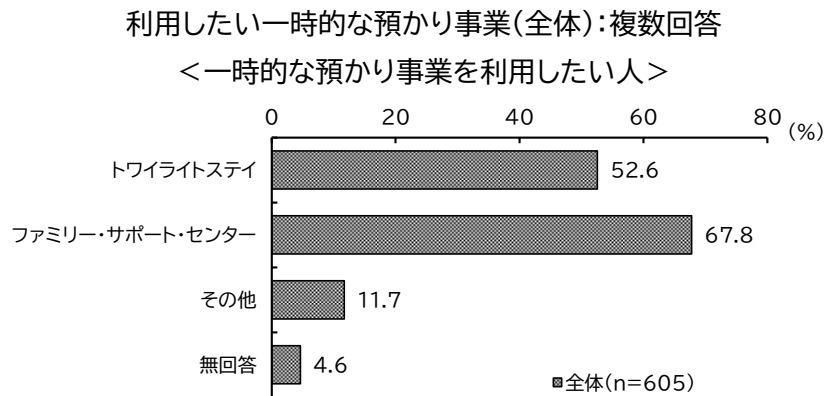
#### ◆一時的な預かり事業の利用希望

家族の通院、冠婚葬祭、就労などの目的による一時的な預かり事業の利用希望は、「利用したい」が28.4%となっている。



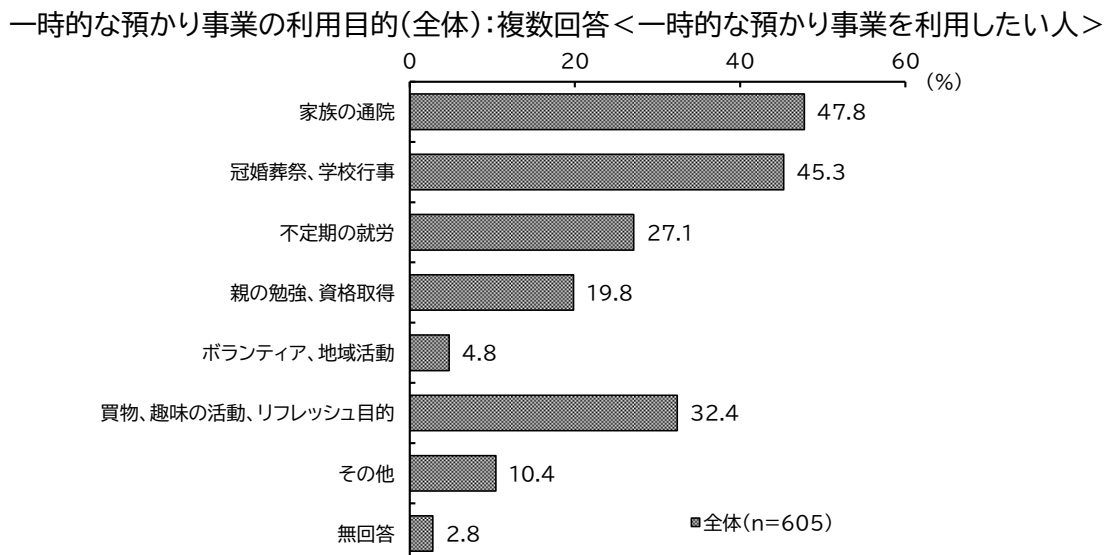
#### ◆利用したい一時的な預かり事業

家族の通院、冠婚葬祭、就労などの目的による一時的な預かり事業を利用したい人に、利用したい一時的な預かり事業をたずねたところ、「ファミリー・サポート・センター」が67.8%、「トワイライトステイ」が52.6%となっている。



#### ◆一時的な預かり事業の利用目的

家族の通院、冠婚葬祭、就労などの目的による一時的な預かり事業を利用したい人に、一時的な預かり事業の利用目的をたずねたところ、「家族の通院(47.8%)」が最も高く、「冠婚葬祭、学校行事(45.3%)」、「買物、趣味の活動、リフレッシュ目的(32.4%)」が続いている。

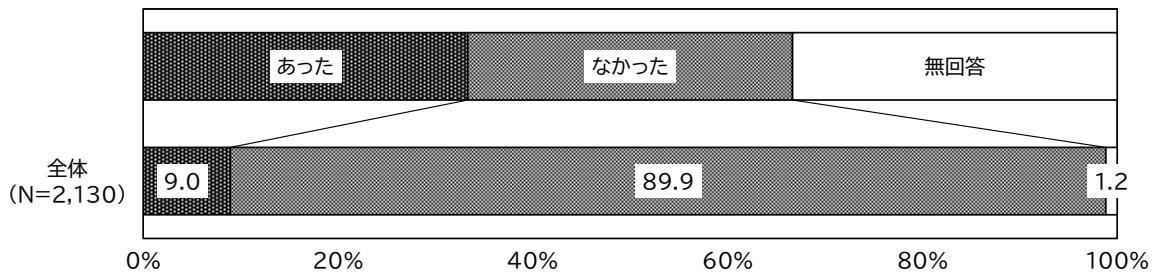


## (4) 宿泊を伴う一時預かりの状況

### ◆ 宿泊を伴う一時預かり等の必要性の有無

この1年間に冠婚葬祭、家族の病気などによる宿泊を伴う一時預かり等の必要性の有無は、「あった」が9.0%となっている。

宿泊を伴う一時預かり等の必要性の有無(全体)

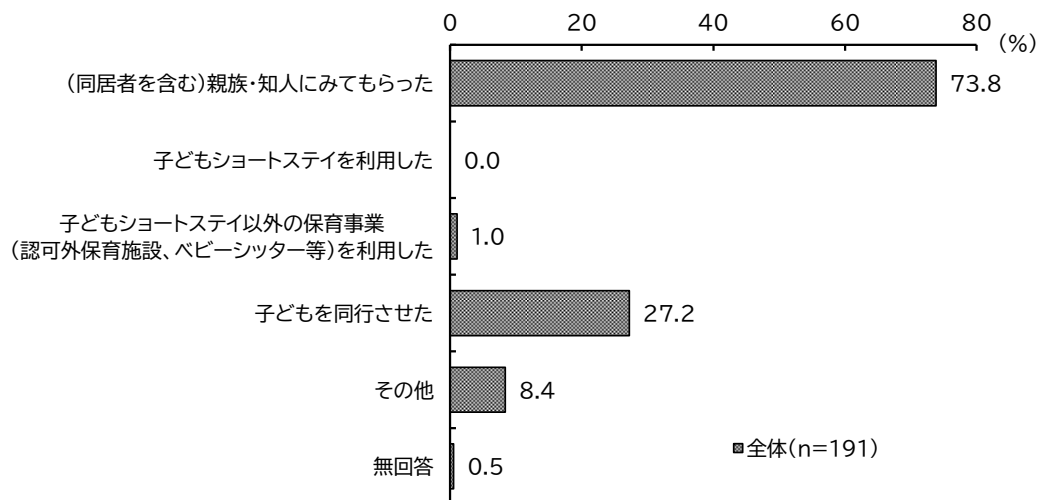


### ◆ 宿泊を伴う一時預かりが必要となった場合の対処方法

この1年間に冠婚葬祭、家族の病気などによる宿泊を伴う一時預かり等の必要性があった人に、対処方法をたずねたところ、「(同居者を含む)親族・知人にみもらった(73.8%)」が最も高く、「子どもを同行させた(27.2%)」が続いている。

対処方法(全体):複数回答

<この1年間に冠婚葬祭、家族の病気などによる宿泊を伴う一時預かり等の必要性があった人>



## 7 放課後の過ごし方

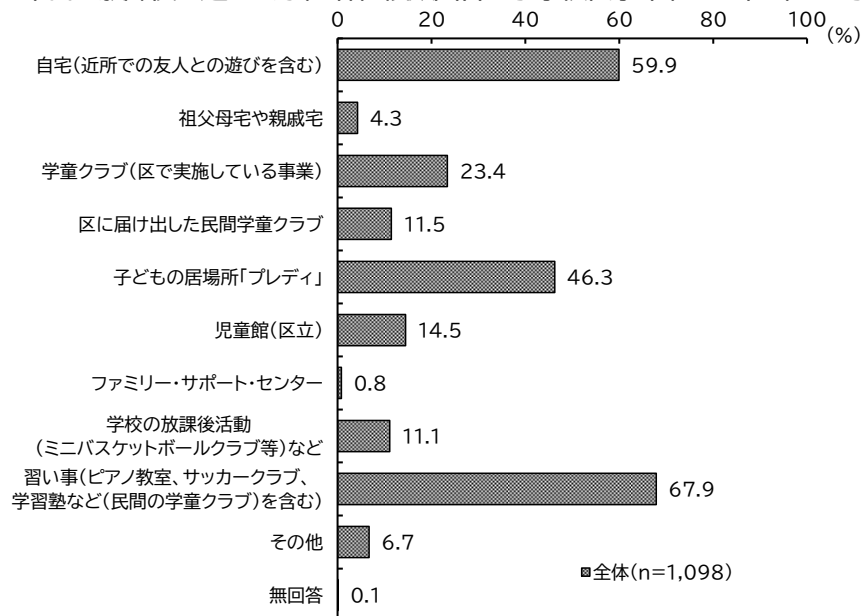
### (1) 平日の放課後の過ごし方

小学校低学年(1～3年生)のお子さんがある人の小学校低学年時の平日の放課後の過ごし方は、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など(民間の学童クラブを含む)(67.9%)」が最も高く、「自宅(近所での友人との遊びを含む)(59.9%)」、「子どもの居場所「プレディ」(46.3%)」、「学童クラブ(区で実施している事業)(23.4%)」が続いている。

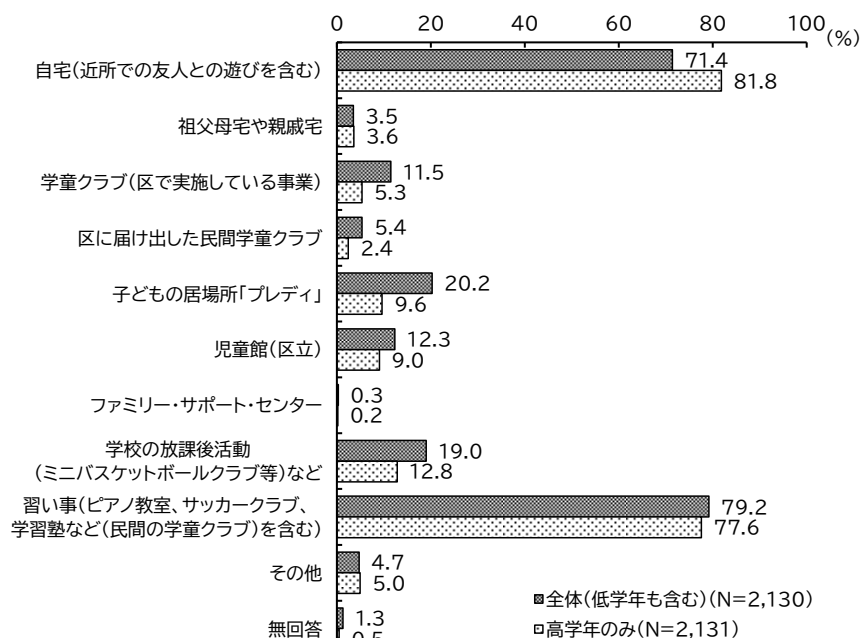
小学校高学年時の平日の放課後の過ごし方は、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など(民間の学童クラブを含む)(79.2%)」が最も高く、「自宅(近所での友人との遊びを含む)(71.4%)」、「子どもの居場所「プレディ」(20.2%)」、「学校の放課後活動(ミニバスケットボールクラブ等)など(19.0%)」が続いている。

高学年のみでは、「自宅(近所での友人との遊びを含む)(81.8%)」が最も高く、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など(民間の学童クラブを含む)(77.6%)」が続いている。

小学校低学年時の平日の放課後の過ごし方(全体):複数回答<小学校低学年(1～3年生)のお子さんがある人>



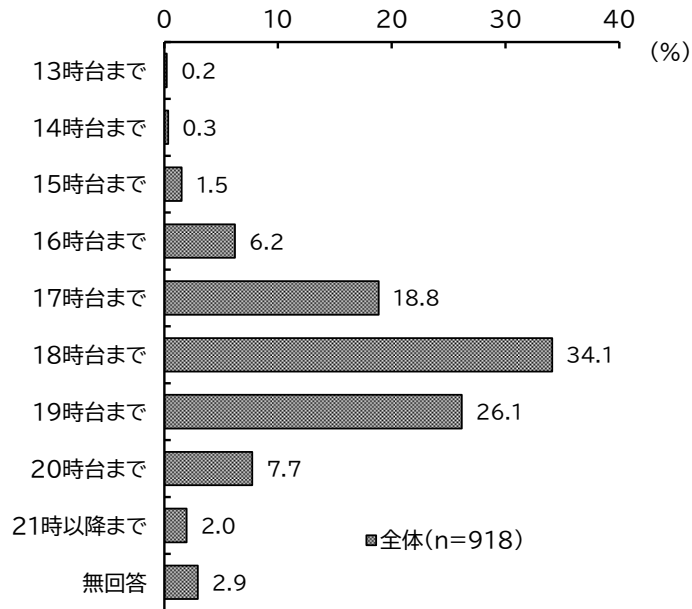
小学校高学年時の平日の放課後の過ごし方(全体):複数回答



## (2)学童クラブ等の利用希望時間帯

学童クラブ、子どもの居場所「プレディ」、区に届け出した民間学童クラブの利用を希望する人(918人)に、利用希望時間帯をたずねたところ、下校時から「18時台まで(34.1%)」が最も多く、「19時台まで(26.1%)」、「17時台まで(18.8%)」が続いている。

学童クラブや子どもの居場所「プレディ」、区に届け出した民間学童クラブの利用希望時間帯(全体)  
 <学童クラブ、子どもの居場所「プレディ」、区に届け出した民間学童クラブの利用を希望する人>

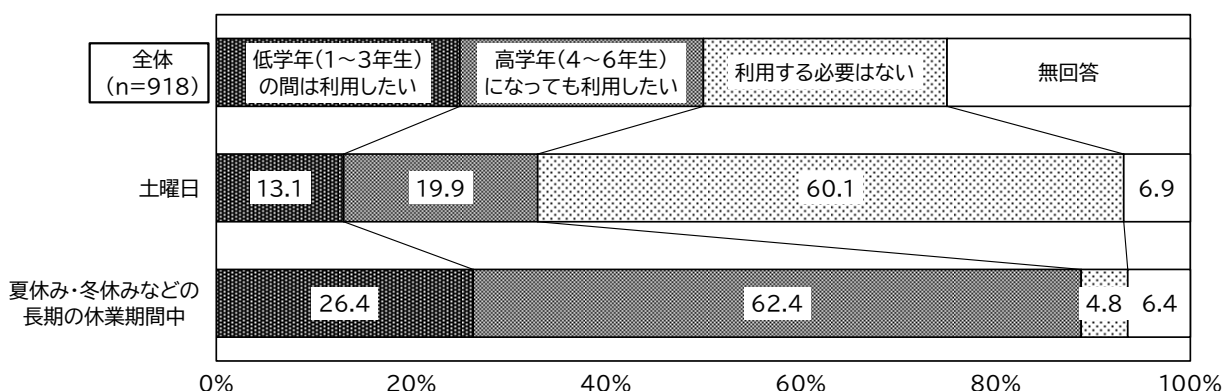


## (3)土曜日、長期の休業期間中の学童クラブ等の利用意向

学童クラブ、子どもの居場所「プレディ」、区に届け出した民間学童クラブの利用を希望する人に、土曜日や長期の休業期間中の学童クラブや子どもの居場所「プレディ」、区に届け出した民間学童クラブの利用意向をたずねた。土曜日は、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が 13.1%、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」が 19.9%、「利用する必要はない」が 60.1%となっている。長期の休業期間中は、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が 26.4%、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」が 62.4%、「利用する必要はない」が 4.8%となっている。

土曜日、長期の休業期間中の学童クラブ等の利用意向(全体)

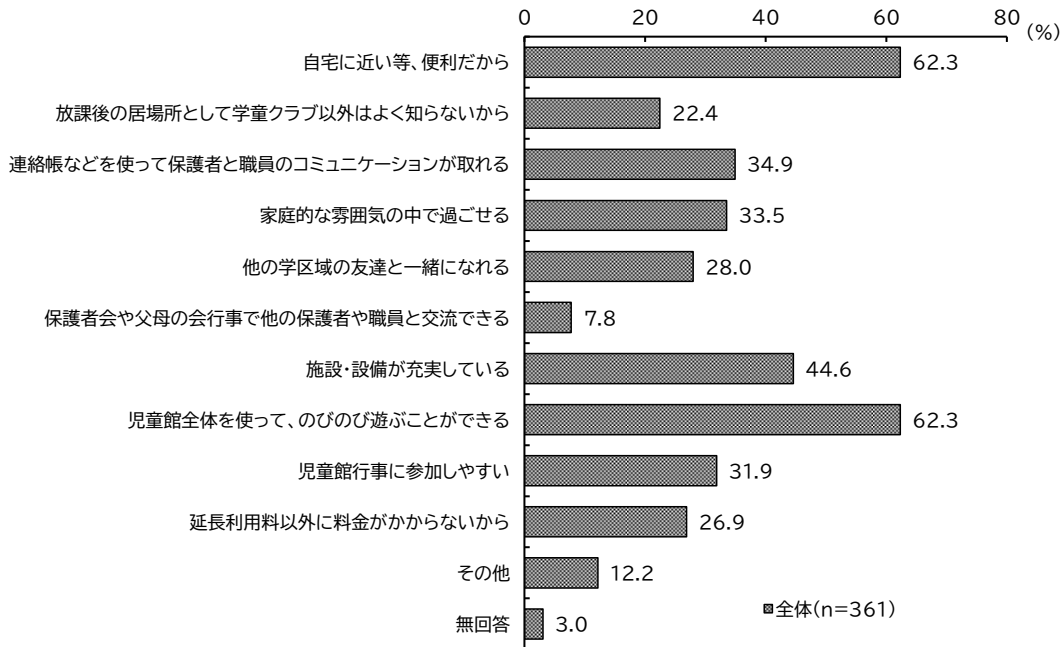
<学童クラブ、子どもの居場所「プレディ」、区に届け出した民間学童クラブの利用を希望する人>



#### (4)学童クラブを利用したい理由

学童クラブの利用を希望する人に、学童クラブを利用したい理由をたずねたところ、「自宅に近い等、便利だから(62.3%)」と「児童館全体を使って、のびのび遊ぶことができる(62.3%)」が同率で最も高く、「施設・設備が充実している(44.6%)」が続いている。

学童クラブを利用したい理由(全体):複数回答<学童クラブの利用を希望する人>

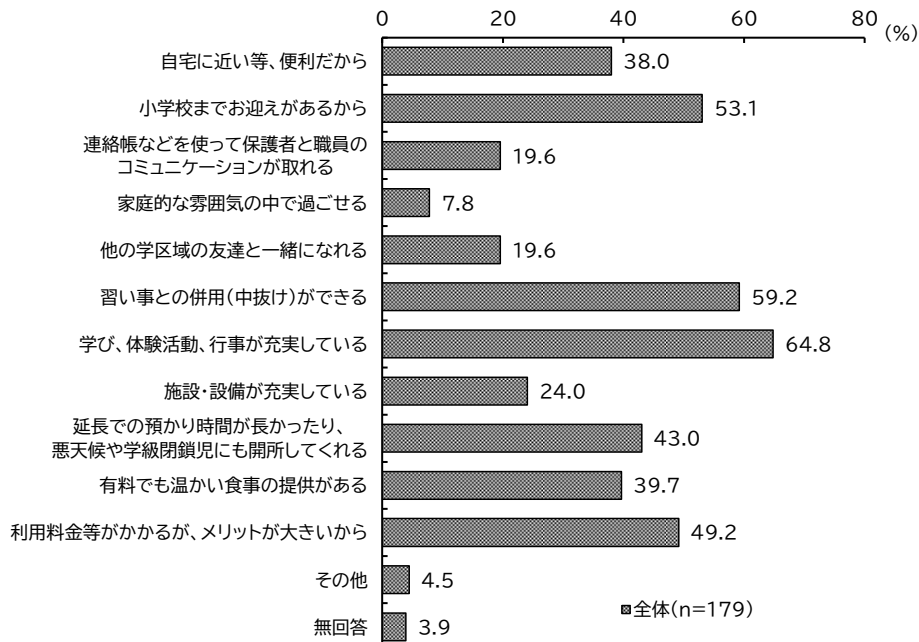


#### (5)区に届け出した民間学童クラブを利用したい理由

区に届け出した民間学童クラブの利用を希望する人に、「区に届け出した民間学童クラブ」を利用したい理由をたずねたところ、「学び、体験活動、行事が充実している(64.8%)」が最も高く、「習い事との併用(中抜け)ができる(59.2%)」、「小学校までお迎えがあるから(53.1%)」が続いている。

「区に届け出した民間学童クラブ」を利用したい理由(全体):複数回答

<区に届け出した民間学童クラブの利用を希望する人>

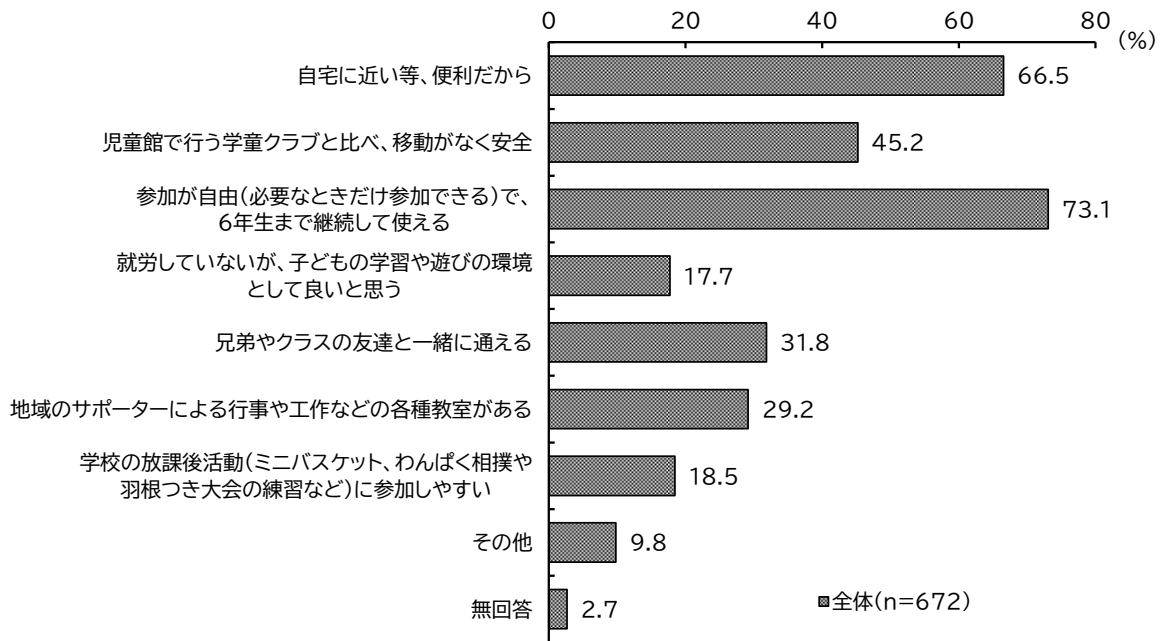


## (6)子どもの居場所「プレディ」を利用したい理由

子どもの居場所「プレディ」の利用を希望する人に、子どもの居場所「プレディ」を利用したい理由をたずねたところ、「参加が自由(必要なときだけ参加できる)で、6年生まで継続して使える(73.1%)」が最も高く、「自宅に近い等、便利だから(66.5%)」、「児童館で行う学童クラブと比べ、移動がなく安全(45.2%)」が続いている。

子どもの居場所「プレディ」を利用したい理由(全体):複数回答

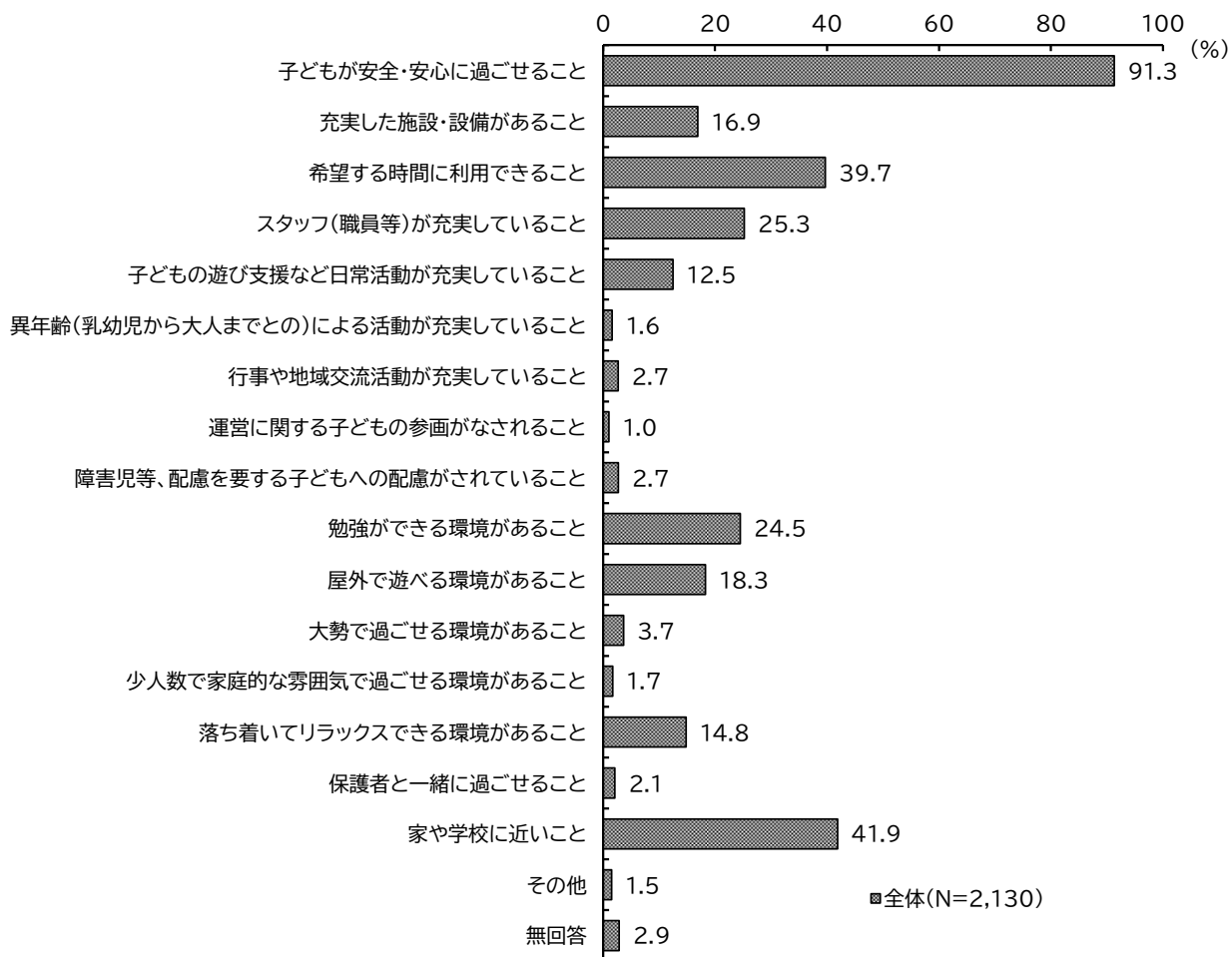
<子どもの居場所「プレディ」の利用を希望する人>



## (7)子どもが放課後過ごす場所として重視していること

子どもが放課後過ごす場所として重視していることは、「子どもが安全・安心に過ごせること(91.3%)」が9割を超えて最も高く、「家や学校に近いこと(41.9%)」、「希望する時間に利用できること(39.7%)」が続いている。

子どもが放課後過ごす場所として重視していること:複数回答(3つまで)





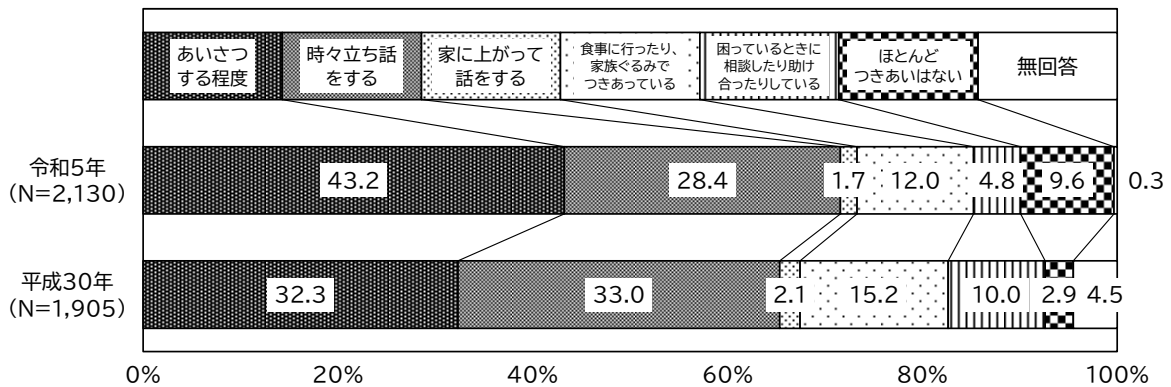
## 8 地域における子育て

### (1)近所づきあいの程度

近所づきあいの程度は、「あいさつする程度(43.2%)」が最も高く、「時々立ち話をする(28.4%)」、「食事に行ったり、家族ぐるみでつきあっている(12.0%)」が続いている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では「あいさつする程度(32.3%→43.2%)」、「ほとんどつきあいはない(2.9%→9.6%)」の割合が高くなっている。

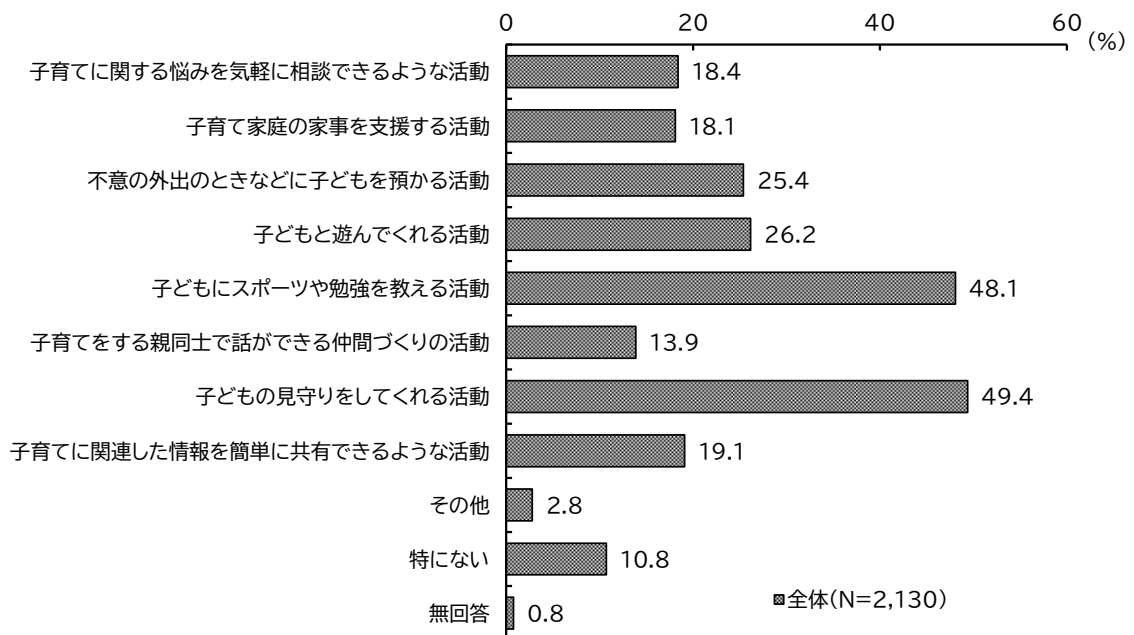
近所づきあいの程度(全体)【経年比較】



### (2)期待する地域住民による子ども・子育て支援活動

期待する地域住民による子ども・子育て支援活動は、「子どもの見守りをしてくれる活動(49.4%)」が最も高く、「子どもにスポーツや勉強を教える活動(48.1%)」、「子どもと遊んでくれる活動(26.2%)」、「不意の外出のときなどに子どもを預かる活動(25.4%)」が続いている。

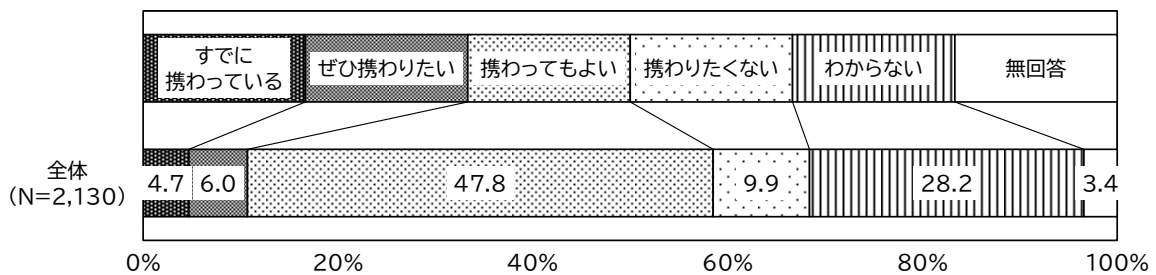
期待する地域住民による子ども・子育て支援活動(全体):複数回答



### (3)地域住民による子ども・子育て支援活動に将来的に携わってもよいか

地域住民による子ども・子育て支援活動に将来的に携わってもよいかたずねたところ、「すでに携わっている」が4.7%、「ぜひ携わりたい」が6.0%、「携わってもよい」が47.8%であり、合計すると、携わる意向がある人は58.5%となっている。

地域住民による子ども・子育て支援活動に将来的に携わってもよいか(全体)

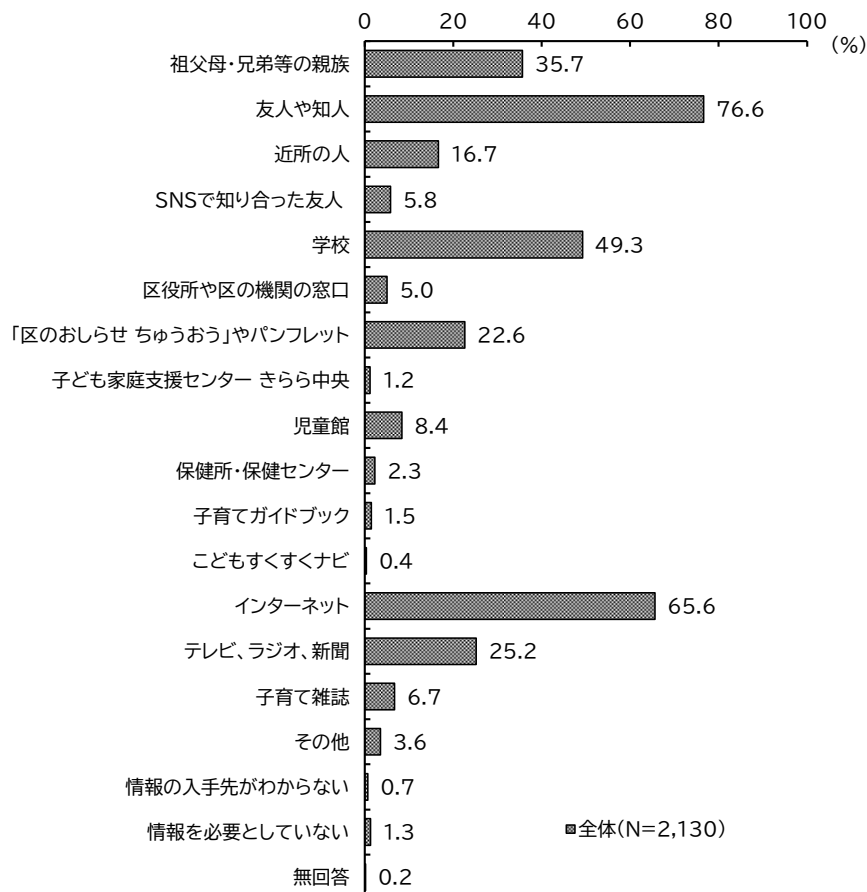


## 9 子育てに関する意識

### (1)子育てに関する情報の入手先

子育てに関する情報の入手先は、「友人や知人(76.6%)」が最も高く、「インターネット(65.6%)」、「学校(49.3%)」が続いている。「情報の入手先がわからない」は0.7%となっている。

子育てに関する情報の入手先(全体)

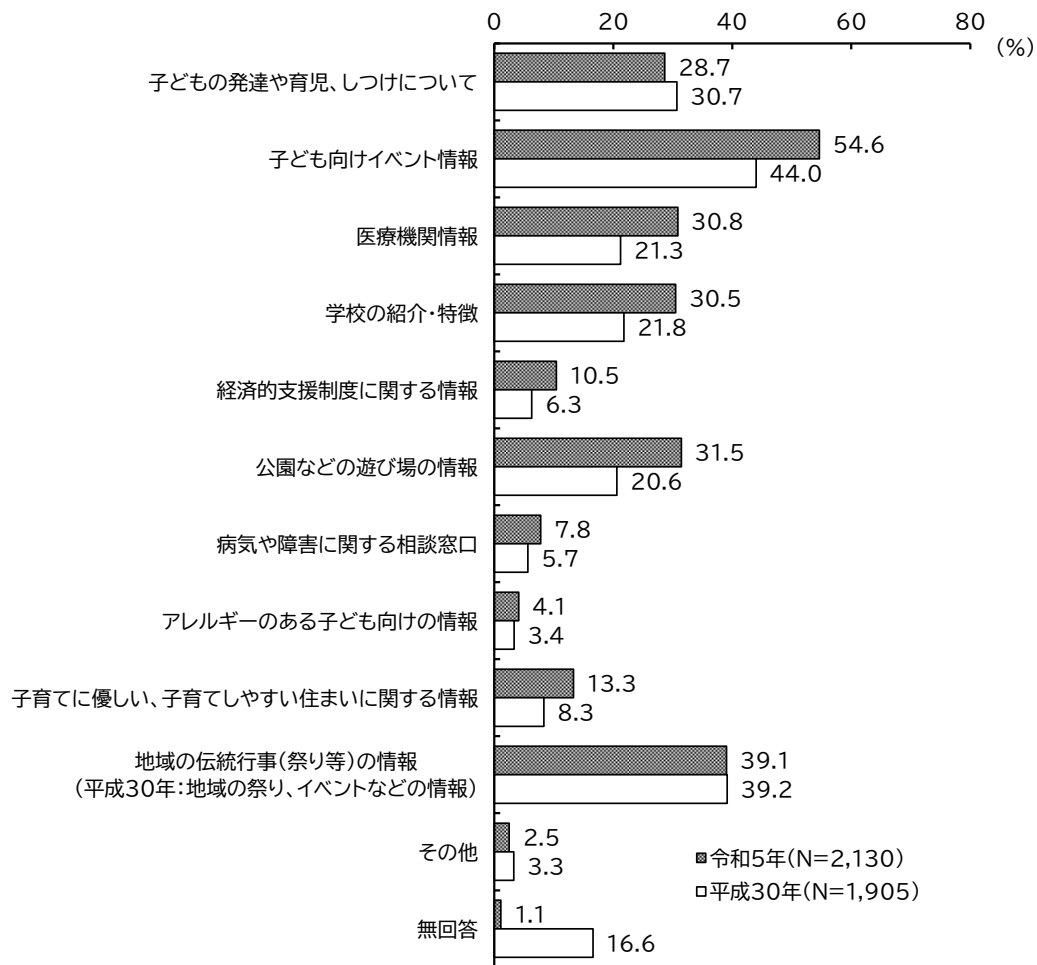


## (2)子育てに関してほしい情報

子育てに関してほしい情報は、「子ども向けイベント情報(54.6%)」が最も高く、「地域の伝統行事(祭り等)などの情報(39.1%)」、「公園などの遊び場の情報(31.5%)」、「医療機関情報(30.8%)」、「学校の紹介・特徴(30.5%)」が続いている。

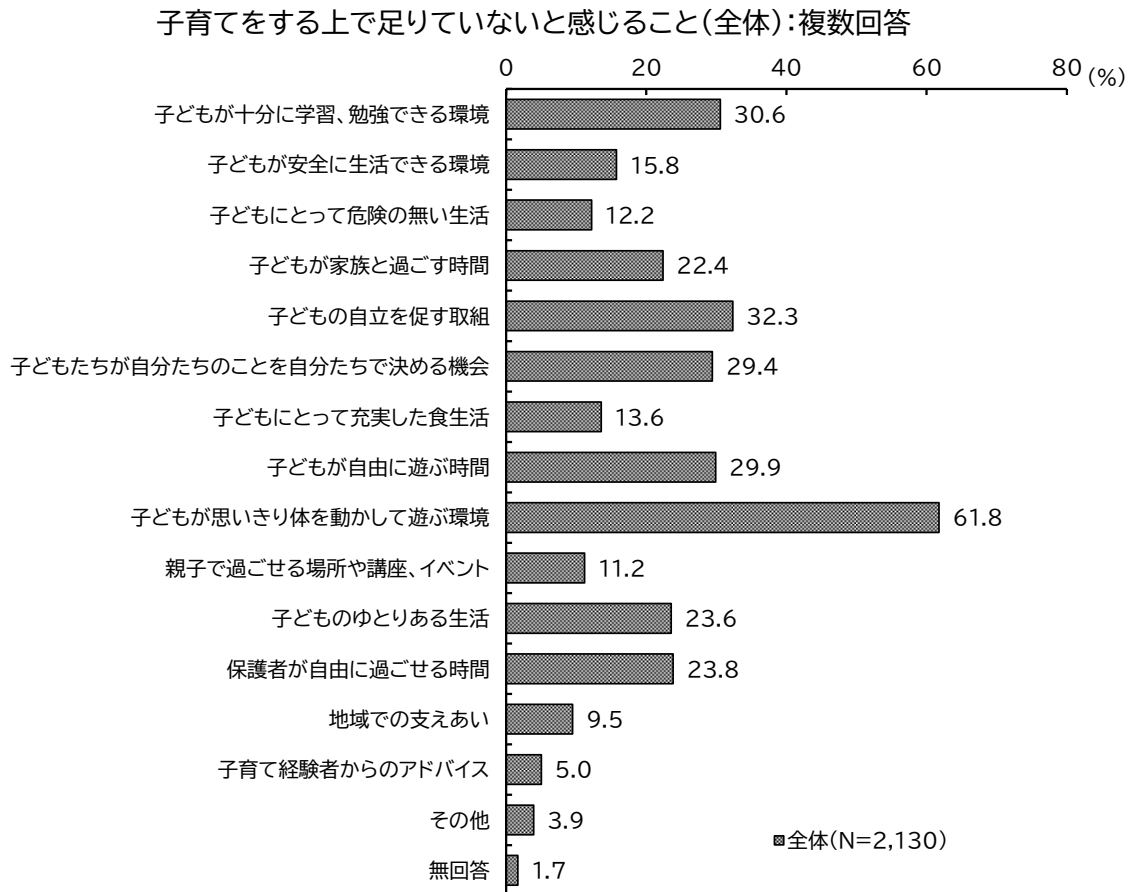
平成30年調査においても上位2項目は同様に「子ども向けイベント情報(44.0%)」、「地域の伝統行事(祭り等)の情報(平成30年:地域の祭り、イベントなどの情報)(39.2%)」であり、3位は「子どもの発達や育児、しつけについて(30.7%)」となっている。

子育てに関してほしい情報(全体):複数回答(3つまで)【経年比較】



### (3)子育てをする上で足りていないと感じること

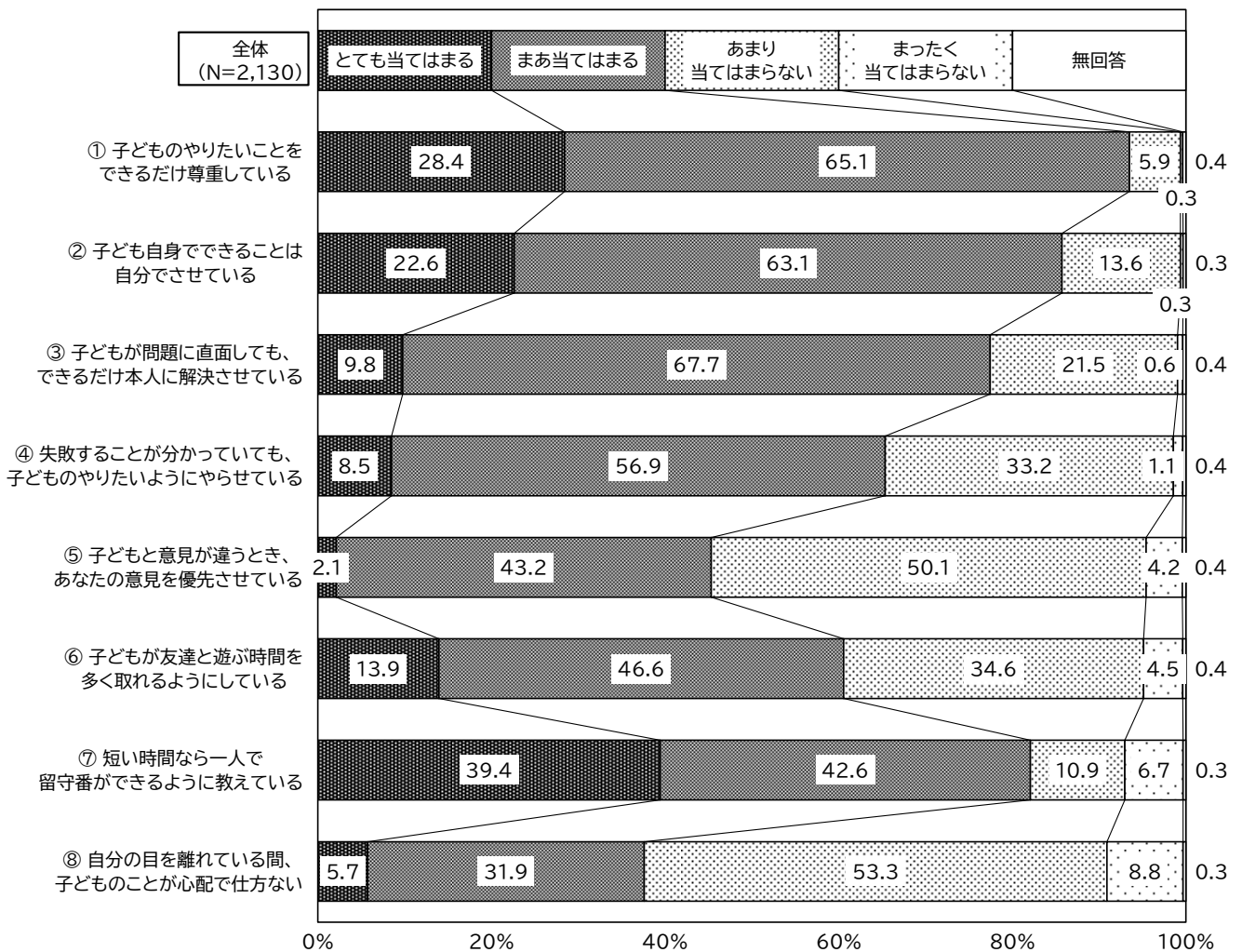
子育てをする上で足りていないと感じることは、「子どもが思いきり体を動かして遊ぶ環境(61.8%)」が最も高く、「子どもの自立を促す取組(32.3%)」、「子どもが十分に学習、勉強できる環境(30.6%)」、「子どもが自由に遊ぶ時間(29.9%)」、「子どもたちが自分たちのことを自分たちで決める機会(29.4%)」が続いている。



## (4) 普段のお子さんの関わりについて

普段のお子さんの関わりについてたずねたところ、『当てはまる』(「とても当てはまる」と「まあ当てはまる」の合計)の割合は、『① 子どものやりたいことをできるだけ尊重している(93.5%)』、『② 子ども自身でできることは自分でさせている(85.7%)』、『⑦ 短い時間なら一人で留守番ができるように教えている(82.0%)』で高くなっている。一方、『⑧ 自分の目を離れている間、子どものことが心配で仕方がない(37.6%)』、『⑤ 子どもと意見が違うときあなたの意見を優先させている(45.3%)』で低くなっている。

普段のお子さんの関わり(全体)

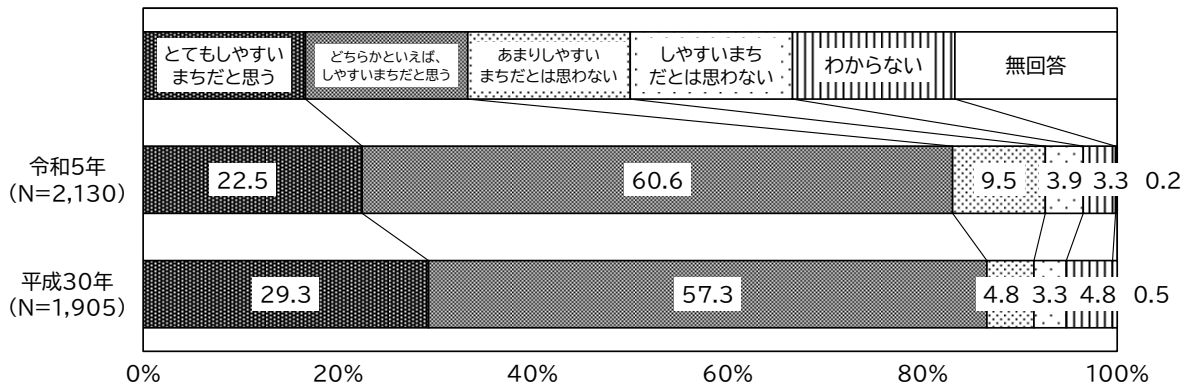


## (5)中央区は子育てしやすいまちか

中央区は子育てしやすいまちかたずねたところ、「とてもしやすいまちだと思う」が 22.5%、「どちらかといえば、しやすいまちだと思う」が 60.6%であり、合計した《しやすいまちだと思う》は 83.1%となっている。「あまりしやすいまちだとは思わない」が 9.5%、「しやすいまちだとは思わない」が 3.9%であり、合計した《しやすいまちだとは思わない》は 13.4%となっている。

平成 30 年調査と比較すると、令和 5 年調査では《しやすいまちだとは思わない(8.1%→13.4%)》の割合が高くなっている。

中央区は子育てしやすいまちか(全体)【経年比較】

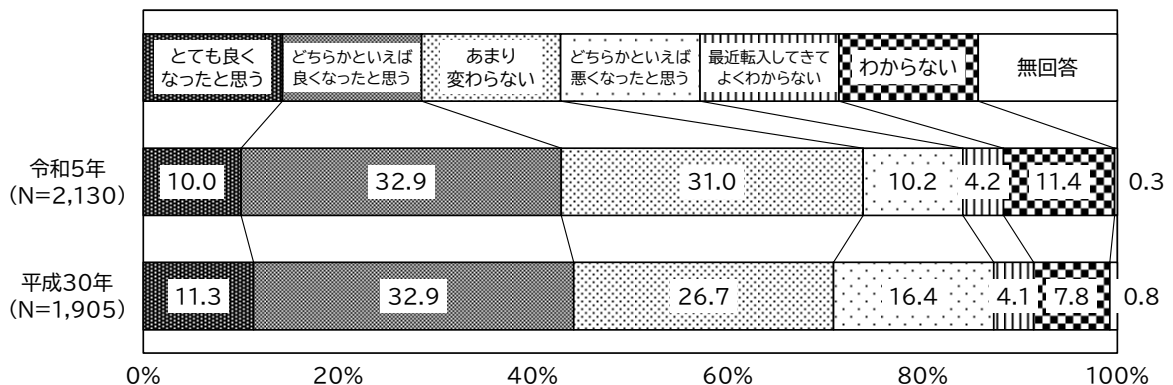


## (6)以前に比べ中央区の子育て環境は良くなったか

以前に比べ中央区の子育て環境は良くなったかたずねたところ、「とても良くなったと思う」が 10.0%、「どちらかといえば良くなったと思う」が 32.9%であり、合計した《よくなったと思う》は 42.9%となっている。

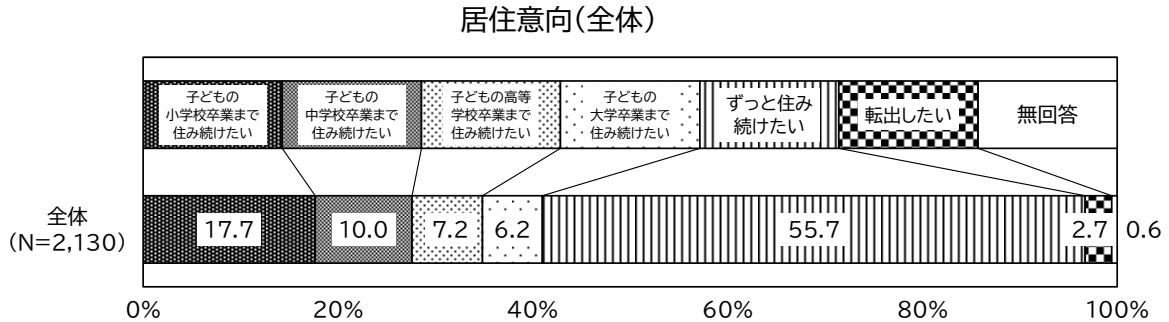
平成 30 年調査と比較すると、令和 5 年調査では、「あまり変わらない(26.7%→31.0%)」の割合が高くなっている。

以前に比べ中央区の子育て環境は良くなったか(全体)【経年比較】



## (7)居留意向

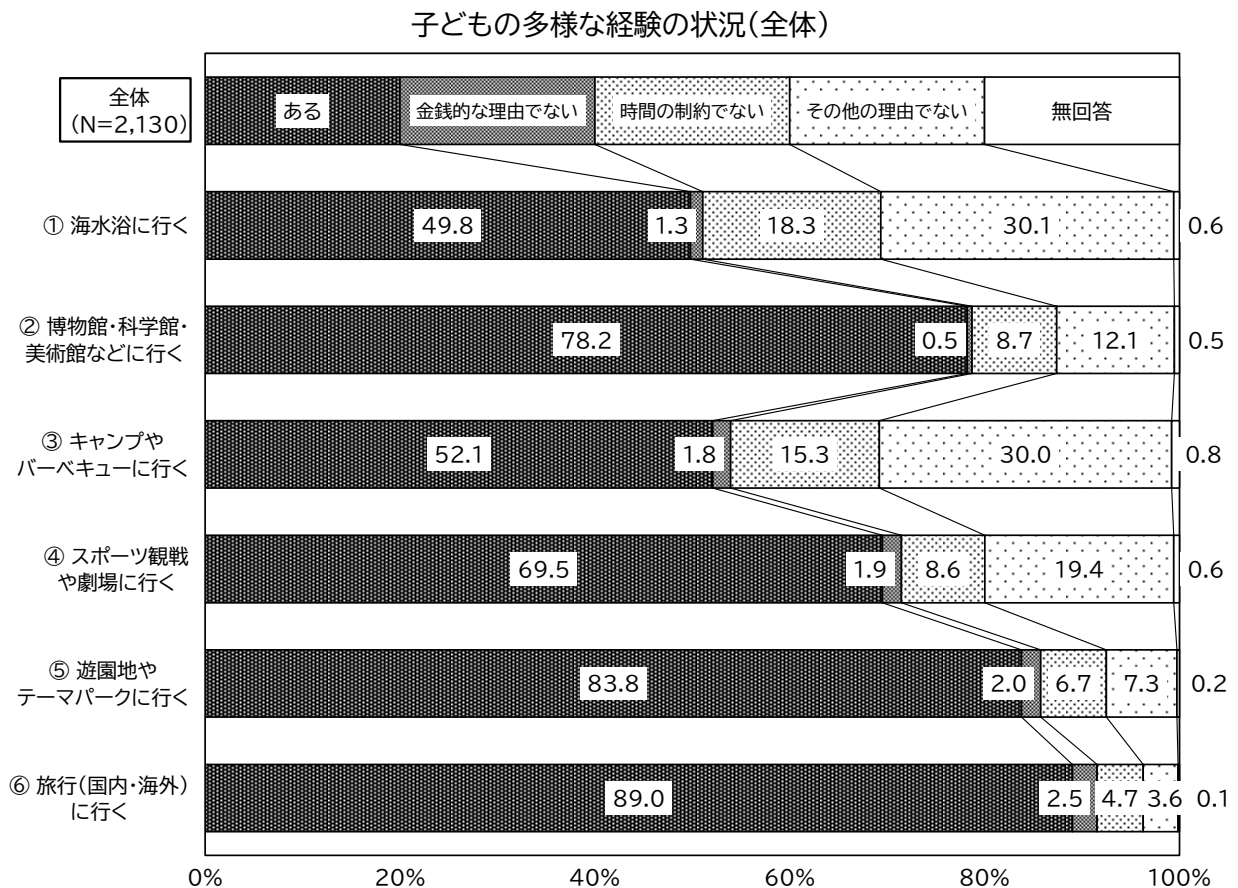
居留意向は、「ずっと住み続けたい(55.7%)」が最も高く、「子どもの小学校入学前まで住み続けたい(17.7%)」、「子どもの中学校卒業まで住み続けたい(10.0%)」が続いている。



## (8)子どもの多様な経験の状況

子どもの多様な経験の状況は、「ある」の割合は、『⑥ 旅行(国内・海外)に行く(89.0%)』が最も高く、『⑤ 遊園地やテーマパークへ行く(83.8%)』、『② 博物館・科学館・美術館に行く(78.2%)』が続いている。

「金銭的な理由でない」の割合も、『⑥ 旅行(国内・海外)に行く(2.5%)』が最も高くなっている。「時間の制約でない」の割合は、『① 海水浴に行く(18.3%)』、『③ キャンプやバーベキューに行く(15.3%)』で高くなっている。

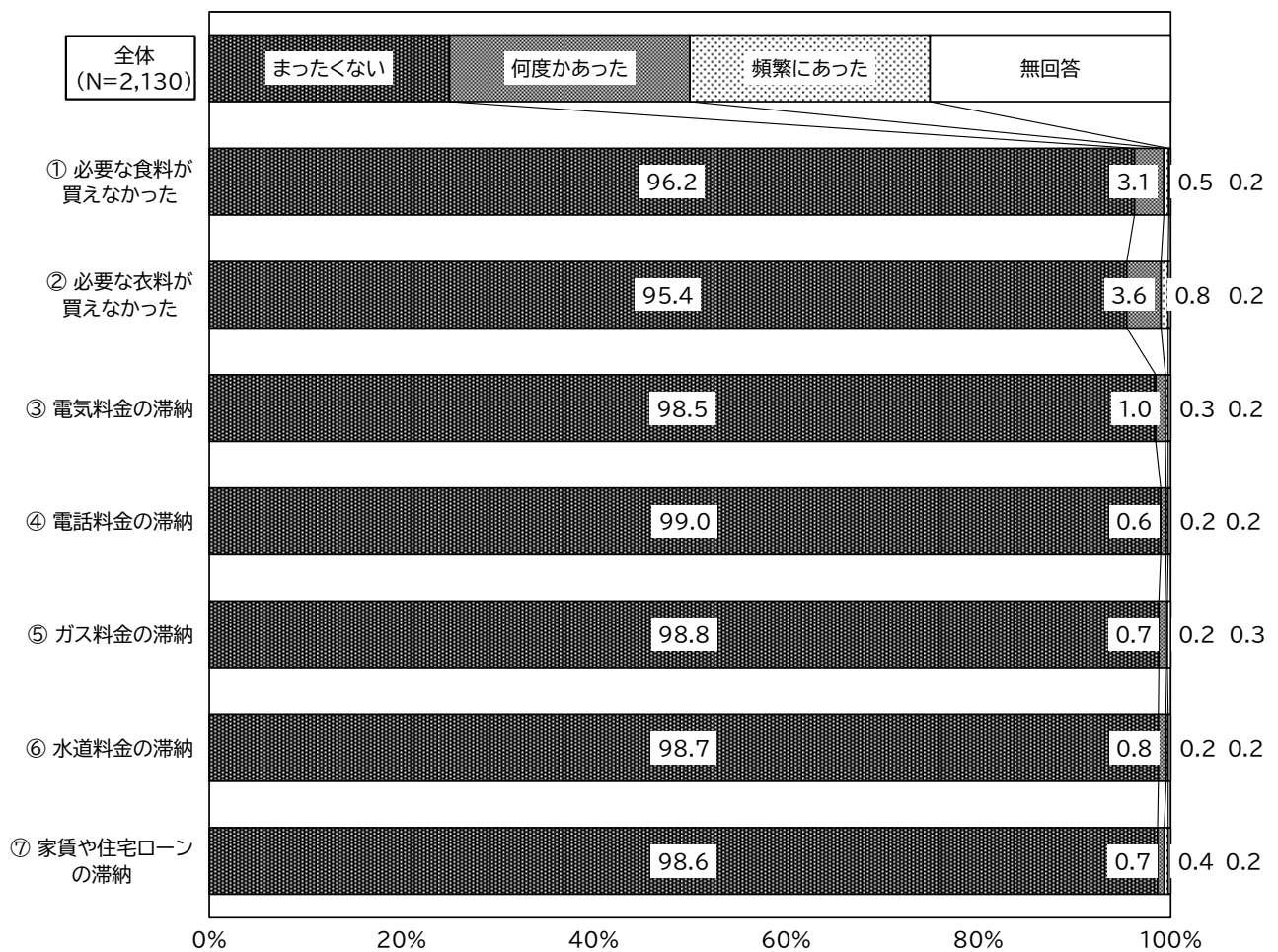


## (9) 経済的な理由による困窮経験

経済的な理由による困窮経験について、《あった》(「何度かあった」と「頻繁にあった」の合計)の割合は、『② 必要な衣料が買えなかった(4.4%)』で最も高く、『① 必要な食料が買えなかった(3.6%)』、『③ 電気料金の滞納(1.3%)』が続いている。

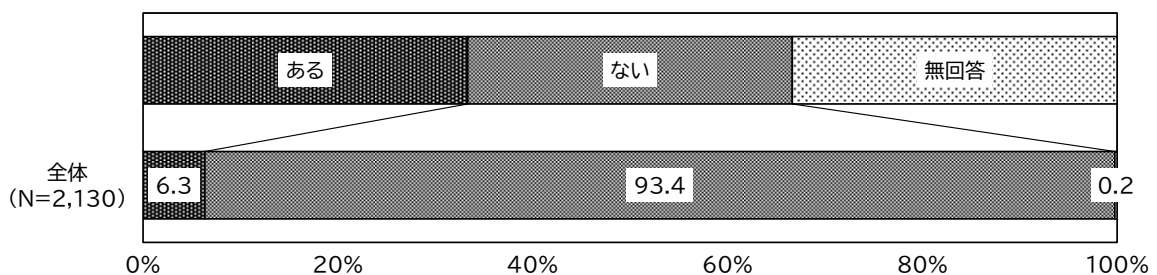
経済的な理由による困窮経験の有無は、「ある」が 6.3%となっている。なお、困窮経験の①～⑦の項目で、1つでも「何度かあった」と「頻繁にあった」と回答した人を「ある」としている。

経済的な理由による困窮経験(全体)【経年比較】



経済的な理由による困窮経験の有無(全体)

<経済的な理由による困窮経験の①～⑦の項目で、1つでも「何度かあった」もしくは「頻繁にあった」と回答した人を「ある」としている>





---

中央区  
子育て支援に関するニーズ調査  
調査報告書【概要版】

---

令和6(2024)年3月発行  
発行:中央区 福祉保健部 子育て支援課  
〒104-8404  
東京都中央区築地一丁目1番1号  
電話 03-3546-5444  
調査:株式会社生活構造研究所  
〒102-0083  
東京都千代田区麹町2丁目5番地4  
電話 03-5275-7861

刊行物登録番号  
5-107